

腸ヲ行ヒ皮膚ノ強制刺戟ヲ試ミ或ハ刺絡ヲ行ヒ或ハ喉頭鏡ヲ運用シテ腫脹部ノ亂刺ヲ行フ等其通則ニシテ最後療法ニハ氣管切開ヲ施スベシ

○ 旃那浸 (一〇、〇) 五〇、〇  
 純精酒石 一〇、〇  
 覆盆子舍 二〇、〇  
 右調和其半量ヲ頓服セシム

○ 氣管及ビ氣管支ノ分泌物多量ナル時ハ  
 吐根浸 (二、〇) 八〇、〇  
 吐酒石 〇、二  
 覆盆子舍 二〇、〇

○ 鹽酸亞剝莫兒比涅 〇、一  
 佩里設林 二、〇  
 餾水 八、〇  
 右調和注射料每回アラワツツ氏  
 皮下注射器一筒

○ 急性肺水腫 *Oedema pulmonum acutum.*

エデマ、アルモイヌム、アクトツム

(原因) 心臟病、腎臟病、脚氣、全身水腫、肺炎、肺癆、癌腫、傳染病是ナリ  
 (診候) 呼吸困難、吸氣短縮、呼氣延長、喘鳴、咳嗽、稀薄泡沫咯痰、肺濁音、濕性捻髮音、全身「チアノーゼ」  
 (豫後) 疑  
 (療法) 興奮藥ノ皮下注射及内服(カンフル、エーテル)皮膚摩擦法ヲ行ヒ胸部及背

部ニ大ナル發泡劑或ハ芥子泥ヲ貼シ又氷水或ハ醋水ノ灌腸ヲ施ス○發作經過後ニハ祛痰劑(吐根)ヲ與ヘ腎臟病アルトキハ兼ナルニ利尿劑心臟病アルトキハ實莖葉「ストロファンツス」丁チ處方ス

- 樟腦 一、〇
- 阿列布油 九、〇
- 吐根浸 (〇、六) 一八〇、〇
- 單舍 二〇、〇
- 右每二時一食匙
- 亞兒尼加花浸 (七、五) 一五〇、〇
- 安母尼亞茴香精 二、五
- 橙皮舍 一五、〇
- 右每時一食匙
- 亞兒尼加花浸 (二、〇) 一五〇、〇
- 醋酸依的兒 二、〇
- 橙皮舍 一五、〇
- 右調和每半時一食匙
- 吐根浸 (〇、八) 二〇〇、〇
- 安母尼亞茴香精 三、〇
- 吐酒石 五、〇
- 橙皮舍 二〇、〇
- 右調和每時一食匙
- 安息香酸 〇、三
- 樟腦
- 金硫黃 各〇、〇五
- 白糖 〇、五
- 右一包トナシ十包ヲ與フ每二時一包
- 醋酸依的兒 五、〇
- 馨香 〇、五
- 白糖 二、〇
- 右每半時十滴ヲ與フ

急性肺水腫



右研和散五包ニ作り毎時一包

○ 依的兒

濃厚酒精

○ 鹽水

○ 覆盆子舍

右調和毎時一食匙

○ 實莖葉浸

○ 醋剝液

○ 海葱醋蜜

各五、〇

一五〇、〇

一五、〇

(〇、五)一二〇、〇

各一五、〇

右調和二時二食匙

○ 實莖葉浸

○ ストロファンツス丁

○ 醋剝液

○ 橙皮舍

右每二時一食匙

○ ストロファンツス丁

右一日三回毎五乃至十五滴

二、〇

各二〇、〇

二〇、〇

二〇、〇

○ 臍炎 Omphalitis.

オンファリチス

(療法) 微温湯或ハ茶劑ヲ用非テ患部ヲ丁寧ニ洗滌シ又或ハ單ニ澱粉若クハ之レト

沃度防護トノ混和劑ヲ撒布シ或ハブルンス氏綿花ヲ挿入シ或ハ注意シテ擦

製硝酸銀ノ腐蝕ヲ行フベシ壞疽狀ヲ呈スルトキハ消毒藥ヲ用フルコト勿論

ナリトス○豫防法ニハ臍帶ヲ短ク切斷シテ之レヲ乾燥清潔ナラシメ且ツ其

臍帶及ビ之レニ用フル器械ヲ消毒スベシ

○ 虞拉兒度氏水

右外用

二〇〇、〇

○ 鉛醋

五、〇

○ 鹽水

二〇〇、〇

右調和繙帶水

○ 石炭酸

○ 鹽水

右調和洗滌料

○ 樟腦

○ 亞刺毘亞護膜漿

○ 鹽水

右調和外用

○ 撒酸

○ 澱粉

右研和散布藥

○ 酸化亞鉛

○ 緩和軟膏

○ 右調和軟膏ニ作り貼用

○ 硼酸

○ 澱粉

右研和散布料

三〇、〇

二、〇

一〇、〇

一〇、〇

一〇、五

一〇、〇

○ 寄生性爪炎 Onychomycosis.

オンキョミコーシス

(原因) 多クハ「トリヒョヒートン」、「トンズランス」或ハ「アヒヨリオン」、「シエー

ンライニー」

(診候) 爪甲ノ表皮剝離或ハ爪甲面横隆起ヲ發生シテ其發育ヲ妨ゲ終ニ爪甲實質ノ

糊狀軟化ヲ來ス

(療法) 軟化セル爪ヲ削リ一%昇汞精ヲ塗布シ撒酸硬膏或ハ水銀硬膏ヲ貼用ス

○ 水銀硬膏

右外用

二〇、〇

○ 五%撒酸硬膏

右外用

臍炎 寄生性爪炎



○昇赤  
酒精

一、〇〇、〇〇

右調和塗布料

○卵巢炎

Oophoritis

キホウケム

(原因) 急性ノ者ハ感冒、麻疹蔓延、産褥熱、腹膜炎、子宮外膜炎、子宮内膜炎、喇叭管炎等慢性ノ者ハ麻疹、房事過度、腔加答兒、子宮内膜炎等ナリ  
(診候) 急性ノ者ハ其原病ノ症状ヲ以テ蔽ハル、有ルガ故ニ特徴ヲ示ス能ハズト雖モ皆患側ニ劇痛ヲ發ス慢性ニアリテハ直立位ノ動作ニ於テ殊ニ著シキ卵巢部ノ劇痛、便秘、食思缺損(睡眠不安、卵巢ノ起腫増大ヲ來タス)而シテ疼痛ハ壓迫、交接、月經時ニ増劇ス

(豫後) 概子良

(療法) 急性ナル者ニハ普通冷罨法ヲ用フト雖モ温罨法ヲ用ヒテ其効有ル者却テ多シ凡テ安息靜止ヲ守ラシメ而ソ内服ニハ緩性鹽類下劑ヲ投シ又疼痛ニハ莫兒比涅或ハ阿片ノ坐藥ヲ用ヒ或ハ阿片劑ニ浸セル綿球ヲ用ヒテ子宮ノ頸部ニ挿入シ若シ同時ニ白帶下ヲ認ムルハ小心注意シテ緩性ノ注射藥ヲ注射シ交接ヲ禁ズルカ若クハ之ヲ節限セシムル等○慢性炎ニハ沃丁、イヒチチホルルレノ塗布、温坐浴、腔灌注法等  
イヒチチチホル 一〇〇、〇〇  
偏里設林 一〇〇、〇〇

- 右綿花腔「タンボン」ニ浸シ送入
- イヒチチチホル 一〇、〇〇
- 可溶性銀 五、〇〇
- 偏里設林 一〇〇、〇〇
- 右同上
- 印度大麻越 〇、二〇
- 水製阿片越 〇、五〇
- 樟腦 一、〇〇
- 右研和丸十粒ニ作り每發作一粒
- 臭剝 二、〇〇
- 苦丁 一、〇〇
- 硫酸麻屈涅叟謨 一〇、〇〇
- 留水 一〇〇、〇〇
- 右調和一日三回分服
- 古埵乙涅 一、〇〇
- 龍膽越 各適宜
- 甘草及同蒸 各適宜
- 右三十粒ニ作り毎日二乃至三粒

○辜丸炎

Orchitis

チルコチ

(原因) 淋毒或ハ結核、梅毒、外傷、尿道狹窄、攝護腺病、膀胱加答兒、流行性耳下腺炎、膿毒症、痘瘡、或ハ一種不明ナル原因ニ來ル  
(診候) 淋毒ヨリ來ル者ハ副辜丸ニ次テ侵サレ腫起疼痛共ニ大ナリ梅毒ヨリ來ル者ハ腫起疼痛共ニ小ニシテ其護謨腫性ナル者ハ經久梅毒ニ來リテ終ニ破潰スルモ梅毒性發疹後ニ來ル者ハ否ラズ結核性ノモノハ副辜丸炎ニ續發ス  
(療法) 其原因ヲ療シ其他對症療法ヲ施スマシ(副辜丸炎參照)

卵巢炎 辜丸炎



### ○骨髓炎 Osteomyelitis.

チステオミエリチス

(原因) 原發性傳染性急性骨髓炎ノ原因ハ主トシテ黃色醗膿葡萄球菌ノ傳染ニ因テ發ス稀レニ白色醗膿葡萄球菌ニ因ルコトアリ又以上兩種ノ混合傳染ニ因ルコトアリ又連鎖狀膿球菌ノ傳染ニ基クテアリ其骨髓ニ達スル經路ハ皮膚呼吸器消化器等ヨリ血中ニ進入スルモノナリ  
外傷性骨髓炎ハ外傷ノ際若クハ其後ニ於テ創口ヨリ醗膿菌ノ侵入スルニ因テ發ス

(診候) 中等度ノ骨髓炎ハ最モ多ク見ルトコロニシテ外傷或ハ感冒後二三日ノ間ニ於テ寒戰ヲ發シ體溫著シク昇騰シ(四十一度ニ達スルコトアリ)而シテ一骨若クハ數骨ニ疼痛ヲ發シ該部ノ軟部ハ腫脹ヲ來シ機能障害モ亦々著明ナリ○重病ニ在テハ高熱譫語等重症ノ全身症狀ヲ發シ一二日ニシテ死ス○輕症ニ在テハ全身及ビ局部ノ症狀共ニ甚シカラズ○中等度ノモノハ多ク腐骨疽ヲ發生ス

(療法) 全身及ビ局部ノ症狀著明ナルニアリテハ患部ヲ切開シ髓ト鑿トチ以テ骨ヲ溝狀ニ切開シ排膿ヲ謀ルベシ其症候劇烈ナラザル者ニアリテハ患部ヲ安靜ニシ該部ニ氷罨法若クハ溫罨法ヲ施シ骨膜ノ腫脹疼痛甚ダシキ者ニアリテハ膿汁ノ瀦溜ヲ認メザルモ患部ヲ切開シ組織ノ緊張ヲ減シ以テ疼痛ヲ緩

解シ腐骨疽ノ發生ヲ豫防スベシ  
腐骨疽ヲ發生シタル場合ニアリテハ後ニ之レガ剔出術ヲ施スベシ

### ○急性中耳炎 Otitis media acuta.

チチ・ス、メシヤ  
アク・タ

(原因) 概子鼻、咽喉ノ急性加答兒ニ併發ス(加答兒性) ○急性發疹傳染病、即チ麻疹、痘瘡、猩紅熱及實扶的里、室扶斯(化膿性)

(診候) 加答兒性ニアリテハ疼痛、耳鳴、充塞ノ感、聽覺減少ヲ發シ一日乃至數日ニシテ鼓膜穿孔分泌液ヲ排出シ諸症輕快ス、鼓膜穿孔ハ多ク前下部ニ生ズ、○化膿性ニアリテハ劇痛、耳鳴、頭痛ヲ發シ小兒ニアリテハ發熱、譫語ヲ發スルコトアリ數日乃至二週ニシテ穿孔排膿ス其後諸症輕快スルヲ常トス

(療法) 精神ノ感動身體ノ運動等凡テ疼痛ヲ増サシムル諸件ヲ避ケ緩下劑ヲ投シシカラズ鼓膜ノ潮紅、輕度ノ腫脹アルモノニハ綿花ヲ以テ外聽道ヲ閉ザブリースニツツ氏罨法ヲ行フ劇痛アルモノニハブロー氏液ノ溫罨法ヲ用フ溫罨法ヲ用フルモ尙ホ疼痛ノ甚ダシキハ鼓膜穿孔術ヲ施スベシ外聽道ノ洗滌ハ炎症ノ緩解後之レヲ行フベシ乳嘴突起ノ炎症アルトキハ外科的手術ヲ要ス

○ブロー氏液 四〇〇、〇一

右溫罨法料用法二時間「ガーゼ」

骨髓炎 急性中耳炎



ヲ取り替へテ耳及乳嘴突起部ヲ  
温ムベシ二時間後休止更ニ反覆  
スベシ

右洗滌料  
尙ホ通常同時ニ鼻加答兒及ビ咽喉加答  
兒ニ適當ノ療法ヲ施ス可シ

〇 三%硼酸水

四〇〇、〇

### 〇 慢性中耳炎

*Otitis media chronica*

チチ、ス、メシヤ、クローニカ

(原因) 専ラ急性症ヨリ轉スルモノナルガ故ニ急性症ニ同シ

(診候) 習慣性耳漏、重聽等ヲ發シ急性炎ニ類スル發作ヲ發ス

(療法) 分泌物ヲ洗去シ硼酸末若クハ明礬末ノ吹入ヲ處ス (急性炎參照)

### 〇 外聽道炎

*Otitis externa*

チチ、ス、エキス  
テルナ

(原因) 醜膿菌ノ侵襲ニ因ル

(診候) 局處性(外聽道癰瘍)ニアリテハ皮膚潮紅、腫起、疼痛ヲ發シ其頂點ニ黃色ノ膿點ヲ現ハシ次デ破潰排膿ス初期ヨリ破潰ニ至ルマテ疼痛劇甚ニシテ不眠症ヲ發スルコト少カラズ而シテ屢々數個相續テ發生ス〇汎發性ノモノハ緊張、灼熱、搏動、耳鳴、劇痛ヲ伴ヒ口ヲ開クトキハ更ニ疼痛ヲ増ス通常三四日ノ後諸症輕快ニ向フモノトス分泌ハ初メヨリ増加シ漿液性ヨリ漸次膿性

トナル

(療法) 外聽道癰瘍ニアリテハ速カニ切開シ防腐的ニ處置スベシ、患者切開ヲ忌ムトキハ「水銀石炭酸硬膏誤兒」ノ小片ヲ貼シ或ハ單ニ水銀硬膏或ハ石炭酸水ニ浸シタル栓塞ヲ施スベシ

汎發性ノモノニハ一〇%醋酸礬土水或ハ一〇%酒石酸醋酸礬土ニ浸シタル綿花栓塞ヲ施シブリースニツツ氏罷法ヲ行ヒ安靜ヲ命ズ又タ充血ノ劇甚ナルモノニハブロー氏液ノ溫罷法ヲ用フベシ(急性中耳炎參照)而シテ分泌ヲ減ズルニハ硼酸水ノ洗滌ヲ行ヒ硼酸末ヲ吹入スベシ

〇 醋酸礬土液

一〇〇、〇  
四〇〇、〇

右微温トナシ外聽道ニ注入シ十分ノ後流出セシムベシ一日三回

### 〇 卵巢囊腫

*Ovarialcystom.*

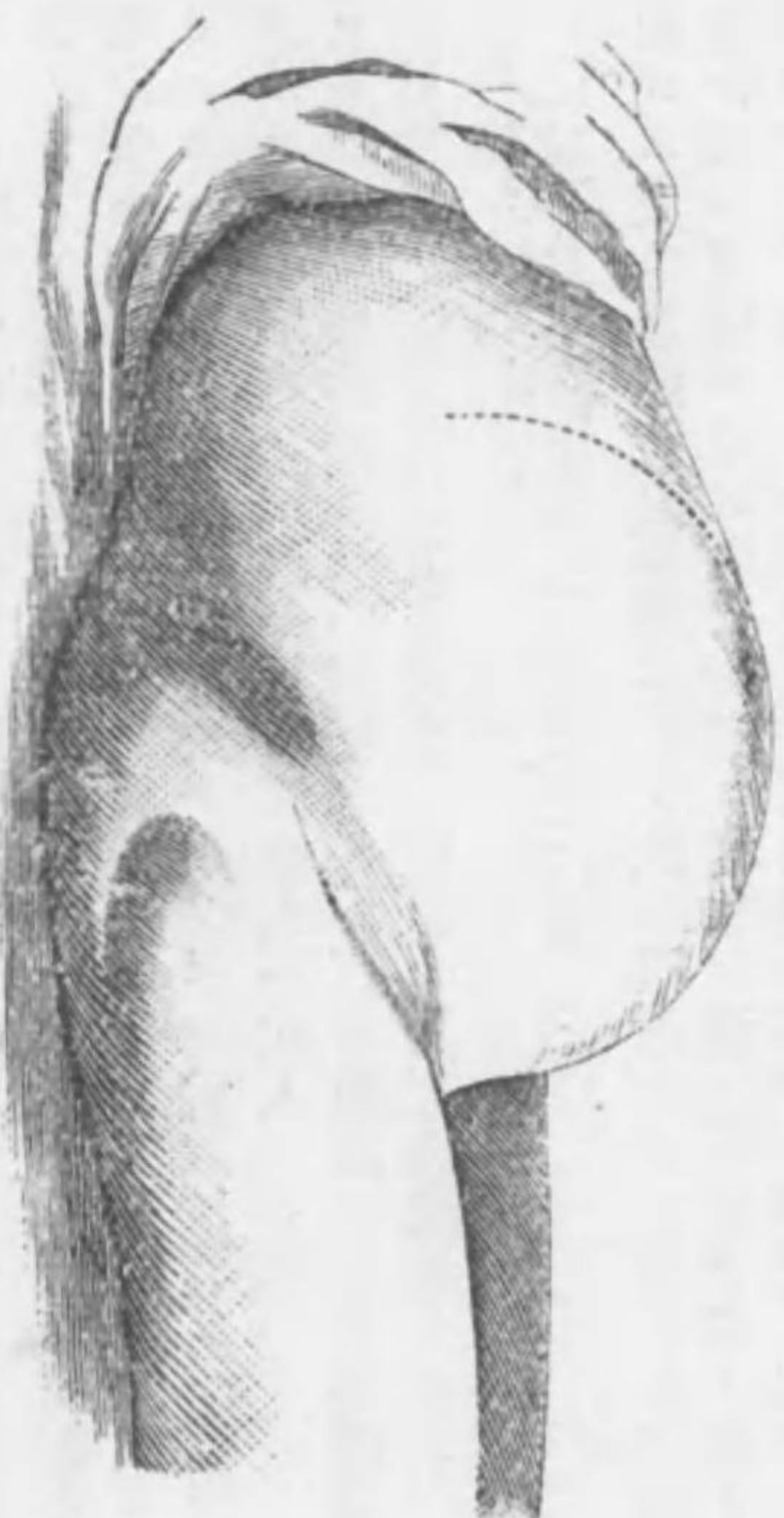
オヴァリアール、キストーム

(原因) 患婦始メニ床中急遽體位ヲ變ズルノ際下腹内ニ球ノ轉ズルガ如キ感ヲ覺エ次テ腸骨部ニ腫瘤ヲ認メ漸次上方ニ増大シ遂ニ妊娠子宮ノ如クニシテ平等ニ波動ヲ有ス打診ニハ各體位皆ナ腹前壁ニ濁音ヲ側壁ニ鼓音ヲ呈ス腫瘍ヲ移動スルコト大ナルトキハ子宮モ稍ヤ移動スルモ腫瘍ト子宮ハ固着スルコトナク子宮ノ大サ常ノ如シ大サ妊婦子宮ニ超エルトキハ腸胃ヲ壓シ營養ヲ害シ肺ヲ壓シテ呼吸ヲ妨ゲ衰弱シテ死ス或ハ惡性腫瘍例令痛腫ニ變性シ惡

慢性中耳炎 外聽道炎 卵巢囊腫



圖 十、三 第



腫 囊 集 卵 房 單

圖 一、三 第

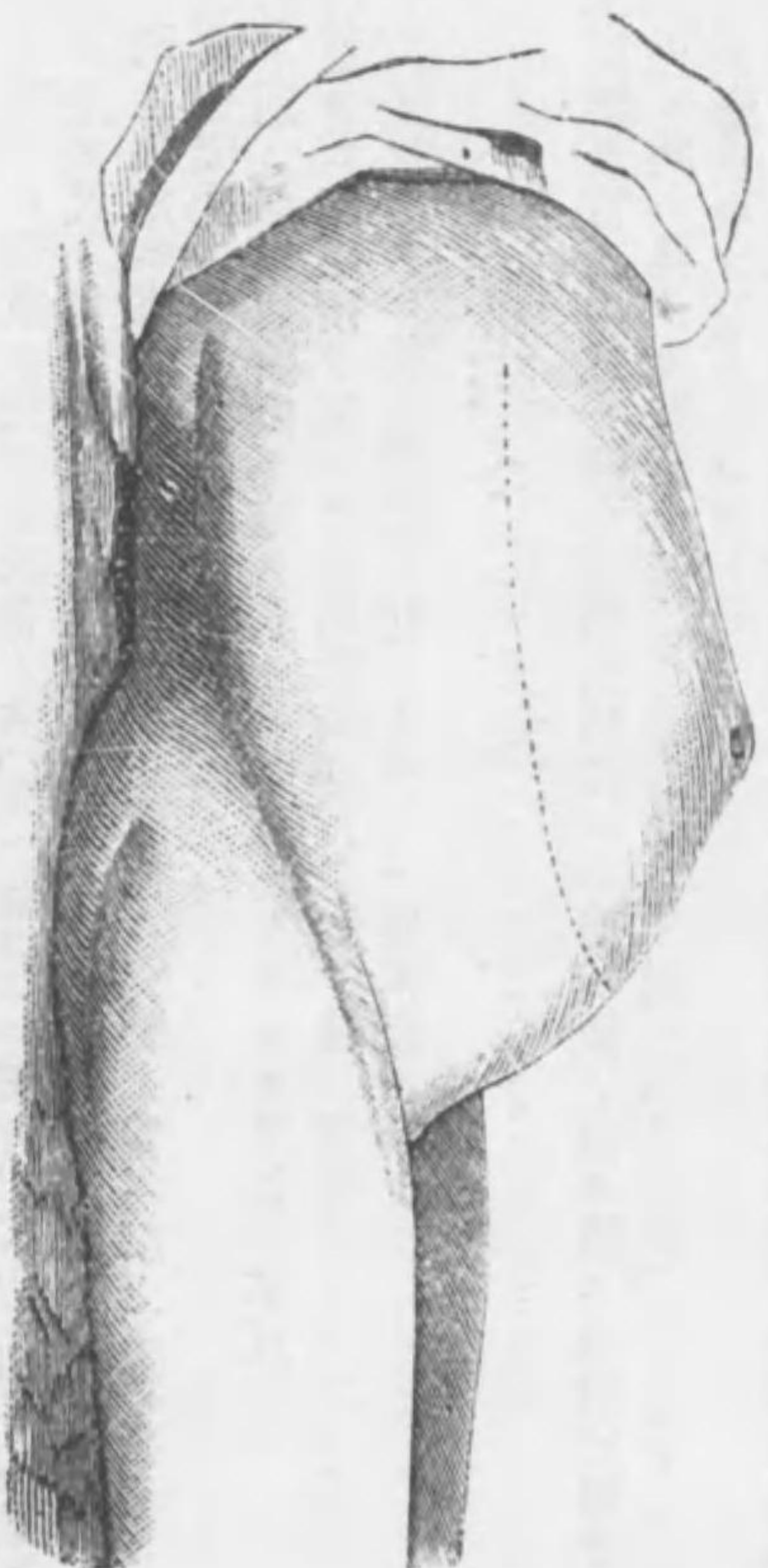


圖 水、下 以 線 點

卵 巢 囊 腫



液質ニ陥リテ仆ル又々囊腫ノ破裂或ハ莖ノ捻轉ニ由テ急性腹膜炎ヲ發シテ死ス

(診候)「ヒステリー」患婦ノ摸像腫瘍ハ打診上鼓音ヲ呈シ麻醉中ニハ消失ス○腹水ニ在テハ仰臥ニ於テ打診音上方(即チ前壁)ニ鼓音、下方(即チ側壁)ニ濁音ヲ呈ス又々側臥ニ於テハ上方ノ側壁ハ常ニ鼓音ヲ下部ハ濁音ヲ呈ス其他視診上腹水ニ在テハ前壁平坦ニシテ兩側ニ突隆シ(第三十一圖)囊腫ニ在テハ前壁突隆ス(第三十圖)

(豫後)早期ニ卵巢切除術ヲ施ストキハ不長ナラザルモ其他ハ不長  
(療法)速カニ開腹術ヲ施シ卵巢切除術ヲ行フベシ他ニ重病アリテ之ヲ行フコト能ハザルモノニ於テ呼吸ヲ妨グルモノハ穿刺術ヲ行フ

○ 蟯蟲 *Oxyuris vermicularis.* オキシウリス ヴエルミクワリス

(原因)直腸及盲腸内或ハ腔内ニ寄生發育スル絲屑様ノ觀ヲ呈スル白色短小ノ圓蟲ナリ雌ハ長サ九乃至十三「ミリメートル」雄ハ三乃至四「ミリメートル」ニシテ腸蟲中ノ最小ナル者トス

(診候)便中ニ蟲及其卵ノ發見、肛圍ノ癢痒便意頻數、便通不整、小腹一定部ノ壓重及疼痛、腔粘膜ノ加答兒潰爛等ナリ  
(豫後)良

圖二十三第



(療法)豫防法ニハ手殊ニ爪ノ清潔法ヲ嚴ニス可シ○冷水ノ灌腸ヲ以テ治効ヲ奏スルコト屢々之レアリト雖ヒ亦之レニ藥劑ヲ加入スルヲ宜シトス○治方中最モ實用スル所ノ者ハ乳汁ニ混和セル大蒜末ノ灌腸ナリトス其他石灰水、食鹽溶液或ハ石炭酸水(各百乃至二百倍ノ者)ノ灌腸ヲ行フ等

右方ニ有ルハ雄蟲ニシテ其自然大ハ四「ミリメートル」左方ハ雌蟲ニシテ十「ミリメートル」長サヲ有ス雄ハ其尾尖ヲズ雌ハ其尾尖レリ

- 肝油 四〇、〇
- 卵黃 一個
- 藥用石鹼 五、〇
- 右乳劑トシ灌腸一回分、本法無効ナルニ於テハ更ニ唯肝油ノミ
- 右調和八日間毎日一回一半乃至

蟯蟲



○ 三、〇  
三、〇  
三、〇

○ 肝油  
五〇、〇

○ 水銀軟膏  
右肛圍塗擦料（肛圍癢痒アルトキ）

○ 惡臭鼻漏

一名腦漏 Ozena. オツエナ

（原因）急性鼻加答兒ノ不攝生、梅毒、腺病或ハ結核質ノ人ニ多シ  
（診候）鼻粘膜ノ腫起、灰白變色、靜脈怒張及分泌物ノ惡臭等ナリ  
（豫後）原因異ナルニ從テ一定セズ  
（療法）單純ノ慢性分泌過多ナル鼻加答兒ニハ吸入水ヲ用ヒ或ハ溫亞爾答亞煎ノ注

入ヲ行フ可シ○成形過多性及ビ萎縮性ノ者ニハ百倍ノ食鹽溶液ヲ注入シ痲  
皮ヲ除去ス可シ又々紅熱ヲ應用スルコト有リ○梅毒、腺病等ノ原因療法  
ヲ行ヒ又壞疽性骨片、息肉等ノ有無ヲ搜ル可シ吸入水ヲ用フルニ當リテ鼻  
中潰瘍ノアル者ニハ其點注法ヲ最モ適當ナリトス

○ 格魯兒酸加留膜 二、〇  
日二回吸入用  
○ 明礬末 五、〇  
白糖 二〇、〇  
右研和細末ニ作り紙盒ニ入レ毎

卵黃 一個  
右乳劑トシ灌腸二回分 一、二〇、〇  
其他水銀軟膏一万倍昇汞水ヲ用フ

○ 卵黃 一個

○ 右乳劑トシ灌腸二回分 一、二〇、〇

其他水銀軟膏一万倍昇汞水ヲ用フ

○ 格魯兒酸加留膜 二、〇  
白糖 二〇、〇  
右研和細末ニ作り紙盒ニ入レ毎

○ 右調和用法同上

○ 沙莫爾 一、〇

○ 鞣酸 〇、二

○ 鞣酸 〇、一

○ 鞣酸 四、〇

○ 右吸入料（毎時吸入但シ半日ヲ  
超ユルヲ許サズ）

○ 樟腦末 各一〇、〇

○ 白糖 各一〇、〇

○ 右調和用法同上

○ 沃度仿謨 〇、二

○ 亞拉昆亞護謨末 一〇、〇

○ 右研和細末ニ作り吸入用毎日三  
乃至五回（鼻腔洗滌後ニ用フ）

○ 沃度爾 二〇、〇

○ 右研和末ニ作り吸入料

○ 沃度仿謨 〇、三

○ 華設林 三〇、〇

○ 右調和軟膏ニ作り鼻腔内塗布

○ 格魯兒石灰 五、〇

○ 格魯兒酸加留膜 五〇〇、〇

○ 右調和吸入水 五、〇

○ 格魯兒酸加留膜 五〇〇、〇

○ 右調和吸入水 二、〇

○ 沃度加留膜 〇、一

○ 沃度 五〇〇、〇

○ 右調和吸入水（殊ニ梅毒性）

○ 苛性安母尼亞水 各五、〇

○ 石炭酸 一五、〇

○ 再留酒精 一〇、〇

○ 右調和每回五滴ヲ吸墨紙ニ點シ  
テ之ヲ吸入セシム

○ 散酸 四、〇

惡臭鼻漏



○ 硃砂	六、〇	○ 偏里設林	二〇、〇
○ 偏里設林	七五、〇	○ 右調和洗滌用、後偏里設林二五、〇	
○ 偏里設林	二〇〇、〇	○ 水七五、〇ノ液ニ浸シタル綿製栓塞ヲ行フコト一時間	
○ 過滿俺酸加留膜	〇、二	○ ソゾヨドール亞鉛	一、〇
○ 右調和吸入用	五〇〇、〇	○ 偏里設林	各一〇、〇
○ ベタ、ナフトール	六、〇	○ 右塗布料(強度ノ腫脹及分泌)	
○ クイルラヤ丁	四四、〇	○ 鹽酸古加乙涅	一、〇
○ 偏里設林	二〇〇、〇	○ 右調和用法同上	
○ 右調和棉花製栓塞ニ製シ鼻中ニ挿入シテ十五分時間放置ス		○ 知母爾	〇、二五
○ 醋酸酒石酸礬土	各一〇〇、〇	○ 偏里設林軟膏	一〇〇〇、〇
○ 右調和用法同上		○ 右調和軟膏ニ作ル	五〇、〇
○ 鹽剝	四、〇	○ 結晶硝酸銀	〇、一乃至〇、五
○ 偏里設林	二〇〇、〇	○ 右調和桿錠十個ニ作リ鼻「プー」	適宜
		○ シーレトナス(徹夜鼻内ニハ挿置スベシ)	
		○ 硫酸銅	〇、一乃至〇、三
		○ 右調和製作用法同上	適宜
		○ アリストール	五、〇
		○ 右吸入料	

劑等ヲ内服セシム可シ

○ 石炭酸	五、〇	○ 結晶硝酸銀	〇、一乃至〇、五
○ 再留酒精	一五、〇	○ 右調和桿錠十個ニ作リ鼻「プー」	適宜
○ 苛性安母尼亞水	五、〇	○ シーレトナス(徹夜鼻内ニハ挿置スベシ)	
○ 偏里設林	一〇、〇	○ 硫酸銅	〇、一乃至〇、三
○ 右調和二三滴ヲ吸墨紙ニ點シテ之ヲ吸入セシム(共栓或ハ栓蓋		○ 右調和製作用法同上	適宜
○ 瓶中ニ貯フベシ)		○ アリストール	五、〇
○ イヒチオール	一〇、〇	○ 右吸入料	
○ 蓖麻子油	二〇、〇		
○ 酒精	一〇〇、〇		

○ 瘰癧 Panarium. マナリチウム

(原因) 指趾足趾手掌ノ小創ヨリ醗膿球菌ノ侵入ニ因ス  
 (診候) 趾趾面或ハ指掌面ノ腫起、緊腫、劇痛及ビ炎症ノ皮下蔓延等ナリ動モスレバ  
 腫鞘炎ヲ起スコトアリ  
 (豫後) 良  
 (療法) 可及的初期ニ防腐切開法(細キ護膜管ヲ以テ指ヲ緊縛シ一%古加乙涅水一

瘰癧



筒ヲ指根部ノ前後左右ノ四ヶ處ニ分チテ注射シ五分間ヲ經テ切開スルヲ可トス又々價ノ高キヲ厭フナクンバ「エチールクロリド」ノ局處麻醉ヲ用フ）ヲ施シテ組織ノ緊張ヲ減シ且ツ排膿ヲ便ナラシム可シ而シテ安靜副木或ハ前腕緊帶ヲ用フ○腐敗性癰疽（傳染ニ因ル）ハ之レヲ切開シテ百倍ノ昇汞ヲ用井テ腐蝕シ而シテ繃帶ヲ施ス可シ

○角膜パンヌス *Pannus* パンヌ

(原因) 過半「結膜トラホーム」ニ續發ス其他腺病性結膜炎、乳嘴充血性加答兒等  
 (診候) 角膜ノ上縁ニ始リ下方ニ蔓延スル角膜ノ血管新生表層炎ナリ漸次ニ潤濁シテ潰瘍或ハ顆粒滲出ノ地トナル  
 (豫後) 虹彩炎潰瘍等ヲ發スレバ不長ニシテ概テ失明ス、然ラザルモノハ良  
 (療法) 其原因「トラホーム」ニ在ルヤ或ハ腺病性結膜炎ニ在ルヤヲ明ニシ甲ニ在テハ硫酸銅ヲ用ヒ乙ニ在テ刺戟ノ過敏ナル者ニハ亞篤羅必涅ヲ用ヒ是レニ反スル者ニハ甘汞ヲ用フ可シ○陳舊ノ「パンヌス」或ハ粘膜ニ「トラホーム」性ノ贅生物ヲ發セザル者或ハ結膜ノ癢痕性收縮ニハシグレ氏ノ噴霧器ヲ用井テ藥液ヲ撒布スルカ或ハ人工膿漏術ヲ施シ或ハ「セイグリチ子」浸ノ洗滌ヲ行ヒ或ハ角膜周擁切除術、亂刺術、燒灼法等ヲ施スコトアリ

○ 泊芙蘭加阿片丁 各一〇、〇  
 鹽水

○ 右調和撒布用 炭酸那篤留膜 鹽水	一、〇 二五、〇	○ 硫酸銅 偏里設林	一、〇 二〇、〇
○ 右調和撒布用 硫酸銅 鹽水	一、〇 二〇、〇	○ 硝酸銀 鉛醋 華攝林	〇、四 八滴 八、〇
右調和撒布用		右混和一日一回點眼料	

○麻痺 *Paralysis* パラリシス

(原因) 腦脊髓系統ノ栓塞、血栓、腫瘍、軟化、頭骨ノ疾病、鉛中毒、脊髓硬結或卒中、脊椎骨癆、反射的刺戟、及神經ノ壓迫挫傷、出血、寒冒、窒扶斯、梅毒、結核、比斯的里、急性發疹等ナリ  
 (診候) 全身、半身若クハ局所ニ現ハル、隨意筋ノ運動廢止該部ノ厥冷、脂肪變性、神經萎縮等  
 (療法) 普通本病ノ原因トナルベキ事項ニ注意シテ之ヲ除キ而シテ大抵溫浴及ヒ蒸氣浴ヲ用井テ効有リ然レニ冷水灌漑或ハ冷水浴法ノ却テ其効ヲ奏スル場合モ少ナカラズ其他ニハ飲食ノ攝生、電氣療法、適當時期ノ按摩法「モール」越幾斯浴等ヲ行フベシ

角膜パンヌス 麻痺



○ 硝酸斯篤利幾尼涅  
嘔囉仿謨

○、一  
三〇〇

○ 硝酸斯篤利幾尼涅  
白糖

○、〇二  
二、〇

右調和塗擦料

○ 蕃木龜越

○、〇二

○ 硝酸斯篤利幾尼涅  
一包

○、〇五  
三、〇

葛蒲根末及同越

各適宜

○ 硝酸斯篤利幾尼涅  
縮水

○、〇五  
三、〇

右調和丸二十粒ニ作り一日三回  
每一粒

右皮下注射用一日三回每十滴

○ 振顫麻痺

*Paralysis agitans.*

パラリーシス  
アヂダンス

(原因) 四十年以上ノ人ニ來ル病ニシテ脊髓硬變、卒中、脊椎骨瘍、寒胃、神經感動、  
神經損傷、火傷、窒扶斯等ナリトス

(診候) 當初ハ右手次テ四肢隨意筋運動ノ漸次(手腕、膊等最多)減損、肢筋ノ振顫運  
動ヲ起シ筋強硬シテ面貌不變トナリ頭首前ニ傾キ四肢軀幹ノ筋モ亦強硬シ  
テ特色ノ形狀ヲ呈スルニ至ル

(豫後) 不良ニシテ治シ難シ

(療法) 原因療法ヲ專ニシテ而シテ冷水療法電氣療法或ハ按摩法ヲ行フベシ

○ 亞砒酸加爾謨液

二、〇〇

右調和毎日半筒皮下注射

〇、〇二

縮水

四、〇〇

○ 勿拉篤里涅

〇、〇二

甘草末及同煮

各適宜

右調和丸四十粒ニ作り石松子末

ヲ衣トナシ朝夕毎二粒

○ 硫酸亞篤羅必涅

〇、〇〇五

○ 菲沃斯矢亞密涅

〇、〇二

縮水

一〇、〇

甘草末及同

適宜

右毎日一筒皮下注入料

○ 進行性麻痺

*Paralysis progressiva.*

パラリーシス  
プログレスィブ

(原因) 遺傳、精神感動、勞働過度、寒胃、過房、飲酒過度高齡ニ發スルヲ常トス

(診候) 頭痛、言語不隨、口吃、舌癢、咀嚙及嚙下困難、開口、「パピプムボ、マミムメ  
モ」等口唇音ノ不隨、流涎等ナリ

(療法) 前驅期ニ在テハ殊ニ心身ノ勞働ヲ禁ズベキモノナルガ故ニ全ク其職業ヲ廢  
シ精神ヲ安逸ニシ酒色ヲ戒メ而シテ空氣ノ善良ナル地方ニ退キ閑散ナル生  
活法ヲ營マシム可シ○藥石ニハ沃度及ビ臭素加里ヲ與ヘ頭痛ニハ冷電法ヲ  
行ヒ或ハ莫兒比涅ヲ投シ不眠ニハ麥酒或ハ「バルアルデヒド」ヲ與ヘ又持  
長浴或ハ溫包等ヲ試ムベシ興奮ノ甚シキ者ニハ菲沃斯矢亞密涅、鞣酸、「カ  
ンナビン」等ノ内服或ハ莫兒比涅ノ皮下注射ヲ行ヒ癲癇狀及ビ卒中狀發作  
ニハ冷電法及ビ適當ノ方法ヲ擇ビ發作頻數ナルモノニハ抱水格魯拉爾ヲ用  
ヒ既ニシテ麻痺甚シキ者ニハ皮膚ノ清潔法ヲ嚴ニシ嚙下困難ニハ其飲食ニ

振顫麻痺 進行性麻痺



注意シテ只液状食物ノミ與フルヲ最良トス

○偏執狂 *Paranoia* バラニイア

妄想狂 *Verrücktheit* フェルルニツクハイト

(原因) 遺傳、貧血、慢性亞爾爾保爾中毒、誘因ハ饑餓、長期間ノ授乳、慢性胃病、結核、頻回産褥、失血、房事過度、間歇熱、窒扶斯、急性關節癱瘓質斯、肺炎、精神過勞、驚愕、苦心等ナリ

(診候) 幻覺、妄想觀念ヲ以テ主徴トナス幻覺ナクシテ錯覺ノ存スルコトアリ或ハ想覺ニ錯覺ヲ伴フコトアリ妄想觀念ハ追跡妄想、誇大妄想ヲ多シトシ時トシテ心氣忘想、罪業忘想アルコトアレハ蓋シ尠ナシ區別シテ急性幻覺性妄想(感覺障害、聯合障害、感動障害、妄想覺念昏迷、然ラザレバ激越ヲ呈スルモノニシテ初メ不眠、頭痛、眩暈、耳鳴、眼火閃發、過敏或ハ抑鬱或ハ恐怖ヲ發スルコト一日乃至二日ニシテ俄然幻覺峰起シ其種類ニ從テ或ハ昏迷ノ狀ヲナシ或ハ激越ノ狀ヲナスコト三乃至九ヶ月ニシテ八乃至十時間ノ間ニ諸症全ク消散シテ治シ或ハ漸次治ニ赴キ或ハ叡智ノ減少ヲ殘シ或ハ癡狂ニ陥リ死去ス) ○慢性幻覺性妄想狂(諸症急性ニ同シキモ其發生極メテ慢性ニシテ特ニ幻聽ヲ發シ聯合及ビ感動障害ハ通常著明ナラズ) ○急性單純性妄想狂(原發性多數ノ妄想觀念ヲ有シ無限ノ誇大妄想及追跡妄想等ヲ發シ妄想固着スルコト

トナクシテ轉變極リナク多クハ一二週ニシテ全治スルヲ常トス) ○慢性單純性妄想狂(前驅期ハ一二ヶ月稀ニハ數年ニシテ初メ不眠症ヲ發シ不安ヲ感シ他人ノ舉動言語ヲ窺ヒ狐疑ヲ發ス次テ追跡妄想期ニアリテハ追跡妄想固着シ次テ誇大妄想期ニ達シ追跡妄想ニ兼メルニ誇大妄想ヲ發シテ妄想系統ヲ作り次テ似非麻痺狂ニ至ル)

(療法) 其全身症狀ニ注意シテ便通ヲ利シ興奮ノ甚シキ者ハハ親羅謨加留謨、莫兒比涅、*バルアルデヒード* (印度大麻及ビ非沃斯矢亞密涅ハ用フ可ラズ) 等ヲ用フ可ク妄想ニ起因スル斷食ニハ食道消息子ヲ用井テ滋養物ヲ送入セサル可カラズ、瀉腸モ亦可ナリ

○嵌頓包莖 *Paraphimosis* バラフ#モ一シス

(原因) 口徑狹隘ナル包皮、龜頭ノ後方ニ退縮シテ再ビ舊位ニ復セザルヨリ起ル  
(診候) 嵌頓部ノ腫起變色疼痛或ハ之ニ加ルニ間々龜頭ノ壞疽等ヲ來タスコト有リ  
(療法) 嵌頓セル包皮内板ノ腫脹輕度ナル者ハ直チニ之レヲ整復シ若シ其甚シキ者ニ遇ハバ先ノ水平位ニ仰臥セシメテ鉛水、格魯兒酸加留謨水等ノ冷罨法ヲ行ヒ炎症ノ稍々減退スルヲ待テ之ヲ整復スベシ若シ背面ニ嵌頓シ甚キ者ナルトキハ其部ヲ切開スルヲ宜トス

偏執狂 嵌頓包莖



○ 鉛水

二〇〇、〇

○ 二%硼酸水

二〇〇、〇

○ 右電法料

右電法料

○ プロー氏液

二〇〇、〇

○ 右電法料

右二法ハ整復シタル後ニモ亦電法水且ツ洗滌劑トシテ用フ

### ○ 耳下腺炎

*Parotitis*

パロチチス

(原因) 特發流行性ノ者ハ春寒秋冷ノ候ニ起リ續發性ノ者ハ口腔加答兒、顔面丹毒等炎症ノ波及或ハ空扶斯、急性發疹、膿毒症、痲腫、結核等ヨリ來ル  
(診候) 大抵片側耳下腺部ノ牽引性疼痛、腫起、咀嚼困難、耳下腺ノ化膿等、但シ通例皮膚ヲ侵ササルモ流行性ノ者ニ非ラズシテ熱性病ニ於テ續發性ニ來ル者ハ化膿破潰スルガ故ニ皮膚ヲ侵ス者ナリ

(豫後) 良

(療法) 濕溫電法ヲ行ヒ唯炎症及ビ疼痛ノ甚シキモノニ冷電法ヲ行フ其他ニハ酸性飲料及ビ下劑ヲ投シ化膿セル時ニ於テハ切開シテ後石炭酸溫電法ヲ行フヲ宜トス

○ 沃度加留膜

一、〇

○ 右調和軟膏ニ作リ貼用

一〇、〇

○ 純沃度

〇、一

○ 刺納林製水銀軟膏

一〇、〇

○ 緩和軟膏

二〇、〇

右塗擦用

○ 石鹼硬膏

一〇、〇

○ 炎後硬結ヲ殘セルモノニハ左方

○ 右布片ニ攤シ貼用

五、〇

○ 沃度仿膜

一、〇

○ 石炭酸

二〇〇、〇

○ 華攝林

三〇、〇

○ 餾水

二〇〇、〇

○ 薄荷油

三滴

右調和溫メテ石炭酸綿紗ニ浸シ電法ニ用フ

其他發熱アルトキハ解熱劑ヲ投ズ

### ○ 夜驚症

*Pavor nocturnus*

パヴォル、ノクツルヌス

(原因) 腸胃病、扁桃腺肥大、癲癇、精神激動等三年乃至六年ノ小兒ニ多シ  
(診候) 睡眠後一二時間ヲ經テ突然醒覺シ、心悸亢進、恐怖ヲ發ス而シテ暫時ノ後(十五乃至二十分)發作止ミ安眠ス患者之ヲ記憶スルコトナシ

(豫後) 良

(療法) 其原因ヲ求メ之ヲ除クコトヲ務メ左方ヲ處ス

○ 親羅謨加留膜

〇、五

○ 其他抱水格魯拉爾、規尼涅ヲ投シテ効

○ 白糖

〇、三

アリ

右臨臥頓服

### ○ 頭虱

*Pediculi capitis*

ペヂクリ、カピチス

耳下腺炎 夜驚症 頭虱



(療法) 灰白軟膏或ハ白降乘軟膏ニ同量ノ華攝杯ヲ混シ全頭髮部ニ塗擦シ縞帕ヲ以テ之ヲ被ヒ一日ノ後石鹼ヲ以テ洗去スベシ、又左方

○ 五% ナフトール軟膏 一〇、〇 百露拔兒撒謨 各一〇、〇

右外用  
○ 石鹼油 二〇、〇 右調和塗擦後布片ヲ以テ一日間頭ヲ包ミ次テ加里石鹼精ヲ用非テ之ヲ洗滌スベシ

阿列布油

服虱 *Pediculi vestimentorum.* バチクリ、ロリス、チメントールム 衣虱

(療法) 飯服ヲ煮沸シテ後洗滌シ之ヲ清ムベシ、是レガ爲ニ皮膚ニ發生シタル濕疹ハ石鹼ヲ以テ洗滌シ後油劑ヲ塗擦スレバ消散スルモノナリ

天疱瘡 *Pemphigus.* ハンフ、ボス

(原因) 未詳、小兒ニ多シ

(診候) 大水疱ノ發生ニシテ其内容始メハ透明漿液狀、後チ膿様トナリ自潰シテ濕潤面ヲ呈シ終ニ新生ノ表皮ヲ蒙ムル、急性、慢性及葉狀天疱瘡等ノ別アリ

(豫後) 概子不良

(療法) 散在性ノ者ニハ撒布藥ヲ用ヒ、密發性ノ者ハ之レヲ切破シ、痂皮ヲ生ジテ表皮ノ缺損シタル者ニハ緩和軟膏ヲ貼用シ、皮膚ノ發炎セル者ニハ冷電法ヲ

行フベシ、普通性天疱瘡ニハ溫浴ヲ擇ビ又葉狀天疱瘡ニハ持久浴、痒疹性天疱瘡ニハ持久參兒ヲ行フベシ  
○ 懈皮 五〇、〇 餉水 二〇〇、〇  
○ 昇汞 五、〇 右調和浴湯ニ加フ

心囊炎 *Pericarditis.* ペリカルヂチス

(原因) 特發ハ稀有ニシテ多クハ急性關節痲質斯、肺炎、肋膜炎、瘤腫、結核、比隣臟器炎症ノ波及、窒扶斯、丹毒、痘瘡、猩紅熱、膿毒症、武雷篤氏病、壞血症、敗血病等ニ繼發ス、二十以上四十年ノ人ニ多シ

(診候) 心臟底部ノ摩擦音濁音部ノ擴張シテ三角形尖端上方ニ向フ其他惡寒、心悸亢進、體溫昇騰、脈搏增加心部ノ隱痛及尿中ノ蛋白發見等ナリ

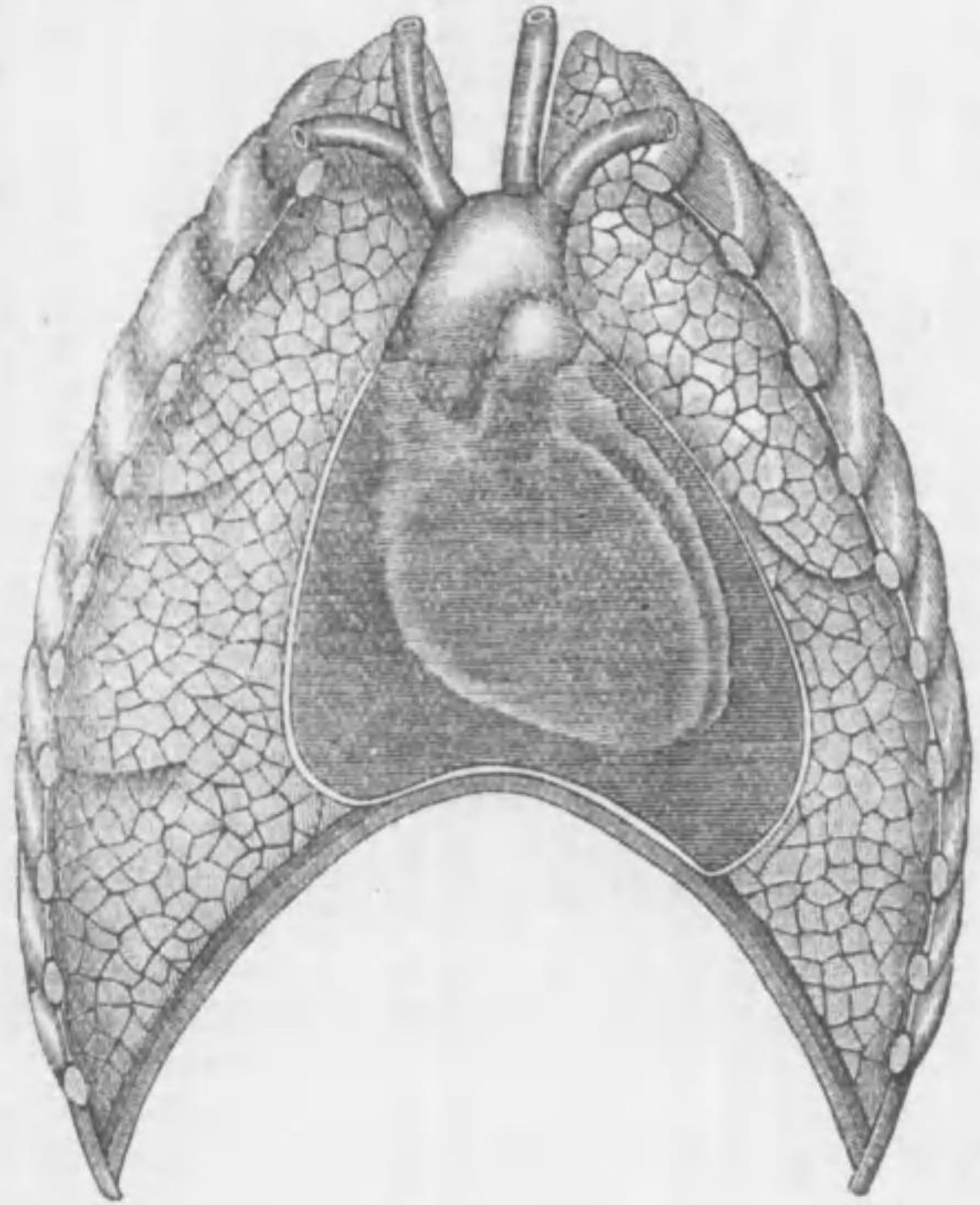
(豫後) 概子良ナリト雖モ頓死ノ虞ナキニ非ラズ○二日乃至三週ノ經過ヲナス

(療法) 極メテ安息靜止ヲ守ラシメ熱候ニハ其對症療法ヲ行フ可ク即チ心臟部ニ冷電法ヲ行ヒ、心悸亢進ニハ實荳答里斯「ストロファンツス」、珈琲涅ヲ投ジ、便ヲ整理シ、劇痛ニハ莫兒比涅ノ皮下注射ヲ擇ビ、滋養物ヲ與ヘ鐵劑等ノ強壯藥ヲ用ヒ、滲出物ノ存在スル間ハ必ラズ靜臥セシメ又滲出物ノ増加速ニシテ生命ノ危險ナルトキハ心囊穿刺術ヲ施スベシ○其他解熱劑及利尿劑

服虱 天疱瘡 心囊炎



第三十三圖



心囊滲出物ノ圖  
(胸廓斷面)

ヲ投ズルコアリ

- |                |             |        |      |
|----------------|-------------|--------|------|
| ○ 撒曹           | 五、〇         | ○ 咖啡涅  | 二、〇  |
| ○ 縮水           | 一八〇、〇       | ○ 縮水   | 一〇、〇 |
| ○ 單舍(狸盆子舍)     | 二〇、〇        | ○ 杏仁水  | 五、〇  |
| ○ 實菱浸          | (二、〇)一八〇、〇  | ○ 實菱丁  | 一、〇  |
| ○ 單舍           | 二〇、〇        | ○ 樟腦   | 一、〇  |
| ○ 實菱浸          | (一、〇)一五〇、〇  | ○ 依的兒  | 二、〇  |
| ○ 醋酸加留謨        | 二、〇         | ○ 阿列布油 | 九、〇  |
| ○ 單舍           | 一五、〇        | ○ 樟腦   | 一、〇  |
| ○ 實菱末          | 一、〇         | ○ 依的兒  | 二、〇  |
| ○ 硫規           | 〇、八         | ○ 阿列布油 | 八、〇  |
| ○ 白糖           | 二、〇         |        |      |
| ○ ストロファンツス丁    | 二〇、〇        |        |      |
| ○ 右十日三回一食匙     |             |        |      |
| ○ 右十日三回十五乃至二十滴 |             |        |      |
| ○ 杜松實浸         | (二〇、〇)二〇〇、〇 |        |      |
| ○ 實菱末          | 一、〇         |        |      |
| ○ 硫規           | 〇、八         |        |      |
| ○ 白糖           | 二、〇         |        |      |
| ○ ストロファンツス丁    | 二〇、〇        |        |      |
| ○ 右十日三回一食匙     |             |        |      |
| ○ 右十日三回十五乃至二十滴 |             |        |      |
| ○ 杜松實浸         | (二〇、〇)二〇〇、〇 |        |      |
| ○ 咖啡涅          | 二、〇         |        |      |
| ○ 縮水           | 一〇、〇        |        |      |
| ○ 杏仁水          | 五、〇         |        |      |
| ○ 實菱丁          | 一、〇         |        |      |
| ○ 樟腦           | 一、〇         |        |      |
| ○ 依的兒          | 二、〇         |        |      |
| ○ 阿列布油         | 九、〇         |        |      |
| ○ 樟腦           | 一、〇         |        |      |
| ○ 依的兒          | 二、〇         |        |      |
| ○ 阿列布油         | 八、〇         |        |      |

心囊炎



- 醋酸加留謨水 各二〇、〇
- 海葱醋蜜 右調和每二時二食匙
- 木賊煎 (二〇、〇) 一〇〇、〇
- 醋酸加留謨水 各一五、〇
- 海葱醋蜜 右調和每二時一食匙
- 醋酸安母尼紐謨液 五、〇
- 小兒 右每回十滴一椀ノ茶ニ混ジ用フ
- 小兒 右ニハ左方ヲ處スヘシ
- 實菱丁 五滴
- 餛水 右調和每二時一茶匙
- 覆盆子舍 (〇、三) 一〇〇、〇
- 實菱浸 右調和每時一小兒匙
- 覆盆子舍 一〇、〇
- ストロファンツス丁 右一日三回每二乃至五滴

○ 子宮外膜炎 Perimetritis. (リメトリチス)

(原因) 子宮實質炎ノ波及或ハ梅毒菌膿菌ノ傳染等  
 (診候) 腐敗性子宮外膜炎ハ惡寒、高熱、嘔吐、下腹劇痛ヲ發シ滲出物吸收セララルレハ諸症減退シ滲出物化膿スルハ體溫更ニ上昇シ自潰シテ膿ヲ漏シ或ハ然ラズシテ死ス、吸收ノ遲除ナルモノハ、便秘排尿困難ヲ來タス○梅毒性子宮外膜炎ハ慢性ニシテ便通、交接、月經時ニ増進スルトコロノ下腹疼痛ナリ  
 (豫後) 概子不良

- (療法) 其急性期ニハ消炎法ヲ嚴重ニシテ褥中ニ安臥セシメ而シテ或ハ鼠蹊部ニ水蛭ヲ放チ或ハ下腹ニ氷嚢ヲ置キテ一日數回阿片丁幾チ與ヘ熱候消散後ニハ緩下劑ヲ用ヒ或ハ灌腸ヲ行フ○慢性ノ者ニハプリスニツツ氏電法、坐浴、按摩等ヲ行フベシ
- 沃剝 二、〇
  - 苦丁 三、〇
  - 餛水 二〇〇、〇
  - 沃度仿謨 右一日六回二日分服
  - 百露拔爾撒謨 三、〇
  - 僱里設林軟膏 六、〇
  - 僱里設林軟膏 右調和外用 (每週二回栓塞ニ飽充シテ挿入) 二四、〇
  - イヒチカール 二〇、〇
  - 僱里設林 二〇〇、〇
  - 右外用 (此液ヲ以テ濕シタル綿花「タンボン」ナ毎日腔内ニ挿入ス可シ而シテ其際患部ノ方向ニ
  - 從フベシ)
  - イヒチカール 一〇、〇
  - 可溶性銀 五、〇
  - 僱里設林 一〇〇、〇
  - 右同上
  - イヒチカール 一〇、〇
  - 華攝林 一〇〇、〇
  - 右爲軟膏下腹部塗擦
  - 沃度仿謨 〇、二五
  - 柯々阿脂 適宜
  - 右調和腔球一個ニ作り五個ヲ製シ前方ヲ用ヒザル日ニ外用
  - イヒチカール 〇、三
  - 柯々阿脂 三、〇



右調和膠球一個量用法同上

### ○骨膜炎

*Periostitis.*

ペリオステイティス

(原因) 膿膿微菌ノ傳染、外傷、腺病或ハ梅毒等ナリ

(診候) 急性ニハ劇熱、患部ノ劇痛、腫起、潮紅或ハ化膿破潰○慢性ニハ骨膜頹敗或ハ却テ増生チ來ダスト雖厄疼痛少ナシ患部ハ表在骨ニ多ク主トシテ腫起チ認ルノミ

(豫後) 概子良

(療法) 先ツ沃度丁幾或ハワイヒチオール軟膏ヲ塗り濕性防腐繃帶ヲ施スベシ○膿膿セル者ハ之ヲ切開シテ防腐繃帶ヲ施シ患肢ニ適當ノ位置ヲ取ラシメ且ツ固定スル等一般ノ治則ナリトス○慢性ノ者ニハ按摩法ヲ施シテ効アリ

沃丁

右一日三回塗布料

五倍子丁

各一〇〇

### ○腹膜炎

*Peritonitis.*

ペリトニチス

(原因) 子宮炎ノ波及或ハ產褥熱毒ノ傳染、寒胃、流行性感胃、外傷、比隣臟器炎症ノ波及、傳染諸病、腐敗性病、腎臟病、失荷兒陪偻、腸箱頓、歇兒尼亞、便秘、結核等ヨリ來ル

(診候) 惡寒、發熱、煩渴、嘔吐、腹劇痛、膨滿緊張、鼓腸、腹部濁音、慢性症ハ疼痛全ク

(豫後) 不良 缺如シ或ハ微痛チ存シ腹部濁音、消化障礙、羸瘦等

(療法) 就中仰臥安息ヲ嚴施シ小腹部ニ氷罨法ヲ行ヒ阿片ヲ投ジテ腸ノ蠕動機ヲ制

シ後ニ至レバ溫罨法ヲ行フ可シ○炎症ノ廣ク蔓延セルモノニハ時宜ニ由リ下腹部ニ水蛭ヲ放チ攝生法ヲ嚴ニス可シ○熱症ニハ規尼涅或ハ撒曹ヲ投ジ而シテ「メプトン」或ハ肉膝ノ滋養灌腸ヲ行フ○慢性腹膜炎ニハ牛乳鷄卵等有カノ滋養物ヲ與ヘ且ツ灰白水銀軟膏ノ塗擦等ヲ行ヒ又衰弱セルモノニハ強壯劑ヲ用フ可シ穿孔性腹膜炎ニハ直チニ開腹術ヲ行フベシ結核性慢性腹膜炎ニモ開腹術 有効ナルコアリ

○阿片罨

○、三

○鹽酸古加乙涅

○、三

白糖

二、〇

白糖

三、〇

右十包ニ作り毎二時一包

右爲十包、毎二時或ハ毎三時一包

○レゾルチン

二、〇

○罌粟乳劑

二〇〇、〇

縮水

一八〇、〇

杏仁水

一〇、〇

阿片丁

十五滴

鹽莫

一、〇

單舍

二、〇

右調和每時一食匙

右黑色瓶ニ蓋ヘ毎二時一食匙

嘔吐ニハ氷片、曹達水或ハ左方チ處ス

骨膜炎 腹膜炎



○杏仁水 一五、〇  
 ○鹽莫 〇、一  
 ○右調和滴劑  
 ○鹽酸古堊乙涅 〇、〇五  
 乳糖 一、〇  
 右分三包一日三回二日分  
 ○セルテル水 三〇〇、〇  
 ○鹽酸古堊乙涅 〇、〇六  
 右一日六回二日分  
 ○右調和滴劑  
 吃逆ノ頑固ナル者ニハ莫兒比涅ノ内服  
 或ハ皮下注射ヲ用ヒ頑固ナルモノニハ  
 輕ク嘔羅仿謨ノ麻醉法ヲ和用シ高度ノ  
 鼓脹ニハ腹部ニ依的兒ヲ點シ假性麻痺  
 涅叟謨或ハ石灰水ヲ内服セシメ直腸内  
 ニ導泄管ヲ送入シ置クベシ炎症諸症消  
 散後ノ便秘ニハ灌腸ヲ行ヒ又鹽類ノ緩  
 下劑ヲ投シ虛脫ニハ興奮藥、葡萄酒、コ  
 ○シニヤツク、酒等ヲ用ヒ或ハ依的兒ノ  
 皮下注射ヲ行フテ効有リ、滲出物ノ殘  
 留スル者ニハ左方ヲ處スベシ  
 ○沃度加留謨 二、〇  
 常水 一二〇、〇  
 橙皮舍 二〇、〇  
 右調和每二時一食匙  
 ○沃度丁 一〇、〇  
 五倍子丁 五、〇  
 ○右調和腹部塗布  
 ○肝油 二〇、〇  
 右腹部塗布料  
 ○水銀軟膏 一〇、〇  
 右ヲ豆大ノ量ニ作テ腹部ニ塗擦  
 ○加里石鹼 各二五、〇  
 黃色華攝杯 五、〇  
 沃度仿謨 右外用

○沃度加留謨 二、〇  
 沃度 〇、五  
 ○偏里設林 五〇、〇  
 右調和塗擦同上  
 婦人ノ骨盤腹膜炎ニハ左方ヲ處ス可シ  
 ○鹽莫 〇、一  
 水銀軟膏 一、〇  
 ○柯々阿脂 一五、〇  
 右坐藥六個ニ作り毎日三個  
 ○鹽莫 〇、一  
 藥用石鹼 一、〇  
 白膠 適宜  
 右調和腔球十個ニ作り每日一乃  
 至二個一時間挿入

○凍瘡 *Ferriones.* マルニチネス

(原因) 緩慢經久ナル寒冷ノ刺戟ナリトス  
 (診候) 四肢ノ末端、耳殼、鼻頭等ニ癢痒、腫起、疼痛、潮紅ヲ以テ始マリ其部ニ水泡  
 ナ發生スルニ至ル終ニ潰瘍或ハ壞疽ニ陥ルコト有リ  
 (療法) 患部小ニシテ且輕症ナル者ニハ適當ナル足袋等ヲ用ヒ可及的患部ヲ保護シ  
 運動ヲ制減ス可シ患部ノ大ニシテ而シテ疼痛ノ甚シキ者ニハ一二日間安息  
 セシメ電法ヲ行フ可シ一般ニ左ノ外用藥ヲ賞用ス  
 ○苛性加里 〇、五  
 亞爾箇保爾 六〇、〇  
 偏里設林 各四〇、〇  
 右外用入浴後塗布スベシ(マル  
 ツ氏)

凍瘡



○ 白降汞	五、〇	○ 亞爾答亞軟膏	八四、〇
○ 緩和軟膏	五〇、〇	○ 水製阿片越	一、八
○ 右調和軟膏ニ作り刀背ノ厚サニ 布片ニ攤シ貼用		○ 樟腦	七、〇
○ 結晶硝酸銀	〇、二	○ 的列並底油	一、四
○ 華攝林	一〇、〇	○ 右調和軟膏ニ作ル (即チ魯國凍 瘡軟膏)	
○ 右調和軟膏ニ作ル		○ 迷知兒格魯利度	七、五
○ 酸化亞鉛	五、〇	○ 鹽酸古加乙涅	〇、五
○ 緩和軟膏	三〇、〇	○ 樟腦擦劑	一、〇
○ 右調和軟膏ニ作ル		○ 石鹼擦劑	一八、七五
○ 石炭酸	一、〇	○ 右調和塗布用	
○ 鉛軟膏		○ 樟腦精	
○ 刺納林	各二〇、〇	○ 阿片丁	各七、五
○ 扁桃油	一〇、〇	○ 石炭酸	〇、六
○ 刺賢埜爾油	三十滴	○ 酒精	
○ 右調和軟膏ニ作ル		○ 餾水	各一五、〇
○ 骨髓	二八、〇	○ 右調和用法同上	
○ 濃厚鹽酸	二一、〇	○ 明礬	

○ 硼砂	各五、〇	○ 依的兒	一五、〇
○ 安息香丁	二〇、〇	○ 古魯胃謨	五〇、〇
○ 右調和洗滌用		○ 凍瘡ノ破開セル者ニハ防腐綿帶ヲ施シ 終ニハ硝酸銀ヲ以テ腐蝕スルヲ宜シト ス	
○ 樟腦油	二、〇	○ 沃度仿謨	一、〇
○ 刺納林	二〇、〇	○ 緩和軟膏	二〇、〇
○ 右調和軟膏		○ 右調和軟膏ニ作ル	
○ 古魯胃謨	二〇、〇	○ 石炭酸	一、〇
○ 沃度	〇、二	○ 純沃度	各二、〇
○ 右調和塗布用		○ 鞣酸	三〇、〇
○ 古魯胃謨	五〇、〇	○ 蠟軟膏	
○ 蓖麻子油	二、〇	○ 右調和軟膏ニ作ル	
○ 的列並底油	七、五		
○ 右調和塗布用			
○ 沃度仿謨	二、〇		

○ペスト Pest.

(原因) 明治二十七年イエルサン氏一種ノ桿菌ヲ發見シ「ペスト」ノ原因トナス是レ  
ペスト菌ナリ

ペスト



(診候)潜伏期ハ三日乃至七日ヲ算スルガ如シ○前驅期(之レナキコトアリ)ニ在テハ頭痛、眩暈、食慾不振、全身違和、倦怠、惡心、吐瀉等ヲ發ス○發病期ニ在テハ惡寒戰慄、體溫暴騰(三十九度乃至四十度以上ニ達シ或ハ稽留シ或ハ不正ニ弛張シ或ハ漸次下降)淋巴腺腫脹(發熱前乃至發熱後一二日ノ間概子一ケ處往々同側ニケ處例ヘバ左股腺ト左腋窩腺ニ發シ化膿或ハ消散ス)頭痛、(一二日ノ後輕減或ハ消失ス)眩暈、煩渴、身體違和、倦怠、時トシテ惡心、嘔吐、腰痛、稀ニハ胃部疼痛或ハ苦悶、重症ニハ胸内苦悶ヲ發シ顔面潮紅、眼球光澤ヲ帶ビ眼球結膜充血、舌乾燥及ビ舌苔(始メハ白黃色後ニ茶褐色)、咽頭充血(往々扁桃腺腫脹)、皮膚枯燥、灼熱、呼吸增加、脈搏百乃至百二十、大ニシテ概子重複、腦症候ハ一定セザルモ嗜眠狀ヲ呈シ夜間譫語スルヲ常トス、初期ニ二三回ノ下痢ヲ發ス尿ハ蛋白ヲ含ムモノ多ク常ニ著シキ「インザカシ」反應ヲ呈ス發病後一二日ニシテ脾臟及肝臟ノ肥大ヲ認ム輕症ハ三四日ニシテ體溫下降シテ治シ重症ハ一二週ノ後體溫下降シテ治スルコトアルモ大約發病後二乃至八日目心臟麻痺ニ因テ死ス○諸症具備セルトキハ診斷難カラズト雖ドモ然ラザルトキハ「ベスト」菌ノ檢査ヲ要ス(青山博士ノ記載ニ據ル)○「ベスト」ヲ腺腫性、敗血性、肺「ベスト」ノ三種トナシ或ハ左ノ種別トナス

(一)腺腫「ベスト」ハ本病中最モ屢々見ル所ノ症ニシテ一個或ハ多數ノ淋巴腺及其

周圍組織内ニ炎症ヲ發ス其好占部ハ鼠蹊淋巴腺及大腿上二角部ノ淋巴腺ナリ腋窩腺及頭部ノ腺(殊ニ小兒)之レニ亞グ時トシテ後頭腺、肘腺、前後耳腺舌骨腺、膝窩腺等ヲ侵スコトアリ○淺在淋巴腺ノ症僅微ニシテ却テ深在腺ニ著シキコトアリ例令バ腸骨部ニ腺ノ腫脹ヲ來タシ盲腸周圍炎ノ如キ腫脹ヲ觸ルコトアリ或ハ鎖骨部ニ發シテ頸ノ臟器ヲ壓迫スルコトアリ腫脹セル腺ヲ壓スレバ疼痛甚ダシキモ安靜ノ状態ニ在リテハ疼痛少ナシ

(二)「ベスト」膿疱 小豆大ノ斑ヲ生ジ疼痛ヲ發ス該斑ハ速カニ變ジテ膿疱トナル而シテ膿疱ニ止マルモノアリ或ハ進ミテ癰ヲ形成シ壞疽性潰瘍ヲ生ズルモノアリ又ハ淋巴管炎ヲ惹起シ次ニ淋巴腺炎ヲ發セシムルモノアリ

(三)肺「ベスト」 其症候劇甚ナル加答兒性或ハ格魯布性肺炎ニ同ジ其咯痰内ニ「ベスト」菌アリ本病中最惡性ノモノニシテ速カニ死ス肺「ベスト」患者ノ治シタルモノ甚ダ稀ナリ

流行時ニアリテ諸症具備スルトハ診斷難カラズト雖ドモ然シ新ラシキ淋巴腺炎ノ液及組織膿疱及癰疽ノ液咯痰ヲ檢シテ「ベスト」菌ノ有無ヲ明カニシ其診斷ヲ確定スベシ

(豫後)概子不良ニシテ死亡數六十乃至九十%ナリ三四日ニシテ體溫下降無熱トナルモノハ概子良ナリ本病治癒後ノ免疫性有無ハ未詳

(療法)未ダ特效ノ方劑ナキヲ以テ對症療法ヲ勉ムベシ即チ始ヨリ注意シテ實答答



里斯等ヲ與ヘテ頭部及ヒ心臓部ニ氷罷法ヲ施シ又多量ノ酒清飲料ヲ與フベシ其他煩渴ニハ茶及「リモナーデ」ヲ與フ○豫防ニハ飲食物ノ注意特ニ創傷アル手足ヲ以テ病毒ニ接セザルコト肝要ナリ患者ノ血液吐瀉物、咯痰、唾液ハ石炭酸水石灰乳等ヲ以テ、衣服、寢具、食器等患者ノ使用品ハ蒸氣或ハ藥品ヲ以テ消毒スベシ○近年ハフキン氏液、「イェルサン」血清ヲ試用スルモノアリ○鼠族ハ本病ヲ媒介ス故ニ之レヲ驅除スベシ

○包莖 Phimosis. フイモータム

(療法) 輕度ナルモノニハ龜頭溝ノ周圍マテ水或ハ藥汁ヲ以テ洗滌シ炎症ノ強度ナルモノニハ亦冷罷法ヲ行ヒ且ツ靜臥安息セシムベシ○壞疽ノ危險アルモノ或ハ現症狀ノ荏苒久シキニ瀾ルモノ或ハ先天性包莖ノ強度ナルモノニハ包皮ノ單縱切開或ハ輪狀切法ヲ施シ或ハローセル氏三角辨ヲ作ルノ法ヲ用フ

- 格魯兒酸加留謨 二、〇〇 過滴俺酸加留謨 一、〇〇
- 〇 格魯兒酸加留謨 三、〇〇、〇 〇 鉛醋 五〇〇、〇
- 〇 右調和外用即チ注射器或ハ洗滌器ニ一條ノ長キ洗管ヲ裝ヒ之ヲ 〇 鉛醋 五、〇
- 〇 包皮囊ニ送入シテ洗滌スルナリ 〇 鉛醋 二〇〇、〇

右調和外用 (用法同上又陰莖瘻法ニ用フ)

ハ罷法ヲ施ス可シ

〇 格魯兒石灰 二、〇〇、〇

〇 鉛醋 二〇〇、〇

〇 右調和外用

○靜脈炎 Phlebitis. フレビチス

(原因) 膿菌ノ直接靜脈内ニ侵入シ若クハ靜脈周圍化膿性炎ノ波及ニ由ル

(診候) 靜脈索狀ヲ呈シテ隆起シ屢々炎症性浮腫ヲ來スヲアリ

(豫後) 速ニ治方ヲ施セバ良然ラザレバ膈栓塞肺栓塞ヲ發シ頓死スルノ虞アリ

(療法) 急性症ニハ患部ノ安靜高舉法ヲ施シ氷囊ヲ貼シ醋酸礬土液ノ罷法ヲ行ヒ疼痛消散後ニハ「フアラ子」ル縲帶ノ縲絡ヲ用フ下肢慢性症ニハ彈力性縲帶及彈力性足袋ヲ用フ、膿瘍ヲ生ズレバ切開ヲ施スベシ

○蜂窩織炎 Phlegmone. フレグモータム

(原因) 概チ損傷部ヨリ膿菌連鎖狀細菌ノ侵入ニ由ル

(診候) 寒戰ヲ以テ始マリ體溫著シク上昇シ諸般ノ熱症候ヲ呈シ患部ノ皮膚赤色腫起硬ニシテ疼痛甚シ

(豫後) 其部位及ビ深淺ニヨリテ或ハ不良或ハ良

包莖 靜脈炎 蜂窩織炎







綠石鹼

100.0

右塗擦料

### ○肋膜炎

Pleuritis.

フロイリチス

(原因)寒冒、外傷、肺炎、武雷篤氏病、肺結核、心臟病、比隣臟器炎症或ハ腫瘍ノ波及、腹膜炎等

(診候)乾性肋膜炎、呼吸時ノ胸部刺痛及呼吸時ノ摩擦音ヲ呈ス○滲出性肋膜炎ハ惡寒ヲ以テ始マル中等度ノ弛張熱ヲ呈ス呼吸困難劇甚ノ胸部刺痛乾咳脈搏頻數食慾缺損シ患側ノ胸ハ擴張シ肋間平坦トナリ呼吸運動、呼吸音、聲音震盪共ニ減少或ハ消失シ濁音ヲ呈ス且滲出液ノ爲メニ心臟或ハ肝臟ノ轉位ヲ認ム○化膿性肋膜炎ハ屢々寒戰ヲ以テ始マリ熱甚ダ高ク凡テ諸症劇甚ナリ(豫後)漿液性及乾性肋膜炎ハ概テ良、化膿性ハ速カニ適當ナル手術ヲ施セバ良然ラザレバ不長結核ニ因スルモノハ不長

(療法)熱候ニハ消炎療法トシテ酸性飲料等ヲ與ヘ病側ニハ氷褌法ヲ行ヒ劇痛ニハ嘔囉仿謨ノ塗擦或ハ莫兒比涅ノ皮下注射或ハ放蛭(十乃至十二條)發泡膏ノ貼用、沃丁ノ塗布等ヲ行フテ効アリ

末期ニ至レバ吸收催進藥、有力ノ滋養物及ビ鐵劑等ヲ與ヘ又高度ノ呼吸困難及滲出物ノ久時滯留或ハ滲出物ノ全肋膜腔ヲ充填スル者或ハ膿胸ニハ手術ヲ施シテ其滲出物ヲ排除セザル可カラズ

○ 撒曹

右頓服

三、〇

○ 右調和每二時一食匙

二〇、〇

○ 撒曹

鹽酸必魯加兒必涅

〇、〇一

○ ストロファンツス丁

右一日三回每五乃至十五滴

二〇、〇

○ 撒曹

右頓服

六、〇

○ 菲沃斯矢亞謨斯油

各二〇、〇

○ 苦丁

縮水

二、〇〇

○ 嘔囉仿謨

二、〇〇

○ 縮水

右一日三回二日分

二、〇〇

○ 滲出物ノ吸收ヲ促スニハ左方

二、〇〇

純沃度

〇、五

○ 鹽酸規尼涅

白糖

一、〇

○ 僱里設林

二〇、〇

○ 鹽酸規尼涅

右研和散五包ニ作り一日ニ分服

五、〇

○ 右調和塗擦劑

二、〇〇

○ 撒曹

右研和散四包ニ作り一日ニ分服

各二、〇乃至四、〇

○ 實斐軟膏

二〇、〇

○ 實斐浸

醋酸加留謨水

(一、五)一二〇、〇

○ 右軟膏ニ作り患側ニ塗擦シ僱答

百兒加紙ヲ以テ其上ヲ被フ

○ 沃度加留謨

二、〇〇

○ 海葱醋蜜

各三〇、〇

○ 縮水

一〇〇、〇

肋膜炎



單舍	一〇、〇	海葱越	一〇、二
右調和每二時一食匙		滿那舍	二〇、〇
沃剝	二、〇	右調和每二食匙	
苦丁	三、〇	チノニス根	
縮水	二〇〇、〇	杜松木	
右一日三回二日分服		杜松實	
疼痛ニハ左方		洋芹子	各二〇、〇
アスピリン	六、〇	右調和茶劑ニ作リ頻々内服	
右分六包一日三回一包宛		小兒急性肋膜炎ニハ左方チ用フ	
安知必林	〇、七	稀鹽酸	〇、五
乳糖	〇、三	縮水	一〇〇、〇
右頓用		橙皮舍利別	二〇、〇
滲出物ヲ誘導スルカ爲メニハ左ノ藥劑		右每二時一小兒匙宛	
チ用フ可シ		安知必林	〇、五乃至二、〇
木賊煎	(一〇、〇)一五〇、〇	縮水	一〇〇、〇
杜松實舍	一五、〇	單舍	二〇、〇
右調和每一食匙		右每三時一小兒匙宛	
杜松實浸	(一〇、〇)二〇〇、〇	撒曹	一、〇乃至二、〇

縮水	一〇〇、〇	海葱醋蜜	二〇、〇
橙皮舍	二〇、〇	菩提樹水	一〇〇、〇
右每三時一小兒匙宛		右調和每時一茶匙	
海葱丁		後治法ニハ有力ノ滋養物ヲ與ヘ田舎山	
實菱丁		地、海濱等ニ轉地療法チ行ハシムベシ	
各十滴			

### ○加答兒性肺炎

*Pneumonia catarrhalis.*

プノイモニヤ、カタラトリス

(原因) 麻疹、百日咳、流行性感冒、空扶斯、實扶的里、感冒性氣管支加答兒ニ併發ス  
又嘔吐物、食物片ノ吸入ニヨリテ本病ヲ惹起ス(所謂嚙下肺炎)小兒及老人  
ニ多シ

(診候) 體溫上昇、呼吸增加及困難、脈搏增加、不穩、食思缺乏ヲ呈シ肺ノ後下部ニ打  
診上濁音ヲ微シ雷聲囉音、中水泡音及小水泡音ヲ聽取ス

(豫後) 不定ナリ即チ數日數週ヲ經過シ、強度ノ呼吸困難、チアノーゼヲ呈シ死亡  
シ又肺結核ヲ誘起スルコトアリ

(療法) 室内衣服共ニ平等ノ溫度ニ保持スベシ○飲料ニハ清涼劑ヲ與ヘ左方チ處ス  
又胸部濕溫褰法、(毎二時或ハ三時ニ交換)一日三回宛ノ溫浴(四十度乃至四  
十一度)中ニ於ケル冷水灌漑法ヲ施シ又患部ニ水蛭或ハ發泡膏ノ貼用チ行

加答兒性肺炎



七胸部ノ疼痛ニ對シテハ麻睡劑ヲ投シ呼吸困難著シキモノニハ芥子泥ヲ貼シ虚脱ノ恐レアルモノニハ芥子泥、樟腦、葡萄酒等ヲ與フ〇特ニ滋養ヲ勉ムベシ

小兒ニハ左方ヲ處ス

吐根浸

單舍 (〇、一五乃至〇、三) 一〇〇、〇

右調和每二時一小兒匙 二〇、〇

吐根浸

(〇、一五乃至〇、三) 一〇〇、〇

安母尼亞茴香精

單舍 一、〇

右調和每二時一小兒匙 二〇、〇

攝涅瓦浸

單舍 (一、五乃至五、〇) 一〇〇、〇

右調和每二時一小兒匙 二〇、〇

攝涅瓦浸

(二、〇) 一〇〇、〇

杏仁水

一、〇乃至二、〇

吐根舍

一〇、〇

右調和每三時一茶匙宛 一、〇乃至三、〇

礫砂

一〇〇、〇

單舍

二〇、〇

右調和每二時一小兒匙 二〇、〇

炭酸安母紐膜

〇、五

單舍

八〇、〇

二〇、〇

右每二時一小兒匙宛

高度ノ發熱アルモノニハ

安知必林 〇、五乃至二、〇

單舍

一〇〇、〇

二〇、〇

右調和每三時一小兒匙宛

安知歐鏡林

〇、〇五乃至〇、一

白糖

〇、三

右調和一包トナシ每三時一包宛

規尼涅 〇、五乃至一、〇

單舍

一〇〇、〇

右每三時一小兒匙宛

便秘ヲ兼子タルモノハ

甘汞 〇、〇二

金硫黃 〇、〇一

白糖 〇、〇三

右一包トシテ三包ヲ與フ每二時

一包(便通アレバ後服ヲ止ム)

諸症劇甚ナルモノニハ吐劑ヲ用フ

吐根浸 (四、〇) 一〇〇、〇

單舍 二〇、〇

右每十分一茶匙宛(嘔吐ヲ發ス)

レバ後服ヲ止ム)

鹽酸亞剎莫兒比涅

〇、〇一

單舍

五、〇

右半筒乃至一筒皮下注射料

虚脱ニ陥ラントスルモノニハ左方ヲ處

ス可シ

鞣布羅

安息香酸 各〇、〇一乃至〇、〇五

白糖

〇、三

右一包トナシ每二時一包宛

安母尼亞茴香精

各六、〇

依的兒

右調和每一時六滴ヲ糖水ニ混和

内服セシム

大人ニハ葡萄酒、酒、武爾埜、祛痰劑

ヲ與ヘ心臟脱力ヲ防ガン爲メニハ實芝

答里斯「ストロファン」ヲ與フ可シ

(氣管支加答兒ノ部ヲ參照スベシ)



- 實荳答里斯葉浸 (一、〇) 一八〇、〇  
單舍 二〇〇、〇  
右每二時一食匙
- ストロファンツス丁一、〇乃至二、〇  
右一日三回一食匙宛
- 橙皮舍 二〇〇、〇  
單舍 一八〇、〇

○ 急性前脊髓灰白質炎 *Poliomylitis anterior*

(小兒脊髓麻痺 *Spinal Kinderlähmung*)

*acuta.* ポリオミエリチス、アンテリオール、アクトーダ

(原因) 六ヶ月乃至三年ノ小兒ニ發スルモノナリ原因不明  
 (診候) 夜中俄然發熱興奮シ翌朝兩下肢ノ全然麻痺セルヲ見ル知覺ハ健存ス(上肢モ亦麻痺スルコトアリ) 數日ノ後ニ至リ一肢(一脚一腕)ハ麻痺症狀消退ス他ノ一肢ハ永久の麻痺ヲ止ム患肢ハ青色ヲ帶ビ溫度下降ス永久麻痺セル一肢ハ筋肉及ビ骨ノ萎縮ヲ發ス  
 (豫後) 生命概子良ナルモ永久ノ麻痺ヲ殘スコト多シ  
 (療法) 麻痺ノ初期ニ於テハ背部適當ノ部ニ氷嚢ヲ貼スシヤブマン氏管若クハ放蛭後ニハ沃丁ヲ塗布ス熱、消化器障害ニハ其對症療法ヲ行フ可シ麻痺發生後二乃至三週間ニシテ麻痺セル筋ニ瓦爾華尼電流ヲ用フ(積極導子ヲ頸部或ハ腰部膨脹部ニ消極導子ヲ筋肉ニ接ス) 〇一二週後ニハ尙ホ又傍ヲ末梢神

- 經ノ療法ヲ施ス(消極導子ヲ神經ニ積極導子ヲ筋肉ニ接シ電流交換ヲナス) 數月間按摩法ヲ行フテ大ニ効アリ其他矯整法ヲ用フル場合アリ内服ニハ疾患ノ初期ニ於テ左方ヲ用フ
- 沃度加里 〇、三乃至二、〇  
單舍 一〇〇、〇  
右每日一回或ハ二回皮下注入料
  - 單舍 二〇〇、〇  
稀硫酸 三、〇  
覆盆子舍 三〇〇、〇  
右每一時乃至二時一食匙宛
  - 蕃木甞越 〇、〇一  
單舍 一〇〇、〇  
右每一時乃至二時一食匙宛

○ 遺精 *Pollutionen.* ポルチオーネン

(診候) 手淫、情慾興奮、睡眠中膀胱緊滿、腸管充實、仰臥等ノ陰部刺戟或ハ重病ノ衰弱、脊髓癆ノ初起、包皮、結石、膀胱石、痔疾等ナリトス  
 (療法) 豫防法ハ手淫ヲ戒メ品行ヲ正シ飲食ハ其度量ヲ節シ殊ニ晚餐ヲ制減シ寢褥ノ下敷ニハ硬キ蒲團ヲ擇ヒ被褥ニハ輕易ナル者ヲ用ヒ且ツ早晨其褥ヲ離レ生殖機能ノ興奮及ビ心身過勞ヲ禁シ可成ハ田舎或ハ山地ニ轉居セシメテ乳汁療法或ハ冷水浴ヲ行ハシム河水或ハ海水ヲ擇ブチ宜シトス 〇内服ニハ強壯劑ノ類ヲ與ヘ又平流電氣療法等皆効有リ就中最モ要用ナルハ冷却「プー

急性前脊髓灰白質炎 遺精



- シールノ送入療法或ハ攝護腺部ノ腐蝕ナリトス
- 硫規 右研和散十包ニ作り毎日三包
- 酸化鐵 (「オプラー」ト「ニ」包ミ用フ)
- 白糖 各一、〇
- 麥角 一、〇
- 臭剝 右十包ニ作り一日三回一包
- 白糖 五、〇
- 右十包ニ作り毎日三乃至五包

○ 直腸加答兒 *Proctitis. プロクチチス*

(原因) 宿便或ハ異物ノ器械的刺戟又ハ寒胃、直腸潰瘍、比隣臟器腫瘍ノ炎症波及等  
 (診候) 肛門痒痒、灼熱、疼痛、下痢、裡急後重、肛圍糜爛、下血、粘液漏出等  
 (豫後) 概子良  
 (療法) 若シ直腸内ニ硬キ宿便或ハ異物等ヲ認メバ溫灌腸ニ依テ之ヲ排除スル等一  
 般ノ治則ナリトス。○急性症ニハ褥ニ就カシメ飲食ヲ制シ溫坐浴ヲ取ラシメ  
 又會陰部ニプリスニツツ氏法ヲ行フ然レドモ劇痛ニハ氷電法  
 ○ 沙列布煎 (五、〇)五〇〇、〇  
 ○ 亞爾答亞根煎 三〇〇、〇  
 阿片丁 二、〇  
 鞣酸 各二、〇  
 右調和灌腸料(二回分)  
 裡急後重ニハ左方ヲ處スベシ

- 阿末 〇、〇五
- 柯々阿脂 二、〇
- 右肛門坐藥壹箇量
- 鹽酸古加乙涅 〇、五
- 緩和軟膏 二五、〇
- 右調和軟膏ニ作り毎回豌豆大ノ
- 當時直腸周圍炎ヲ兼ヌル者ニハ外科手術ヲ施サザル可カラズ
- 慢性ノ加答兒ニハ冷坐浴ヲ行ヒ又左方
- 桐皮煎 (二〇、〇)二〇〇、〇
- 明礬末 二、〇
- 右調和灌腸料(二回分)

○ 脫肛及ビ直腸脫 *Prolapsus ani et recti.*

フロラーブヌースアノーエトレクター  
 (原因) 常習便秘ニ伴フ脫糞時ノ努責、痔疾、肛門ノ裂傷、膀胱(結石)尿道及ビ攝護  
 腺ノ疾病ニ因リ排尿困難ノ爲メ努責スル等  
 (診候) 肛門部ノ粘膜或ハ直腸ノ脱出  
 (療法) 輕度ノ脱出ハ油ヲ塗布セル指ヲ以テ其脱出部ヲ肛門内ニ還納スベシ脱出甚  
 シク還納困難ナルトキハ全身麻醉中ニ括約筋皮下延長ヲ施シ脱出部ヲ還納  
 スベシ而シテ還納後ニアリテハ其原因ヲ除クコトヲ勉ムベシ假令常習便秘  
 アル者ニハ灌腸ヲ施ス等常習便秘ノ療法ヲ行フベシ脱出反覆シテ治セザル  
 者ニハ外科的手術(灼熱、切除等)ヲ施スベシ



### ○痒疹 *Prurigo. Nests*

(原因) 詳ナラズト雖ドモ遺傳ナラン  
 (診候) 痒疹ノ甚シキ丘疹ニシテ専ラ幼時ニ始マル而シテ専ラ四肢ノ伸側面、背部及腹部ニ發ス周圍焮衝ナキモ夜間ニハ熱灼痒甚シク試ミニ之ヲ刺針スルニ唯水液ヲ漏スノミ間々痂ヲ結ビテ膿疱或ハ濕疹ノ形状ヲナスモノ有リ慢性皮膚病ニシテ容易ニ治癒セズ

(療法) フレミング氏液約二百五十瓦ヲ全身浴中ニ加ヘ毎夕患者ヲシテ該湯ニ浴セシメ浴後皮膚ヲ拭ヒタル後三%「メタナフトール」華攝林或ハ五%撒酸華攝林ヲ塗擦スベシ

- 木蓼兒 五、〇
- 石炭酸 〇
- 石鹼末 一〇〇、〇
- 偏里設林 〇
- 右調和洗滌料 〇
- 右調和洗滌料トス (小兒ニ於ケル輕症ニ適ス) 〇
- 炭酸加留膜 一、〇
- 硫肝 二、〇
- 豚脂 一〇〇、〇
- 縮水 一〇〇、〇
- 右調和軟膏ニ作ル(單「ナフトール軟膏」) 〇
- 右調和洗滌料 一〇〇、〇

- ガラノール 一〇〇、〇
- 安知必林 五、〇
- 酒精 八〇、〇
- 單舍 〇
- 苛性安母尼亞水 一、〇
- 右塗布料 〇
- 右每夕一乃至二茶匙 二五、〇
- 其他必魯加兒必涅ノ皮下注射ヲ實用ス 〇

### ○皮膚瘙痒症 *Pruritus. Prurigo*

(原因) 主トシテ黃疸、蜜尿病、密毒症、月經不調、妊娠、老衰等ナリ  
 (診候) 其原因療法ヲ施シ又冷水浴(河浴、海浴、灌漑浴)ヲ行フベシ而シテ此浴水中或ハ藥劑ヲ加フルアリ或ハ加ヘザルアリ若シ之ヲ加フルニ於テハ昇汞、明礬、曹達、フレミング氏溶液ヲ用フ可シ又揮發性藥劑ヲ貼布(尋麻疹ヲ對照セヨ)スルコトアリ

(療法) 陰部、陰、肛門等ノ瘙痒ニハ局處浴或ハ古加乙涅ノ塗布、收斂性溶液即チ百倍ノ明礬溶液、硝酸銀溶液、鞣酸溶液、皓礬溶液等ノ注入或ハ其液ニ浸セル栓塞ヲ施ス可シ  
 ○劇甚ノ瘙痒ニハ麻酔藥ヲ與フ其他試ミニ必魯加兒必涅、法列兒氏水、亞篤羅必涅規尼涅等ヲ用フ老人瘙痒ニハ列氏四十度ノ湯ニ左ノ藥液ニ食匙ヲ加フルモノヲ以テ身體ヲ洗滌スベシ

- 石炭酸 〇、五乃至一、〇
- 再留酒精 九〇、〇
- 偏里設林 一〇、〇
- 右塗布料 〇

痒疹 皮膚瘙痒症



抱水格魯拉爾	四、〇	葛若越	〇、五
僱里設林	一〇〇、〇	華攝林	一〇〇、〇
右塗布料		刺納林	五、〇
薄荷腦	一、〇乃至五、〇	右爲軟膏	
再留酒精	一〇〇、〇	鹽酸古加乙涅	一、〇
右塗布料		華攝林	一五、〇
薄荷腦	二、五	右軟膏	
阿列布油	七、五	ツメノール	五、〇
刺納林	五〇、〇	依的兒	
右塗布料		酒精	
千倍知母爾精	一〇〇、〇	餛水(僱里設林)	各一五、〇
右塗布料		右外用	
酒精	二〇〇、〇	肛門癢痒ニハ左方チ處シテ効アリ	
石炭酸	一、五	苦列阿林	五、〇乃至一〇、〇
右塗布料		華攝林	一〇〇、〇
依的兒		右塗擦料	
香水	各五〇、〇	石炭酸	四、〇
右塗布料		芳香酸	二〇〇、〇

○陰門癢痒症

*Pruritus vulvae.* フルリツニス、ウルツエー

右外用トシ更ニ左藥ヲ撒布ス 八〇、〇  
 撒里矢爾酸蒼鉛 二〇、〇  
 澱粉末 右調和撒布料

(原因)密尿病、貧血、妊娠等

(診候)陰門ノ灼熱腫起濕疹糜爛等ナリ

(療法)密尿病等其原因ヲ明ニシ且ツ陰部ノ濕疹等ニ對スル療法ヲ試ミ便通ヲ利ス

ルコト必要ナリ貧血ニハ鐵劑ヲ用ヒ或ハ臭素劑ヲ投シ外用ニハ左方

劑ヲ陰門ニ塗布シ又其間ニハ次ノ軟膏

ヲ同部ニ塗擦ス可シ

- 石炭酸 一〇〇、〇
- 常水 一〇〇、〇
- 右調和罷法料 一、〇
- 硝酸銀 一、〇
- 餛水 三〇、〇
- 右調和塗布料 三〇、〇
- メントール 〇、五
- 阿列布油 一〇、〇
- 頑固ナル者ニハ六乃至十日毎ニ左ノ水
- 石炭酸 各一〇、〇
- 純酒精 各一〇、〇
- 右調和塗布用 各一〇、〇
- 華攝林軟膏 五〇、〇
- 酸化亞鉛 各三、〇
- 鯨蠟 各三、〇
- 右調和軟膏ニ作ル 〇、二
- 鹽酸古加乙涅 〇、二

陰門癢痒症



緩和軟膏

二〇〇

右調和軟膏ニ作ル

四五〇

鱗屑癬 (乾癬) Psoriasis.

フツリマシス

(原因) 遺傳ナリト云ヒ細菌ナリト云フ未詳

(診候) 初メ肘關節及膝關節ノ伸展側ニ發シテ次テ頭部及薦骨部ニ發シ漸次周圍ニ

蔓延ス。原發疹ハ帽針頭大ノ丘疹ニシテ其頂點ニ白色ノ光輝アル鱗屑ヲ生

ズルモノナリ而シテ其周圍ニ蔓延増大スルニ從ツテ先キニ點狀ノモノノ滴狀

ノ鱗屑癬トナリ貨幣狀トナリ輪狀トナリ湊合シテ地圖狀トナル

(豫後) 生命上ノ豫後良然レドモ再發ノ虞甚ダ多シ

(療法) 亞砒酸劑ノ内服或ハ注射ヲ用ヒ同時ニ左ノ軟膏ヲ與フ

皮膚ノ剝脫セル部ニハ左方ヲ用井テ効

有リ

酒精

一〇〇、〇

右調和塗擦用

〇 イヒチオイル 五、〇乃至二〇、〇

患部ノ小ナルモノニハ左ノ軟膏ヲ用フ

偏里設林

五〇、〇

〇 ナフトール

右調和塗擦用

五〇、〇

豚脂

一〇〇、〇

〇 イヒチオイル

五、〇

〇 白降汞

一〇〇、〇

撒酸

三、〇

〇 華攝林

五〇、〇

偏里設林

二〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

〇 次硝酸蒼鉛

白降汞

各五、〇

刺納林

四〇、〇

華攝林

一〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

又參兒製劑ヲ用フ(殊ニ頭皮ノ鱗屑癬)

〇 カザヌム油

一〇〇、〇

右「フラツル」布片ニ點シ以テ塗

擦ス

〇 カザヌム油

各五〇、〇

綠石鹼

一〇〇、〇

稀酒精

一〇〇、〇

右塗擦用(即チ流動性參兒石鹼)

〇 樟油

五〇、〇

酒精

各五、〇

依的兒

各五、〇

刺賢埜爾油

茴香油

各三十滴

右調和毛筆ヲ用ヒテ塗擦ス(此

擦劑ハ殊ニ參兒ノ臭氣ヲ佳良ナ

ラシムルガ爲メ賞用セルモノ

ナリ)

〇 白降汞

一〇、〇

〇 加里石鹼

四〇、〇

〇 刺納林

五〇、〇

右軟膏ニ作り頭皮ニ塗布

〇 ナフトール

一五、〇

〇 豚脂

一〇〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

〇 焦性沒食子酸

五、〇

〇 華攝林

五〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

〇 苦利沙羅並

一〇、〇

〇 華攝林

四〇、〇

〇 マルガモツト油

十滴

鱗屑癬

四五二



右調和軟膏ニ作ル

此軟膏ハ先ツ石鹼精ヲ用井テ  
鱗屑ヲ除去シタル後綿撒絲ニ  
塗布シテ塗擦スルヲ宜シトス  
但シ其際周圍部ヲ被フテ刺戟  
性紅疹ノ發生ヲ防グ可シ但シ  
顔面ニハ用フ可カラス

鹽酸ヒドロキシールアミン 〇、四

亞爾箇保爾 一〇〇、〇

炭酸石灰適宜(中性ト爲スニ至ル)

右調和塗布用

乾白膠 五〇、〇

常水 一〇〇、〇

右調和蒸氣浴中ニ於テ終始一様  
ニ攪拌シ適宜ノ苦利沙羅並ヲ加  
ヘ製シテ蠟紙ニ包ミ與フ

是レ即チ苦利沙羅並膠ト名ク  
ル塗擦劑ニシテ用ニ臨ミ之レ

ナ温メテ溶解シ刷毛ヲ用ヒテ  
塗擦スルナリ焦性沒食子酸膠  
モ亦其製法之レニ同シ

苦利沙羅並

阿列布油

刺納林

右調和刷毛ヲ用井テ薄ク塗布ス

苦利沙羅並

依的兒

黃蠟

右調和外用(殊ニ頭皮癬ニ適ス)

苦利沙羅並

偏答百兒加嗎囉仿謨溶液 二〇、〇

右調和刷毛ヲ用ヒテ塗布ス

又或ハ苦利沙羅並一分ト古骨胃膜六分

ノ混合擦劑ヲ用フルコトアリ

本癬ノ頑固ナル者ニハ左ノ改製フレミ  
ンク氏溶液ヲ用フ

生石灰

昇華硫黃

常水

右混和煮沸シテ全量六〇〇、〇

ニ作ル塗擦用

即チ之ヲ局處ニ塗擦シ次デー  
時間ノ微温浴ヲ行ヒ而シテ後  
濃粉ヲ撒布シ或ハ鉛分ヲ含有  
セザル軟膏ヲ塗擦スルナリ但  
シ顔面ニハ用フ可カラス

歌親拉氏改製ウ井ルキンソン氏軟膏ハ  
頗ル有効ナルヲ認ム製法左ノ如シ

硫黃

山毛櫟油

綠石鹼

豚脂

石灰末

右調和六日間毎日二回刷毛ヲ用

ヒテ塗擦シ十乃至十二日ヲ待テ

入浴セシムベシ

アリストール

華攝林

刺納林

右軟膏トナス

アリストール

亞鉛華

濃粉

白色華攝林

右軟膏トナス

ガラノール

トラウマチン

右外用

アントラロビン

酒精

右調和塗布用(此藥ハ顔面ニ用  
フルモ妨ゲナシ)



○ アントラロビン	各二〇、〇	○ テ三十滴ニ至リ再ビ減量スルモ可ナリ	
阿列布油	六〇、〇	○ 法水	二、〇
豚脂	六〇、〇	炭酸安母紐誤	五、〇
右調和軟膏ニ作ル用法同上		○ 法水	一、〇
鱗屑癬ノ内服ニ供スル藥劑ハ左ノ如シ		醋酸加留誤	一、〇
○ 法水	六滴	單舍	一五、〇
○ 法水	五〇、〇	右一日三回每一食匙水ニテ内服	二、〇
右調和一日ノ量		○ 法水	
通例四日毎ニ一滴ヲ増加シ終		林檎鐵丁	各一〇〇、〇
ニ一日三十滴ニ達スルトキハ		薄荷精	右調和朝夕二回一食匙
又更ニ四日毎ニ一滴ヲ減シ元		○ 法水	各一〇〇、〇
量即チ六滴ニ至ル但シ小兒ニ		○ 亞砒酸那篤留誤	〇、四
ハ尙ホ少量ヲ用フベシ		○ 亞砒酸末	〇、五
○ 法水	六十滴	○ 亞砒酸末	五、〇
薄荷水	二〇〇、〇	○ 黑椒末	五、〇
右調和朝夕二回每一食匙ヲ與ヘ			
全量ヲ十日間ニ用井盡ス可シ但			
シ此藥劑モ亦前者ノ如ク増加シ			

甘草末 三、〇  
 亞拉毘亞護謨漿 適宜  
 右調和丸百粒ニ作り毎日一二乃至十粒ヲ用フ(亞細亞丸)

○ 產褥熱

*Puerperalgieber.*

プエルニラールフキーメル

○ 亞砒酸 〇、一  
 亞拉毘亞護謨漿 各適宜  
 縮水 右調和丸二十粒ニ作り毎日一粒

(原因) 腔、子宮、陰唇等ニ分娩ノ際被ムリタル創傷部ヨリ細菌ノ侵入スルニ因ル産後ノ重病ナリ○分娩後三十時間乃至四十時間ニ發病スルヲ以テ通常産後第二日我ハ第三日ニ發ス

(診候) 産後頓發ノ惡寒劇熱、劇烈ナル膈症、虛脫、肺炎、腦膜炎、關節炎等ノ症狀ヲ呈シ嘔吐、鼓脹、下痢ヲ來タシ惡露性ノ惡露ヲ漏ラス等ナリ

(豫後) 全身症ノ輕重衰弱ノ如何等ニヨリテ一定セズト雖モ分娩後速カニ發スルモノハ概子不長

(療法) 豫防法ニハ産前、産後ノ婦人ヲシテ其陰部ニ病毒ノ傳染ヲ避ケシムルガ爲メ消毒法ヲ嚴ニス可シ○既ニシテ本病ニ罹レル者ニハ解熱療法トシテ規尼涅、撒里矢爾酸等ヲ内服セシメ又下腹部ニ氷褫法或ハブリスニツツ氏褫法即チ温温褫法又ハ可溶性銀軟膏ノ塗擦ヲ行フヲ宜シトス○局處療法(創面或ハ潰瘍等)ニハ石炭酸水或ハ過滿俺酸加留誤水等ノ洗滌或ハ沃度丁幾ノ



創面塗布等用井テ効アリ凡テ内部諸機關ノ炎症ニ注意シ場合ニ由リ外科的  
手術ヲ要スルコトアリ○子宮内膜炎ニハ三十倍硼酸水五十倍ノ石炭酸水或ハ  
五十%「アルコール」液ヲ用ヒテ子宮ヲ洗滌シ内服ニハ酒精飲料阿片劑等ヲ  
與ヘ或ハ莫兒比涅ノ皮下注射ヲ行ヒ且ツ便通ヲ容易ナラシム可シ○尙ホ其  
他ノ治法ハ腹膜炎ノ條下ヲ參照ス可シ

○イヒチオイル

可溶性銀

豚脂

右爲軟膏外用

○磷酸

覆盆子舍

右調和飲料ニ和シ用フ（下痢ア  
ルトキハ用フ可カラス）

○發熱殊ニ惡寒戰慄ニハ左方ヲ處ス可シ

○硫規

右散五包ニ作り澱粉囊ニ入レ每  
二時一包

○安知必林

二、〇乃至三、〇

右散十包ニ作り每時一包「カブ  
ラート」ニ包ミ用フ

○撒酸

右散十包ニ作り每二時一包

○樟腦

○白糖

○昇汞

○常水

○石炭酸

○常水

○常水

○常水

○常水

右散十包ニ作り每二時一包

右研和散五包ニ作り每二時一包

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

右洗滌料（中毒ニ注意スベシ）

○右調和洗滌料  
常水 五、〇  
右洗滌料 五〇〇、〇

○阿爾箇保爾  
常水 二五〇、〇  
右調和洗滌料 二五〇、〇

### ○惡性膿疱

*Pustula maligna.* フスツラ、マリクナ

（原因）一千八百五十五年ボルレンデル氏發見ノ脾脫疽桿菌ノ皮膚ニ侵入スルニ因  
ル

（診候）潜伏期三乃至六日ノ後皮膚ニ結節ヲ生シ其中央部ニ膿疱ヲ發ス灼熱及搔痒  
ノ感アリ二日乃至二日半後ニハ高熱譫語食思不振等而シテ或ハ一週ノ後虛  
脫ニ陥リテ死シ或ハ諸症輕快シテ治ス

（療法）速カニ制腐的外科手術ヲ施セバ良、然ラザルモノハ不長  
（療法）苛性加里或ハ硝酸ヲ用ヒテ患部ヲ腐蝕シ或ハバグレン氏ノ烙白金ヲ用ヒ傳  
染部ヲ燒灼シ又患部ヲ切割メ其創面ヲ腐蝕シ或ハ深ク十字形ニ切開シテ制  
腐法ヲ施ス可シ又四十倍ノ溫石炭酸溶液ニ浸シタル「ガーゼ」ヲ以テ罨法ヲ  
行フモ可ナリ一説ニハ斯ノ如ク組織ヲ損傷スルコトナク單ニ格魯兒水、鉛  
水等ノ罨法ニ依頼スルコトヲ賞用シ患部ニ刀ヲ下シテ其創部ヲ腐蝕スルハ  
只初期ニ於テノミ其効確實ナルモノナリト云フ○惡性膿疱ノ硬變部ヲ縮小

惡性膿疱



スルニハ沃度ノ内服及皮下注射ヲ賞用ス

○ 硫規	二、〇	○ 撒酸	一、〇
稀硫酸	十滴	○ 縮水	一〇〇、〇
○ 縮水	二〇〇、〇	○ 偏里設林	五〇、〇
單舍	二〇、〇	右調和繙帶料	
右調和毎二時二食匙		○ 沃度丁	一、〇
○ 石炭酸	五、〇	○ 縮水	五〇、〇
常水	二〇〇、〇	右調和毎回十滴皮下注射料	

○ 膿毒症 Pyaemic. 三十一

(原因)膿竈ヨリ諸器臟ニ轉移ヲ起スニ因ル  
 (診候)惡寒戰慄體溫暴騰(四十度或ハ以上)脈搏頻數一定時ノ後平溫ニ復シ更ニ一日乃至數日ヲ隔テ反覆同發作ヲ呈ス食思缺損皮膚乾燥其他轉移膿竈ノ發生部ニ從ヒ種々ノ症候ヲ發ス例セバ咯血、肺炎麻痺病(腦)等ノ如シ  
 (豫後)不良  
 (療法)原因療法(手術的療法)ヲ主トナシ消毒法ヲ嚴密ニシ解熱法ヲ力メ其他強性葡萄酒、コンニヤツク酒清涼飲料ヲ用フル等一般ノ治則ナリトス

○ 硫規	二、〇	右散十包ニ作り毎二時一包(熱
重曹	一、〇	ノ減退ヲ度トシテ後服ヲ止ム)
白糖	一、〇	○ 鹽酸莫兒比涅
右調和散五包ニ作り毎三時一包		白糖
○ 安知必林	一〇、〇	右散五包ニ作り毎夕一包

○ 腎盂炎 Pyelitis. 三二

(原因)膀胱加答兒ノ波及、寒冒、腎石、其他妊娠、產褥、急性傳染病、的列並底油、菫菁等ノ誤用  
 (診候)急性ニ在テハ輸尿管ニ向テ放線狀ニ感ツ且ツ壓迫ニ依テ増劇スル腎臟部疼痛ノ特發、惡寒、發熱、嘔吐、持續性ノ尿意頻數、尿量ノ減少ニ伴フ尿中血球膿球及蛋白ノ發見、尿酸性等ナリ  
 慢性ニ在テハ尿量増加、數多膿球ノ含有、尿ノ酸性、尿道口ノ痒痒、尿意頻數等ニシテ又腎水腫ヲ兼メルトキ腎部ニ無疼痛性ノ腫瘍ヲ觸知ス可シ  
 (豫後)原因ニヨリテ異ナレリト雖トモ概スルニ不良  
 (療法)其原病ニ注意シ初期ニハ冷罨法後ニハ溫罨法或ハ溫浴ヲ施シ疼痛ニハ莫兒比涅ヲ内服或ハ坐藥トシテ用フ刺戟性ノ飲食ヲ禁シ緩和流動性ノ食物即チ乳汁、扁桃乳等ヲ多量ニ與ヘ且ツ便通ヲ容易ナラシメ其他急性ノ者ハ褥中



ニ安臥セシメテ發熱ニ規尼涅ヲ與ヘ(又之ニ鹽酸莫兒比涅ヲ伍用スルコトアリ)慢性炎ニハ乳汁療法、微溫浴ヲ行フ等本病一般ノ治則ナリトス

右爲一包與六包一日三回二日分  
 ○、三、〇、五  
 ○、三、〇、五

忽布腺 一、〇  
 白糖 五、〇  
 右十包ニ作り一日三回每一包

烏華烏爾矢葉 各二、〇、〇  
 ヘルニアル 各二、〇、〇  
 右茶劑ニ作り朝夕每一碗

乳清 五〇〇、〇  
 生明礬 三、〇  
 右一日ニ用フ(明礬稀乳汁)

石灰水 一〇〇、〇

單寧酸(或ハ鞣酸規尼涅) 一、〇  
 白糖 二、五  
 右研和散六包ニ作り一日三包

單寧酸 各〇、五  
 忽布腺 二、〇  
 白糖 二、〇  
 右十包ニ作り一日三回每一包

骨湃波拔爾撒謨 一五、〇  
 右三十個ノ膠囊ニ分包シ一日三回每一個

○英吉利病 Rachitis.

ラヒチス

(原因)兒童ノ病ニシテ大抵生後石灰鹽類滋養分供給ノ不足ニ來ル又先天性ノ者アリ

(診候)脊柱ノ轉位彎屈、頸門ノ開大、額形四角、胸骨隆起、全身薄弱、歩行起立ノ困難、下肢關節ノ腫大、壓痛、管狀骨ノ彎曲、下痢、嘔吐、頭部ノ發汗過多、帶白赤色ノ尿渣、肌色蒼白、頑固性咳嗽等ニシテ又聲門水腫、腹部膨滿、淋巴腺腫ヲ兼ヌルモノ少ナカラズ

(豫後)適當ノ療法ヲ行フコトヲ得バ良

(療法)食物及ビ住居ヲ改良シ清潔法ヲ旨トシ新鮮ノ空氣中ニ適宜ノ運動ヲ營マシメ常ニ下痢及便秘ヲ制スルコトヲ力ムヘシ

- 磷 〇、〇、一 沃鐵舍 各一五、〇
- 肝油 一〇〇、〇 單舍
- 磷 〇、〇、一 右一日三回十滴乃至十五滴宛
- リバニン 一〇〇、〇 甘扁桃油 七〇、〇
- 肝油 二〇、〇 白糖 三〇、〇
- 右一日三回每一茶匙 依的兒 二十滴
- 磷酸鐵 〇、五 右調和每日一茶匙
- 乳糖 二、〇
- 右十包ニ作り一日三回每一包 亞拉昆亞護謨末 三〇、〇



白糖  
餾水

各一五、〇  
四〇、〇

右調和每日一茶匙

○蝦蟇腫 *Ranula* ラヌラ

(原因) 舌下腺輸送管閉塞ニ起ルモノ有リ或ハ先天性ナル者有リ  
(診候) 舌繫帶側ニ生ズル帶青色水疱様薄壁ノ囊腫ニシテ終ニハ鷄卵大ニ達スル  
モノナリ疼痛ナシ言語ヲ妨ガ

(豫後) 良

(療法) 全ク囊腫ヲ切除シ或ハ之ヲ切開シ或ハ囊腫壁ノ一局部ヲ切除シテ其腔内ニ  
沃度仿謨「ガーゼ」ヲ充填シ又自然ニ破開セル者ニハ防腐性含嗽劑ヲ用フ○  
ウエルセル氏ハアラワツツ氏注射器ヲ用ヒテ囊腫ヲ穿刺シ其内溶液ヲ吸  
吮シタル後其套管ニ依テ以テ十倍ノ古加乙涅溶液の筒ヲ送り次テ千倍ノ格  
魯兒亞鉛十乃至十二滴ヲ注入スルコトヲ賞用ス

○關節癩麻質斯 *Rheumatismus articulozum*

ロイマチスムス、  
アルチグローム、

(原因) 一種特異ナル傳染毒ノ侵入ニ胚胎シテ寒冒ニ誘起セル關節部ノ疾病ナリ  
(診候) 十五以上四十年間ノ人ニ認ムル關節ノ腫起疼痛、熱發煩渴、皮膚ノ濕潤、尿

ノ強酸性赤色沈渣等ナリ急性ノ定型トシテ心臓内膜外膜ノ炎症或ハ胸膜炎  
ヲ併發スルコト少カラズ

慢性ニ在テハ數多ノ關節ヲ侵スコト稀ニシテ熱候ナク時々反覆シ終ニ其部  
ノ運用ヲ妨グルニ至ル

(豫後) 急性症ハ概テ良但シ心臓ノ疾患ヲ兼ヌルトギハ疑團ニ屬ス慢性症ハ生命的  
豫後良ナルモ屢々頑トシテ治シ難シ

(療法) 一般ニ患肢ヲ安靜ニシ劇痛ニハ氷罨法ヲ行ヒ中度ノ者ニハ「イヒチカール」  
ヲ塗擦シ罨法ヲ施スベシ解熱劑トシテ酸性飲料ヲ與ヘ稽留性疼痛ニハ關節  
部ノ按摩、沃度丁幾塗布莖若軟膏ノ塗布ヲ賞用シ慢性症ニハ微溫浴或ハ蒸  
氣浴、濕布被包、灌漑浴、冷水療法、礦泉浴療法ヲ行フテ効有リ

○ アスピリン

右爲一包六包ヲ與フ一日三回一

○ フェナセチン

包宛

右爲一包與六包一日三回一包宛

○ 撒曹

右散六包ニ作リ「チアラート」ニ

○ ラクトフェニン

包ム一乃至二時每一包 (後治療

右爲一包與六包一日三回一包

トシテハ此半量ヲ用フ)

○ ザロール

○ 安知必林

三、〇

白糖 各一、〇  
右十包ニ作リ一日三乃至四包

蝦蟇腫 關節癩麻質斯



- ベトール ○、三乃至○、四
- 右散十包ニ作り一日四回
- サリピリン ○、五
- 右爲一包與六包一日三回一包
- 覆盆子舎 三〇、〇
- 縮水 五〇、〇
- 右每十五分時乃至三十分一茶匙
- ザロフエン ○、五
- 右爲一包與六包一日三回一包
- 劇痛ニハ莫兒比涅ノ皮下注射ヲ行ヒ不眠ニハ左方ヲ處ス可シ
- スルフオナール 一、〇
- 右一包ニ作り毎夕就寢前一時温湯ニテ用フ
- トリオナール 一、〇
- 右全前
- 局處ニハ左方
- イヒチオール 五、〇
- 緩和軟膏 五〇、〇
- 右調和疼痛部ニ塗擦ス
- イヒチオール
- 依的兒 各一〇、〇
- 古魯胃謨 二〇、〇
- 右調和塗布用
- 十倍イヒチオール軟膏
- 荳蔻軟膏 等分
- 右疼痛部ニ塗擦ス
- 慢性症ニハ左方
- 沃剝 四、〇
- 苦丁 三、〇
- 縮水 二〇〇、〇
- 右一日六回二日分服
- 沃度加留謨 二、〇
- 華攝林 一五、〇
- 右調和毎日二回塗擦料

### ○ 筋肉痠麻質斯

*Rheumatismus musculorum.*

ロイマチスムス、  
レスグロールム

- (原因) 關節ヲ侵ス者ト同一ナリ通例僧帽筋、三角筋、胸鎖乳頭筋、胸筋、肋間筋、腰筋等ニ來ル
- (診候) 患筋ノ腫起疼痛ニ始マリ肥大或ハ萎縮ニ終ルモノ多シ其他ノ症候ハ關節痠麻質斯ト同一ナリ豫後ハ良
- (療法) 患部ニ温電法或ハ毯布ヲ用ヒ又タ「イヒチオール」軟膏塗擦或ハ按摩法等ノ局所療法ヲ行ヒ温茶劑ノ内服、蒸氣浴等ヲ行フテ効アリ疼痛甚ダシキモノニハ該部ニ莫比ノ皮下注射ヲ行ヒ或ハ左ノ塗布ヲ用フベシ
- 勿拉篤里涅 ○、二
- 右調和塗擦料一日數回
- 阿列布油 一〇、〇
- 其他内服藥ハ關節痠麻質斯ノモノニ同
- 五〇、〇
- シ

### ○ 風疹

*Rubrola.* ルンカラ

- (原因) 流行性ニ發ス、麻疹ニ類スルモ其原因異ナリトス
- (診候) 潜伏期ハ二三週次ニ前驅期トナリ惡寒或ハ寒戰ヲ發シ體温三十八度乃至三十八度半ニ昇リ脈搏九十乃至百ヲ算ス、輕度ノ口峽炎、結膜炎、鼻加答兒ヲ

筋肉痠麻質斯 風疹



發ス半日乃至二日ノ後發疹期ニ移リ最初顔面頸部ニ紅疹ヲ發ス漸次全身ニ及ブ概子三四日ニシテ褪色シテ治ス

(療後)良  
(療法)發熱アルモハ就褥ヲ命シ鹽酸里母那垓ヲ與フ、皮膚ノ灼熱、癢痒著シキモハ酒精若クハ油性塗擦劑ヲ與フ

### ○疥癬 Scabies. スカビース

(原因)疥癬ノ傳染ナリ

(診候)指間、指側、肘腕膝等關節部、臀部ニ好シテ發スル皮疹ニシテ終ニ全身ニ蔓延ス(頭部顔面足趾ニハ極メテ稀ナリ)癢痒甚シ水泡性、膿疱性ノ者ヲ混ズ

(療法)第一日ニ於テ發疹部ニ複方「ナフトール」軟膏ヲ塗擦セシメ第二日ニ於テ尙ホ癢痒アル部ニ軟膏塗擦ヲ行ヒ第三日乃至第五日ニ入浴ヲ命ズ又々同時ニ存スル濕疹ヲ療スルコトヲ要ス(濕疹ノ條ヲ見ヨ)其他左ノ諸劑モ有効ナリ

- ベタナフトール 一五、〇
- 百露拔爾撒謨 二〇、〇
- 右塗擦料 五〇、〇
- 綠石鹼 一〇、〇
- 白堊 一〇、〇
- 豚脂 一〇、〇
- 右塗擦料(複方ナフトール軟膏) 各二〇、〇
- 亞爾箇保爾 各二〇、〇
- 右毎日二回塗布料

- 流動蘇合香 各二〇、〇
- 百露拔爾撒謨 各二〇、〇
- 右塗擦料

- 生石灰 二五、〇
- 硫黃 五〇、〇
- 常水 五〇、〇

右調和煮沸シテ全量三〇〇、〇ニ作ル塗擦用(ヘブラ氏改良フレミング氏溶液)

- 昇華硫黃 各二〇、〇
- カザヌム油 三、〇
- 白堊 各四〇、〇
- 綠石鹼 各四〇、〇
- 豚脂 各四〇、〇

右調和塗擦用(ヘブラ氏改良ウルキンソン氏軟膏)

- ベタナフトール 五、〇
- 沈降硫黃 一〇、〇

- 蘇合香 三〇、〇
- ビレトシ末 三〇、〇
- 豚脂 一〇、〇

右爲軟膏一日一回塗擦三日間連用

ベタナフトール 一〇、〇  
亞麻仁油 一〇〇、〇  
右調和二十四乃至三十六時間以內ニ於テ三四回ニ塗擦ス

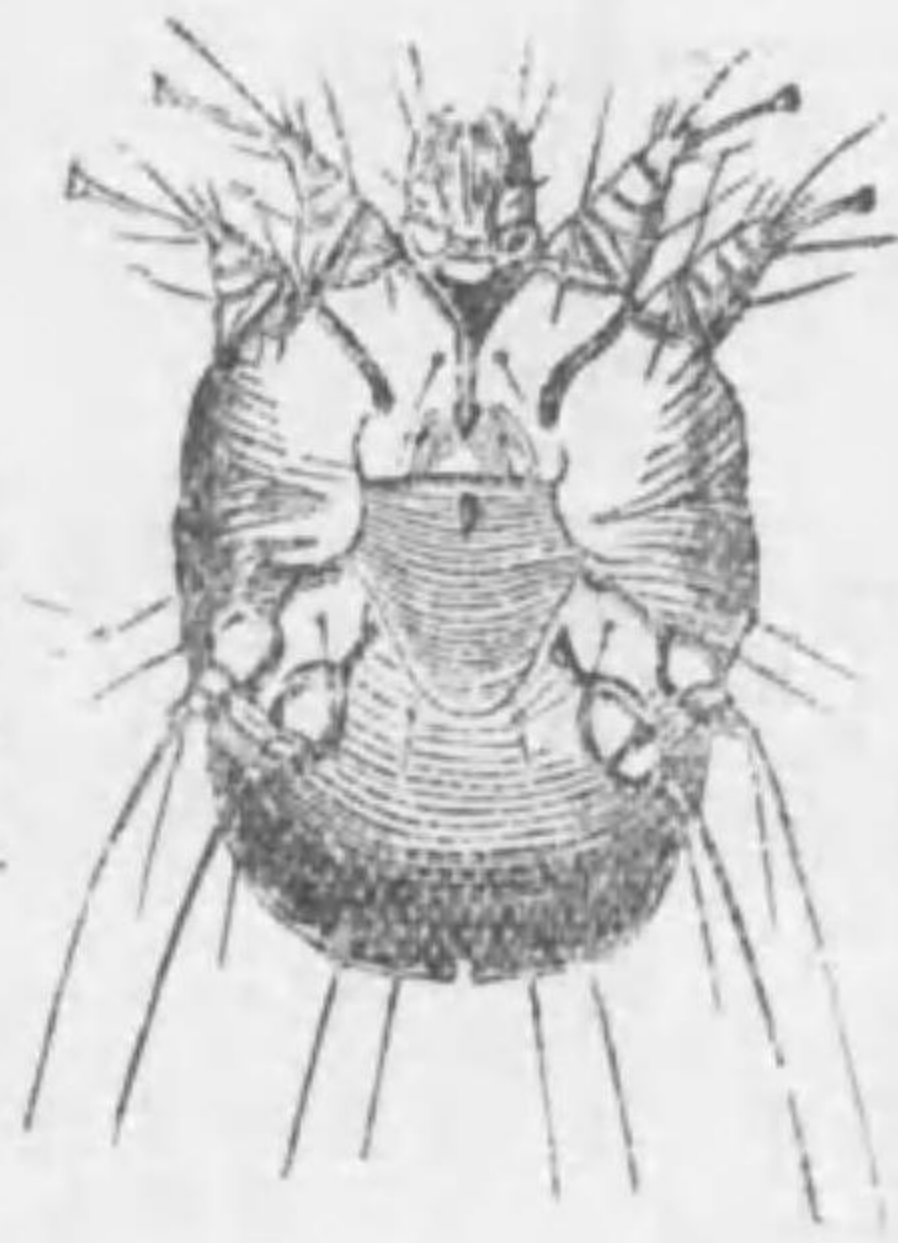
- 流動蘇合香 各一五、〇
- 昇華硫黃 各一五、〇
- 白堊 各三〇、〇
- 綠石鹼 各三〇、〇
- 豚脂 各三〇、〇

右調和塗擦用(ラインベルグ氏軟膏)

- 藥用石鹼 一〇〇、〇
- 石腦油 一〇〇、〇



第三十五圖



- 亞爾箇保爾 各五〇、〇
- 白蠟 四〇、〇
- 右調和一日三回塗布
- 小兒或ハ患部ノ少ナル者ニハ左方ヲ以テ足レリトス
- 流動蘇合香 各五〇、〇
- 百露拔爾撒謨 各五〇、〇
- 右調和塗擦用 (時トシテハ單ニ百露拔兒撒謨ノ塗擦ヲ以テ足レ
- 硫黃 リトス) 五〇、〇
- 豚脂 右調和塗擦用 五〇、〇
- 硫黃 各一〇、〇
- 百露拔爾撒謨 各一〇、〇
- 豚脂 右調和塗擦用 一〇〇、〇
- 石腦油 五〇、〇

阿列布油

右調和用法同上

五〇、〇

藥價ノ貴キニ關セザレバ歌親拉氏ノ改良セルブルキノシ氏軟膏ヲ用フルヲ宜トス其方左ノ如シ

○ 刺賢埜爾油

丁香油

炭酸加留誤

各一、〇

硫黃乳

豚脂

二五、〇

右調和軟膏ニ作ル

七五、〇

適宜

○ 猩紅熱

*Scarlatina.*

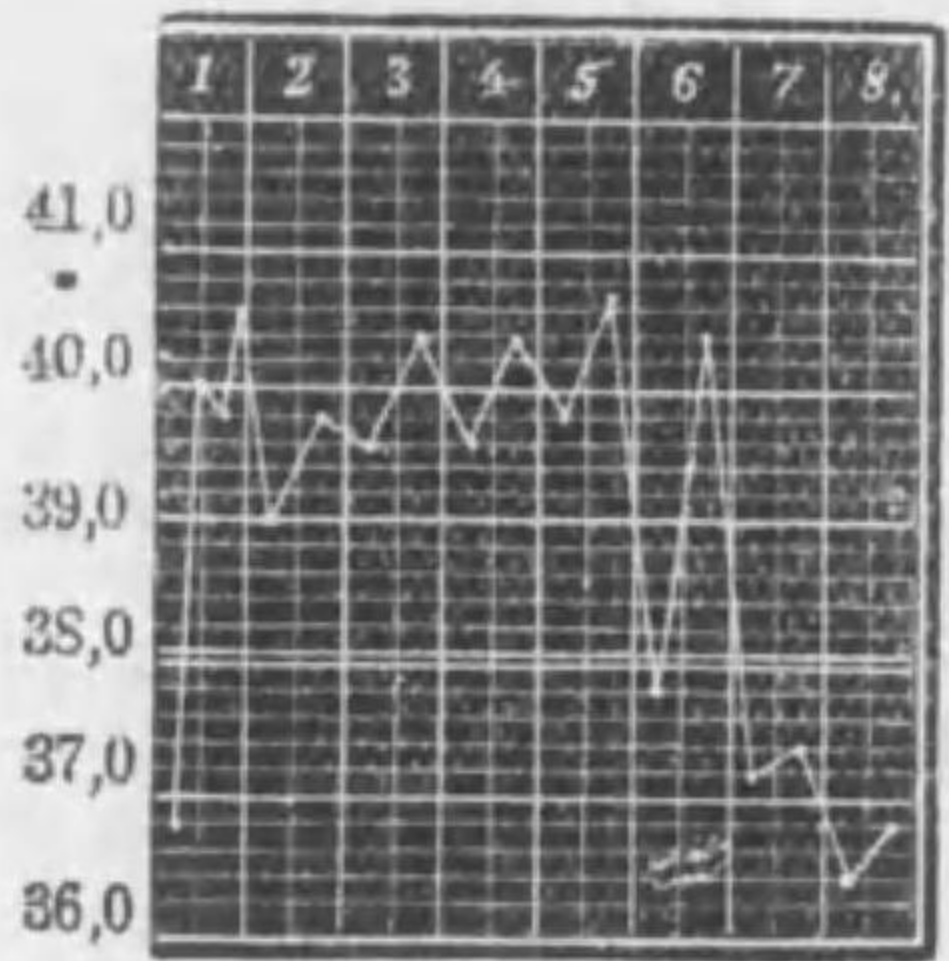
スカルラチナ

(原因) 一種ノ觸接傳染性病毒ニ由テ起ル急性發疹ニシテ多クハ小兒殊ニ二年以上四年間ノ者ニ來ル又創傷アル時ハ傳染スル事易シ

(診候) 潛伏期(三日乃至七日)ノ後嘔吐、咽頭痛、惡寒若クハ寒戰、體溫三十九度以上四十度五分ニ達シ脈搏增加(百二十以上ニ達ス)、頭痛、疲勞若クハ痙攣或ハ腦膜炎ノ症狀ヲ以テ始マリ一二日ニシテ先ヅ頭部、胸部終ニ全身ニ汎發スル帽針頭大若クハ亞麻仁大ノ鮮紅色密叢ノ發疹ナリ瀰漫シテ紅斑トナル時トシテ疹中漿液或ハ膿汁ヲ含有スル者アリ頰部及唇部ニハ通常發疹ヲ缺ク發疹後三四日ニシテ疹褪色シ糠狀落屑或ハ大ナル表皮剝離ニ終ル舌ハ初メ白色ノ苔ヲ被ムルモ第四日或ハ第五日ニハ舌面赤色トナル由テ之レヲ覆盆子舌ト稱ス腎炎、心內膜炎、胸膜炎、實扶的里、關節炎、中耳炎、水腫等ヲ



第三十六圖



猩紅熱體溫表

合併スルモノナリ

(豫後) 流行ノ性質、合併症ノ輕重如何ニヨリテ一定ナラズ輕症ト雖モ容易ニ其ト斷ズベカラズ

(療法) 治則ハ素ヨリ對症的ニシテ落屑期ヲ經過スル間ハ必ズ褥中ニ在ラシメ病室ノ通氣ヲ善良ニシテ其溫度ヲ列氏ノ十五度ニ保持シ健者ノ出入ヲ斷チ高熱アル時ハ少時間ノ入浴(攝氏三十五度)ヲ用ヒ又酸性飲料ヲ與ヘ頭部ニ冰罨法ヲ行ヒ食物ニハ流動性特ニ牛乳ヲ與ヘ其他ハ淡泊消炎性ノ物ヲ與ヘ(第四週ノ終リニ至リ始メテ肉類ヲ與フ) 便通ヲ利シ又屢々咽頭炎ノ強弱ヲ檢

査シ毎日尿中蛋白ノ多少ヲ檢ス可シ腎臟炎等合併症アルトキハ又々其疾病療法ヲ勉ムベシ

○失荷兒陪苦 壞血病 Scorbutus. スコルブーツス

(原因) 食用不給殊ニ新鮮植物性食物ノ缺乏ヨリ來ル

(診候) 全身衰憊、皮膚及粘膜ノ出血性紫斑、就中齒齦ノ腫起剝離、暗青變色出血、下肢ノ潰瘍等

(豫後) 輕症ハ其重症ハ疑

(療法) 其原因ヲ探リ清淨ノ空氣ヲ呼吸セシメ住居ヲ乾燥ニシ果實、野菜殊ニ馬鈴薯等ノ食物ヲ取ラシメ枸橼酸等ノ酸類及ビ葡萄酒ヲ與ヘ皮下溢血及滲潤ニハ醋或ハ鉛水電法ヲ施シテ効アリ

○ 枸橼酸 一、〇 過滿掩酸加留膜 五、〇

單舎 二〇、〇 常水 二〇〇、〇

餹水 一八〇、〇 右調和含嗽料(稀薄ニスルヲ得ベシ)

○ 複方規那丁 四〇、〇

橙皮丁 一〇、〇 鹽剝 一〇、〇

右調和一日四回每一食匙 酒精加水 四〇〇、〇

右調和一日四回每一食匙 右調和含嗽料

矢荷兒陪苦



- 刺答尼丁 二〇、〇
- 常水 二〇、〇
- 右調和含嗽料 二〇、〇
- 稀鹽酸 二、〇
- 玫瑰蜜 二〇、〇
- 右調和含嗽料 二〇、〇
- 刺答尼丁 各一五、〇
- 五倍子丁 各一五、〇
- 右調和齒齦塗布用 各一五、〇
- 撒爾比亞葉 五〇、〇
- 右浸劑ニ作り含嗽用 五〇、〇
- 衄血ヲ來タセルトキハ左方ヲ處ス可シ 五〇、〇
- 止血水 二〇、〇
- 明礬末 二〇、〇
- 右調和嗅入用(止血水トハ過格 二〇、〇
- 魯兒鐵液二十五分ニ酒精十五分 二〇、〇
- ナ加ハタル者ナリ) 二〇、〇

腺病 Scrophulous. スクロフローシス

(原因) 十三年以下ノ男女ニ見ル全身病ニシテ先天性或ハ後天性ノ別有レドモ其  
 病毒ハ同一ニシテ結核菌ナリ營養不良卑濕ノ居住不良ノ空氣等誘因トナル  
 (診候) 體質薄弱(鈍性ノモノニアリテハ皮下脂肪組織多ク、顔面腫起セルガ如クニ  
 ノ其色蒼白口唇肥厚ス、敏性ノモノニアリテハ顔面細長皮膚菲薄ニシテ潮  
 紅シ易ク皮下靜脈透映ス) 淋巴腺腫、頭部ノ濕疹、頭皮膿疱、皮膚ノ苔癬、痒  
 疹、耳漏、結膜炎、眼瞼炎、角膜病、鼻加答兒、羞明、齶齒、脊椎骨癆、白腫、膀胱  
 筋炎ノ諸症ヲ併見ス可シ

(豫後) 不定或ハ骨、關節、肺、腸、膜全身ノ結核ヲ發シテ死ス

(療法) 專ラ飲食ノ品種及ビ食事ニ注意シ而シテ食物ニハ乳汁、鶏卵、肉羹汁、肉類  
 (焼肉ヲ最良トス) 及ビ消化シ易キ野菜ヲ用ヒ香物、莢豆類、馬鈴薯等凡テ  
 不消化物ヲ禁シ米、牛乳、鶏卵、魚肉、鳥肉等凡テ消化シ易キ物ヲ主食物ト  
 シ寢室及ビ居室ノ通氣ヲ善クシ屋外ノ運動ヲ營マシム可シ一般ニ田舎ノ住  
 居、海水浴等用ヒテ最良ナリトス而シテ膿腫、骨潰瘍、眼病、皮疹等ヲ發シ若  
 クハ既ニシテ結核發生ノ疑ヒ有ル者ニハ内服藥ニ併セテ各自適應法ヲ施ス  
 腺病性腺ニハ二十倍ノ沃度仿讓軟膏或ハ加里石鹼ヲ塗擦スベシカハ少セル  
 氏ハ全身塗擦法ヲ用フ即チ每週二乃至三回夕刻一乃至二茶匙ノ加里石鹼ニ  
 少量ノ微溫湯ヲ加ヘ之レチ十五分間全背部ニ塗擦シ三十分ノ後之レチ洗去  
 ス

- 肝油 五〇、〇
- 右一日二回一茶匙乃至一食匙宛 二〇、〇
- 沃鐵舍 五、〇
- 橙皮舍 一五、〇
- 右調和朝夕一茶匙 二〇、〇
- 沃度加留讓 〇、五乃至二、〇
- 餽水 八〇、〇
- 橙皮舍 二〇、〇
- 右一日二回乃至三回一小兒匙宛 二〇、〇
- 沃度仿讓 一、〇
- 肝油 二〇〇、〇
- 茴香油 〇、五
- 右調和一日二回每一食匙 〇、五
- 鼻臭、鼻加答兒等ノ局所疾患ニハ其部

腺病



ノ療法ヲ嚴ニスベシ

### ○皮脂漏

Seborrhoea

セボリア

○(療法)石鹼ト溫湯ヲ以テ患部ヲ清潔トナスコトヲ勉メ左ノ諸方ヲ用フベシ	○重曹	三、〇	○硼酸	三、〇
○偏里設林	各一五、〇	○右調和軟膏ニ作ル(應用前微溫湯ニ入レ軟和スベシ)	○酸化亞鉛	一〇、〇
○刺賢埵爾精	各一五、〇	○華攝林	○右調和軟膏ニ作ル	五〇、〇
○右塗擦料(頭皮脂漏)本藥使用中ハ時々髮油ヲ塗布スベシ	○百露拔爾撒護	○炭酸鉛	○緩和軟膏	一〇、〇
○阿列布油	一、〇	○右調和軟膏ニ作ル	○石炭酸	五〇、〇
○右塗擦料(頭皮脂漏)	○阿列布油	各二五、〇	○武蘭埵酒	一〇、〇
○白蠟	○右調和軟膏ニ作ル	各五、〇	○綠石鹼	三、〇
○巴拉賓	各五、〇	○純酒精	二〇、〇	五〇、〇
○扁桃油	三〇、〇			

○刺賢埵爾精	五、〇	○石炭酸	各五、〇	
○右調和塗擦用	○撒酸	五、〇	○刺賢埵爾精	二〇、〇
○縮水	二〇〇、〇	○武蘭埵酒	二〇、〇	
○右調和洗滌用	○安息香丁	五、〇	○單軟膏	二、〇
○武蘭埵酒	一〇〇、〇	○右調和軟膏ニ作ル(經久症ニハ療法ノ初メニ於テ一週間毎日塗布)	二〇、〇	
○酒精	一〇〇、〇	○安母尼亞水	各七、五	
○石炭酸	〇、一五(或ハ硼酸三、〇)	○偏里設林	一、二〇、〇	
○或ハ撒里矢爾酸三、〇)	一、五	○薔薇水	一、二〇、〇	
○偏里設林	一、五	○右塗布料		
○右塗布料				
○糠枇狀鱗屑ノ多キ者ニハ左方ヲ處ス				

### ○敗血症

Septicaemic

セプチカエミ

(原因)敗血症ハ創傷若クハ炎竈ヨリ分裂菌ノ侵入スルニ因ル(細菌性敗血症)或ハ分裂菌ノ産出スル溶解性化學的毒物ニ因ス(中毒性敗血症)

皮脂漏 敗血症



(診候) 急性ノ重症ニ在リテハ劇甚ナル發熱全身症ヲ發シ衰弱甚ダシクシテ嗜眠、昏睡ニ陥リ唇青身冷、體溫下降シ脈搏頻數々時ニシテ死ス中等度ノ症ニアリテハ惡寒シ發熱(三十九度乃至四十度)創傷部發炎シ淋巴管炎或ハ淋巴腺炎等ヲ發ス適當ナル療法ニテ治シ或ハ腐敗性全身症益々加ハリテ死ス

(豫後) 概子不良

(療法) 防腐法及制腐法ヲ以テ本病ヲ豫防スベシ既ニ本病ヲ發スル時ハ有力ナル制腐法ヲ施シ排膿ヲ完全ナラシムベシ四肢ニ於ケル蔓延性「フレグモ」ニ原因スル時ハ數多ノ大切開若クハ切斷術ヲ行フ○内服ニハ解熱藥酒精飲料ヲ投シ消化シ易キ食物ヲ與フベシ○ビルロート氏ハ溫浴、溫包、多量ノ熱飲料ヲ以テ發汗セシムルノ法ヲ賞用セリ○マルモレツク氏ハ血清療法ヲ稱用ス

○吃逆

Singultus. シングルトゥス

(原因) 胃病、攝護腺病、子宮病、比斯の里、橫隔膜及神經の感應等ナリ

(療法) 定型的發作性ナル者ニハ規尼涅最モ能ク其効ヲ奏ス其他ノ者ニハ一般ニ麻酔劑ヲ用ヒ氷片ヲ嚥下セシメ胃部ニ樟腦精ヲ塗擦シ又噴霧器ヲ用非テ依的兒ヲ先ヅ十分時間上腹部、次ニ五分時間頸ノ兩側ニ噴撒シ或ハ上腹部ニ華瓦臺氏電氣ヲ通シ或ハ橫隔膜神經ニ平流電氣ヲ通シ或ハ莫兒比涅、亞篤羅

- 必涅等ノ皮下注射或ハ亞硝酸亞蜜爾ノ吸入(一二滴)ヲ行ヒ又嘔嚥仿護ヲ内服セシメ必魯加兒必涅或ハ抱水格魯刺爾(小量)ノ内服ヲ試ム可シ
- 蕪草丁 二〇、〇 鹽莫 右調和毎二時五滴
  - 蕪若越 一、〇 油合劑 五〇〇、〇
  - 蕪若末 各適宜 結麗阿曹篤 一乃至二滴
  - 蒲公英越 各適宜 薄荷油 二滴
  - 右爲百丸菖蒲根末ヲ以テ衣トナ 右調和毎半時一食匙
  - ス毎日二乃至三丸 耶撲蘭日葉煎 (四、〇)一五〇、〇
  - 杏仁水 五、〇 右一乃至二回ニ分服

○硬性下疳

Sklerosis. スクラロシス

(原因) 梅毒ノ傳染ニ因テ生ズ梅毒ノ原因ハ尙ホ不明ナリ○ルストガアルテン氏ハ一千八百八十四年桿菌ヲ發見シテ本病ノ原因ナリト論ズレハ頗ル疑ハシ

(診候) 大抵龜頭冠狀溝、包皮繫帶、陰莖皮膚、大陰唇、後結合等ニ發スル硬結ニシテ潰瘍ニ變ズ其周圍硬ク邊緣屹立瘡面鮮紅色ニシテ疼痛殆ンド無ク而シテ多クハ無疼痛性ノ鼠蹊腺腫ヲ併發ス

(療法) 淋巴腺ノ腫脹ヲ認メス患部切除ニ適スル際ニハ切除シテ縫合スベシ潰瘍面

吃逆 硬性下疳



- 右患部撒布料 五、〇
- 沃度仿謨 華攝林 一〇、〇
- 沃度爾 右外用 三、〇
- 右同上 赤降汞 一〇、一
- 沃度仿謨末 華攝林 二〇、〇
- ベルガモツト油 右外用 一滴
- 右混和撒布料 千倍昇汞水 二〇〇、〇
- 甘汞 水銀硬膏 右外用(創面ノ洗滌ニ用フ) 五、〇
- デルマトール 右外用 各五、〇
- 右患部撒布料 右外用 各五、〇
- 甘汞 右散布料 一、〇
- 次硝酸蒼鉛 二%硼酸水 一〇、〇
- 右患部撒布料 右洗滌料 一、〇
- 甘汞 一、〇

○ 日射病 Sonnenstich. マンネムスチヤヒ

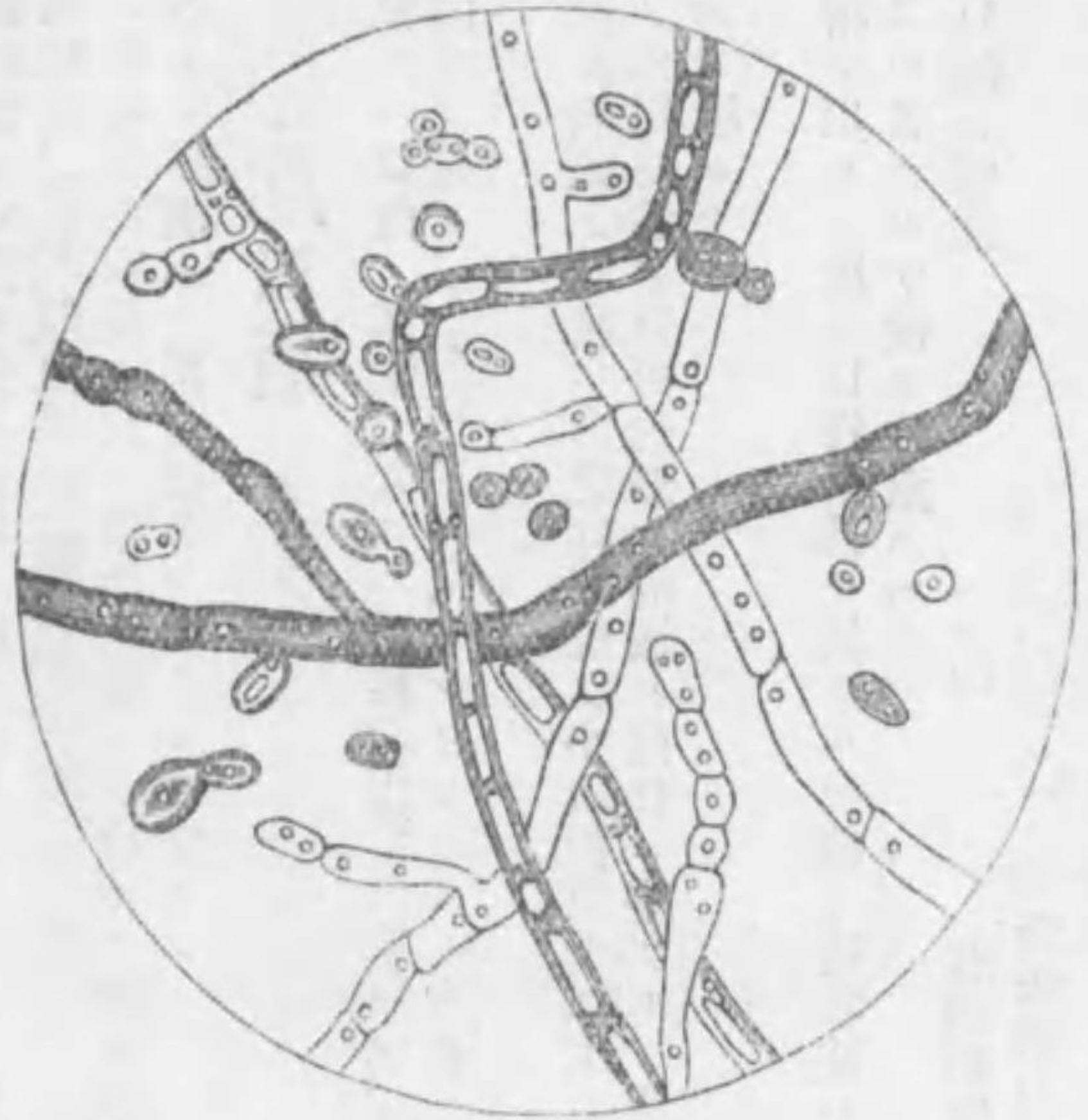
(原因) 太陽炎熱ノ侵襲ヲ受ケ飲料不足ナルヲ  
 (診候) 頭痛眩暈、卒倒、體溫昇騰、脈搏細小等ノ諸症  
 (療法) 先ツ狹隘ナル衣服ヲ脱シ冷所ニ移シテ冷水ヲ灌ギ清冷飲料ヲ與フ、可及的  
 冷却セル麥酒或ハ葡萄酒等ヲ與フルヲ宜トス

○ 驚口瘡 Soor. ゾーア

(原因) 乳兒ニハ口内ノ不潔大人ニハ結核、窒扶斯、蜜尿病、產褥熱、癌腫、白血病等  
 誘因ニノ素ト「オイジユーム、アルピカンス」ト名クル黴菌ノ侵襲ニ起ルモ  
 ノナリ  
 (診候) 口腔及咽頭ノ粘膜ニ白色乾酪様ノ小義膜數多ヲ生シ其部充血腫起咀嚼及嚥  
 下ノ作用ヲ妨ゲ口内灼熱シ唾液ハ酸性ニ變ズルヲ常トス胃痛、下痢等ヲ發  
 スルヲ屢々ナリ  
 (豫後) 良  
 (療法) 濕布ヲ用ヒテ屢々口腔全部ヲ拭フベシ殊ニ哺乳後ハ必ズ然カスルヲ要ス傳  
 染スル者ナルガ故ニ注意スベシ  
 ○ 格魯兒酸加留謨 一、〇 右調和每一時一小兒匙  
 ○ 鹽水 一〇〇、〇 過滿俺酸加留謨 〇、〇五  
 ○ 單舍 二〇、〇 常水 二〇〇、〇



第三十七圖



スソカピルア・ムイユツイオ

右調和口内洗滌料

○重曹

常水

八、〇  
二〇〇、〇

右口内洗滌料

○硼砂

常水

二、〇  
一〇〇、〇

薔薇蜜

右調和塗布及洗滌用

尙ホ亞布答等ノ條下チ參照セヨ

○硼砂

蜂蜜

右調和塗布料

○硼砂

偏里設林

右塗拭料（一日三回口チ拭フベシ）

一五、〇

○聲門痙攣

*Spasmus glottidis.*

スバスムス、  
グロツチヂス

（原因）佝僂病チ以テ本病ノ主因トス。〇四ヶ月以上二年以下ノ兒童ニ多シ大人ニハ稀ナリ

（診候）發作間歇性ノ聲門攣縮ニ係ル窒息狀ノ疾患ニシテ多クハ夜間ニ發ス。顔面蒼白、眼球突出、上腹部陷没、失神、全身搐搦ノ症候チ現ハス。間歇スルトキハ聲チ發ス

（療法）發作ノ際ハ小兒チ坐セシメ醋或ハ冷水ニ浸セル布片チ用井テ全身チ摩擦シ顔面ニハ冷水チ注ギ或ハ嘔嚙仿謨、依的兒ノ嗅入或ハ加密爾列煎ノ浣腸チ

聲門痙攣



行フ可シ○攝生ヲ殿ニシテ人工營養ニ代フルニ母乳ヲ以テシ又室内ノ換氣ニ注意シ成ル可ク新鮮濕温ノ空氣ヲ呼吸セシム可シ○内服ハ燐劑及臭剝ヲ併用スルヲ可トス

- 燐 〇、〇一 單舎 右一日三回二分服
- 肝油 一〇〇、〇 加密爾列浸 (一〇、〇) 一〇〇、〇
- 燐 〇、〇一 阿魏 一、〇
- リバニン 一〇〇、〇 右調和灌腸料(大人ニハ其二倍)
- 右每日一回一茶匙 〇 顯草浸 (五、〇) 一〇〇、〇
- 臭剝 一、五乃至二、〇 阿魏 二、〇
- 留水 一〇〇、〇 右調和灌腸料

○精液漏 Spermatorrhoe. スペルマトリー

(原因)房事過度、手淫ニヨリ發シタル神經衰弱症、慢性淋疾、攝護腺炎等

(診候)乗車騎馬ノ際若クハ上圖便利ノ時ニ當リテ勃起及ビ快美ノ感ヲ發セズシテ精液漏出ス

(療法)原因ヲ探リテ可及的之レヲ除キ凡テ陰部ノ刺戟ヲ避ケ冷水洗滌、灌漑浴、冷却消息子送入法等ヲ行ヒ晚餐ヲ節シ其食物ニハ無刺戟性ノ物ヲ擇ビ居室ノ

通氣ヲ善クシ適宜ノ職業ヲ探ラシメ鐵劑、規尼涅ノ如キ強壯劑ヲ與ヘテ全身症狀ニ注意スベシ

- 貌羅護樟腦 〇、三 又百倍ノ亞篤羅必涅溶液ヲ毎夕一滴内服スルモ可ナリ
- 右爲一包與六包一日三回一包宛 (澱粉囊ニ容レ用フ)
- 忽布腺 一、〇 貌羅護加留謨
- 樟腦 〇、一 留水 一五〇、〇
- 白糖 二、〇 單舎 一五、〇
- 右研和散十包ニ作り朝夕每一包 右調和一日三回每一食匙
- 樟腦 〇、二 右分二十包朝夕每一包 四〇、〇
- 忽布腺 同越 各適宜 局所療法ニハ膀胱鏡或ハ「カテーテル」ヲ用井テ攝護腺部ヲ腐蝕スベシ○消息子療法モ亦効ヲ奏スルヲアリ
- 右三十粒ニ作り一日三回毎二粒

○脊椎破裂 Spina bifida. スピナ・ビフ・ヒダ

(原因)胎生ノ發育不全ニ因ル (診候)脊椎ノ同一部兩側ニ開派シ其間ヨリ出ヅル囊腫狀ノ腫脹アリテ内ニ透明ノ液ヲ含ム此症ニ罹レル生兒ハ扁平足臍足下肢ノ麻痺萎縮等ヲ兼子身體ノ虛

精液漏 脊椎破裂



弱ナルモノナリ

(豫後) 概子不良

(療法) プラワッツ氏注射器若クハ之レニ類似ノ器械ヲ用井テ脊椎ノ缺損部ニ認ムル「ヘルニヤ」形ノ腫脹物ヨリ其内溶液ヲ吸吮シ而後繃帶ヲ施ス可シ或ハ防腐法ヲ極メテ嚴ニシ截除術ヲナスベシ

### ○小兒脊髓麻痺 Spinal Kinderlähmung.

スピナーレ、キンデルレームング

急性前脊髓灰白質炎ヲ見ヨ

### ○心臟痙攣 Stenocardia. (Angina pectoris.)

一名絞心症 ステノカルジヤ、アングナ、ペクトリス

(原因) 痙麻質斯、大動脈瓣病、脂肪心、冠狀動脈病、暴酒、過煙、梅毒、子宮或ハ卵巢ノ疾病、比斯の里等

(診候) 發作收縮性ノ胸部疼痛、肩胛、頸及上膊ニ波及シ胸窄ノ自覺症、苦悶、顔面失色、皮膚粘汗、手足厥冷、心動音共ニ幽微トナリ脈搏ノ絶止スル等ニシテ夜間頓發スルヲ常トス或ハ心悸亢進ヲ起スモノ有リ

(療法) 原因ヲ明カニシテ之ヲ療スベキヲ勿論ナリ而シテ發作ノ際ニハ芥子精、芥子

油等ヲ塗布シタル布片ヲ用ヒテ心臟及ビ上肢ニ摩擦法ヲ行ヒ又皮膚ヲ刺戟シ其他或ハ莫兒比涅皮下注射ヲ行ヒ脈小ナルトハ同時ニ樟腦油ノ注射數筒ヲ用フベシ脈強ナルトハ併用スベカラズ或ハ鎮痙劑ヲ内服ニ供シ間歇時ニハ冷水洗滌ヲ行ヒ室内空氣ノ代謝ヲ善良ニシ勞働飲食及便通ヲ節スベク神經性心悸亢進ニハ沸騰散或ハ糖水ヲ用ヒ又豫防藥ニシテ沃度那篤留護ヲ内服セシムル等本病治則ノ一般ナリトス

鹽莫 〇、一 〇、〇 〇、〇 〇、〇

鹽水 一〇、〇 石炭酸 〇、〇 一

〇 右半乃至二筒注射 右調和皮下注射一乃至二筒

〇 亞硝酸亞密爾 五、〇 エキザルギン 二、五

〇 茴香油 一〇、〇 薄荷精 五、〇

〇 右調和三乃至九滴發作ノ際吸入 〇 鹽水 一二、〇

〇 亞硝酸亞密爾 〇、一 〇 橙皮舍 三〇、〇

〇 甘硝石精 各〇、五 〇 右調和朝夕二回每一食匙

〇 亞硝酸亞密爾 〇、一 〇 間歇時ニハ左方ヲ用フ

〇 右發作時每五滴布片ニ滴下シテ 〇 硝酸偏里設林亞爾箇保爾

〇 吸入セシム (〇、三%) 二十滴

〇 磷酸古埵乙涅 〇、五 〇 鹽水 二〇〇、〇

小兒脊髓麻痺 心臟痙攣



右一日三回每一食匙（注意ヲ要ス）

○ 沃度那篤留謨

二、〇

○ 臭那苦丁

六、〇  
二、〇  
二、〇〇、〇

右調和一日三回二日分服

○ 潰瘍性口内炎

*Stomatitis ulcerosa.*

ストマチ、ス、ウルツエロサー

（原因）水銀、鉛、銀、燐等ノ中毒、失荷兒陪屈蜜尿病食物ノ不其其他傳染性流行性或ハ加答兒性ナルモノ有リ

（診候）齒齦ノ疾病ニ其部ノ潮紅腫起ニ始マリ齦緣帶白黃灰色ノ軟泥ニ變シ其剝脫面潰瘍トナル其他流涎、口内惡臭、便秘、口唇及頰部ノ浮腫、腺ノ腫脹等

（療法）「イルリガートル」ヲ用井テ極メテ能ク口腔ヲ屢々洗滌シ食物ニハ凡テ軟カナル物ヲ擇ビ又葡萄酒、牛乳等ヲ與フ但シ水銀中毒性ノ者ニハ汞劑ヲ止ム

○ 格魯兒酸加留謨

五、〇

右調和含嗽用

常水

五〇〇、〇

○ 知母爾

〇、一五

右調和含嗽用

五、〇

安息香酸

三、〇

○ 撒酸

五〇〇、〇

有加里丁

一五、〇

常水

五〇〇、〇

昇汞

〇、八

亞爾箇保爾

一〇〇、〇

常水

五〇〇、〇

薄荷油

〇、七五

右調和含嗽用

右調和滴劑ニナシ一盞ノ水ニ滴

其他收斂藥ヲ含ミタル煎劑又ハ浸劑ヲ用フルモ亦可ナリ

注シテ其著シク潤濁スルヲ度ト

ナシ含嗽ニ用フ（汞毒口内炎ニ

ハ之ヲ忌ム）

○ 刺答尼丁

各五、〇

○ 過滿俺酸加留謨

二、〇

右調和齒齦塗布料

常水

五〇〇、〇

○ 菩提樹炭

二〇、〇

右調和含嗽用

五、〇

右精細研和齒磨用

○ 阿片丁

五、〇

其他齒痛ノ條下ヲ參考スベシ

○ 甲狀腺腫

*Struma.*

ストローマ

（原因）地方性或ハ散在性ニ來ルモノニシテ瘴氣毒タル一種ノ么微生體ニ由ルナラシカ而シテ該體ハ飲用水ト共ニ人體中ニ侵入シテ殊ニ甲狀腺ノ充血ヲ起ス

（診候）甲狀腺ノ增大ヲ呈スルモノニシテ單純肥大性甲狀腺腫、膠樣甲狀腺腫、囊狀

（豫後）外科的手術ヲ行ヒ其一部ヲ剔出シテ治シ得ル場合ニ於テノミ長

潰瘍性口内炎 甲狀腺腫



(療法) 實質性ニ在テハ濃厚或ハ稀薄ノ沃度丁幾或ハ沃度偏里設林ヲ塗布シ又沃度加留謨軟膏或ハ灰白軟膏ヲ塗擦シ而シテ沃度水ノ内服又ハ罨法ヲ行ヒ或ハ沃度加留謨ヲ内服セシメ又沃度仿謨琶布(グッセンパウエル氏)等用ヒテ効有リ○輓近胸腺或ハ胸腺錠又タ甲状腺若クハ甲状腺錠劑ヲ用ヒテ其効ヲ奏シタルモノアリ宜シク之レヲ使用シテ可ナリ但シ甲状腺錠劑ヲ用フルトキハ心臟及ビ尿管ニ注意スベシ

○ 沃度加留謨

苦丁

縮水

○ 右一日三回二分服

○ 沃度ワゾーゲン

○ 右塗擦料

○ 沃度仿謨

依的兒

阿列布油

○ 右黑色瓶ニ貯ヘ每五日乃至每八日一乃至二筒注入料

○ 沃度仿謨

依的兒

偏里設林

每八日一筒宛

○ 無臭沃度仿謨 (トシカ豆ヲ用ヒテ無臭トセルモノ)

○ 華攝林

○ 右調和刀背ノ厚許ヲ綿布ニ攤シテ頸圍ニ貼シ醋酸礬土水ニ浸シタル壓定巾ヲ以テ其上ヲ捲キ更ニ護謨紙ヲ以テ被包スルナリ三乃至八週ノ間朝夕之ヲ交換スベシ

○ 右調和塗布料 (強沃度丁幾英藥局方)

○ 沃度加留謨

沃度

偏里設林

○ 右調和塗布料

沃度丁

五倍子丁

○ 右調和塗布料

沃度丁

○ 右塗布料 (時トシテ實質内ニ注射ス)

○ 沃度

純亞爾箇保爾

○ 右調和塗布料 (強沃度丁幾英藥局方)

○ アリストール

加里石鹼

依的兒

亞爾箇保爾

○ 右軟膏トシテ毎夕皮膚ニ塗布シ

○ プリスニツツ氏罨法ヲ其上ニ施シ

○ シ毎朝軟膏ヲ洗去シ更ニ硼酸華攝林ヲ塗擦ス可シ

○ 汗疹

Sudamina.

ズダミナ

(原因) 汗腺ノ分泌機能亢盛ニ係ル刺戟ニ由ル

(診候) 汗發性ノ發疹ニシテ無色或ハ赤色一様ナラズ濕疹ニ陥ルコト多シ

(療法) 澱粉、石松子末或ハ枯礬末等ヲ撒布ス其他ノ藥ハ無益ニシテ而シテ刺戟藥ノ如キハ却テ害アリ

○ 鬚瘡

Syphilosis. シフィロシス

汗疹 鬚瘡



(原因)單純性ハ座瘡ト同原因、寄生性ハ「トリヒョヒートン、トンズランス」ノ寄生

(診候)口圍及下頸部ニ發スル小瘡ニシテ結節狀ヲナス者及ビ膿疱ヲナス者アリ皆各一條ノ鬚ヲ通シ毛囊潰滅シテ其部禿裸トナル

(療法)先ヅ脂肪ヲ結痂ニ塗布シテ之ヲ軟和除去スルノ後石鹼或ハ石鹼精ヲ以テ洗フベシ且ツ毎日剃鬚或ハ拔鬚シテ其部ノ皮膚ニハ軟膏ヲ貼用ス可シ

○ 歇親拉氏軟膏

三〇、〇

華攝林

三〇、〇

○ 右刀背ノ厚許ニ淋篤布ニ攤シ夜間ニ貼用スベシ

○ 右調和軟膏ニ作ル

三〇、〇

○ 白降汞

二〇、〇

レゾルチン

一〇、〇

○ 刺納林

一五、〇

白色華攝林

五〇、〇

○ 華攝林

五、〇

○ 酸化亞鉛

各二五、〇

○ 右調和軟膏ニ作ル用法同上

○ 右泥ニ作ル塗擦用一週二三回

○ 赤降汞

〇、五

○ 歇親拉氏軟膏

三〇、〇

○ 緩和軟膏

二〇、〇

○ 水銀軟膏

一〇、〇

○ 右調和軟膏ニ作ル

○ 右調和軟膏ニ作ル

○ 又或ハウヰルソン氏軟膏ヲ用フ

○ 鞣酸

五、〇

○ 酸化亞鉛

二、〇

○ 硫黃乳

一〇、〇

○ 酸化亞鉛

各一七、五

○ 單寧酸

五、〇

○ 澱粉

五〇、〇

○ 硫黃乳

一〇、〇

○ 華攝林

五〇、〇

○ 酸化亞鉛

各一七、五

○ 右調和爲軟膏軟布ニ攤シ貼用

○ 澱粉

五〇、〇

○ 鹽酸ヒドロナキシユラミン

〇、一

○ 華攝林

五〇、〇

○ 酒精

各五〇、〇

○ 右軟膏ニ作ル淋篤布ニ攤シ貼用

○ 偏里設林

○ 其他切開、燒灼或ハ針刺等ノ諸法モ亦行フテ効アリ

○ 遺傳梅毒

*Syphilis congenita.*

シフキリス・コンゲニタ

(原因)本病毒ハ名義ノ如ク實父或ハ生母等ヨリ梅毒遺傳スルニ由ル

(診候)全身薄弱、足蹠及肛圍赤色ニシテ光澤ヲ放チ、鼻孔充塞等ヲ主トシハツチンソン氏三症等諸般ノ梅毒症候ヲ呈ス

(療法)可成母乳ヲ與フ可シ極メテ滋養性ノ食物ヲ與ヘ殊ニ口腔、陰部及ビ肛門ノ清潔ヲ專トシテ局所療法全身療法共ニ充分ナラザル可カラズ其他傳染セザル様注意シ兼テ兩親ニモ亦適應ノ療養ヲ施スベシ

○ 甘草

二〇、〇

○ 右十五包ニ作り朝夕每一包

○ 白糖

一〇、〇

○ 第一沃汞

〇、二

遺傳梅毒



白糖 一〇、〇  
 右十五包ニ作り朝夕毎二包  
 甘汞 〇、二  
 含糖炭酸鐵 〇、五  
 白糖 一〇、〇  
 右研和散十五包ニ作り朝夕每一包  
 昇汞 〇、一  
 餾水 一〇〇、〇  
 右調和每食後一小兒匙  
 一二歳ノ小兒ニ在テハ注意シテ時々左ノ軟膏塗擦法ヲ試ムベシ但シ持續ス可カラス  
 水銀軟膏 各二、〇  
 緩和軟膏 右調和十分シテ五日間ニ用フ

昇汞 (毎日二回) 五、〇  
 礮砂 二、〇  
 餾水 二〇〇、〇  
 右調和三浴ニ分用ス  
 陰部、肛圍ニ發シタル皮膚剝脱性或ハ潰瘍性ノ膿疱ニハ左方ヲ處スベシ  
 昇汞 〇、一  
 餾水 二〇、〇  
 右調和塗布料  
 口粘膜膿疱或ハ口角、鼻翼等ノ裂瘡ニハ灰白硬膏ヲ貼シ或ハ左方ヲ處スベシ  
 赤降汞 〇、五  
 緩和軟膏 一〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル

### ○全身梅毒

*Syphilis universalis.*

ジフキリス、ウニツエ、ザーリス

(原因)梅毒傳染ニ因ル

(診候)全身諸器臟ヲ侵シ千狀萬態ナルガ故ニ之ヲ畧ス

(療法)第一期梅毒

(イ) 梅毒性初期疾患(原發症)ノ療法

此期ニ於テハ可成其患部ノ切除ヲ賞用スベシト雖ドモ之ヲ以テ第二期症候ノ發生ヲ果メ防ギ得ルヤ否ヤハ豫言スルコト能ハザルナリ○此期ニ於テスル局處療法ハ二種ノ目的ニ出ヅル者ニ第一ニハ甚シク潰爛セントスル潰瘍面ヲ清潔ニシテ其潰爛ヲ防ギ第二ニハ硬結ヲ吸收セシムルニ在リ而シテ第一ノ目的ニハ沃度仿謨、赤降汞軟膏(赤降汞一、〇華攝林二〇、〇)等ヲ用ヒ第二ノ目的ニハ水銀硬膏、水銀硬膏ムル、水銀軟膏等ヲ用フ其他ノ治則ハ硬性下疳ノ條下ヲ參照スベシ

(ロ) 全身療法

第一期ニ於テテ全身水銀療法ヲ試ムルコトハ一定ノ場合ヲ除クノ他ハ適當ナラズ唯初期疾患ニシテ或ハ蔓延症、壞疽性、侵蝕性等ノ潰瘍ニ包莖若クハ嵌頓包莖ヲ合併セル者等ニ在テ水銀塗擦或ハ注射等ノ水銀療法ヲ行ヒ又著シキ硬性腺炎ニ在テハ沃鐵舍利別(沃鐵舍五〇、〇水一五〇、〇)毎日三食匙沃度肝油(沃度〇、一肝油五〇、〇)毎日二乃至八茶匙)等ノ沃度療法ヲ施スニ過ギズ而シテ傍ラ安靜ヲ守ラシメ沃度軟膏、沃度丁幾、水銀軟膏等ヲ其腺ニ塗擦シ或ハ水銀硬膏ヲ貼シ又タ兼ヌルニ有力ノ滋養食ヲ以テスベシ

(ハ) 攝生

全身梅毒



此二期ニ於ケル梅毒ノ孺生ニハ第二期ニ及テ被ムルベキ劇シキ發疹ノ侵襲ヲ豫防スルガ爲メ其最モ病毒ニ侵サレ易キ體部ノ療法ヲ施スニ在リ即口内炎、皮脂漏、頭髮脫落、濕疹、殊ニ生殖器及肛門ニ於ケル、足汗過多、齲齒、胃加答兒、常習便秘等其主ナル者ニシテ是等ノ療法ニ怠ルコトナク而シテ貧血家ニハ鐵、規尼涅ノ内服ヲ用ヒ鐵浴ヲ行ヒ又神經家ニハ緩性水治法ヲ施スベシ

第二期梅毒

全身驅梅毒法

(甲) 水銀療法

第二期ニ在リテハ全身驅梅毒トシテ專ラ強力ナル水銀療法ヲ開始スベシ水銀療法中最モ有力ナルモノハ塗擦法及注射法ノ二ナリ而シテ第一回ノ療法ヲ結了シタル後ハ往時ノ對症法ヨリモ軌近行ハル、フールニエー氏ノ慢性間歇的療法ヲ用フベシナイセル氏ハ該法中ニ主水銀療法ニ副水銀療法ナルモノヲ加ヘタリ

(イ) 塗擦療法

○ 水銀軟膏

二、〇乃至五、〇

○ 水銀レゾルピン

二、〇乃至五、〇

右爲一包蠟紙ニ包ミ與フ一日一

右同上

包ツ、塗擦用

本療法ヲ施スニハ先ツ患者ニ全身浴ヲ命ジテ皮膚ヲ清潔ニスベシ若シ全身浴ヲナシ能ハザルトキハ塗擦前該部ノ皮膚ヲ洗滌清潔ニシ而シテ一包ノ灰白軟膏ヲ開キ

之レヲ手掌上ニ取リテ塗擦部ニ塗り輕ク且ツ徐々ニ十五分乃至二十分間塗擦シ次に綿花ヲ以テ該部ヲ蔽ヒ繃帶ヲ施ス翌日ニ至レバ繃帶ヲ除キ該部ヲ洗滌シ更ラニ他部ニ塗擦ス此ノ如ク治療ヲ加フルコト第一日ヨリ第六日ニ達ス第七日ニハ塗擦ヲ休ミ必ズ全身浴ヲナサシム之レヲ療法ノ一周ト稱ス患者ヲシテ自ラ塗擦セシムルニハ左ノ順序ニ從フベシ

第一日 灰白軟膏ヲ右手ノ掌面ニ採リ之ヲ左肩ヨリ左ノ前膊ノ中央ニ至ル迄ノ部分ニ輕ク塗擦スルコト十五分乃至二十分間ナルベシ塗擦後右手ヲ洗滌スベシ

第二日 灰白軟膏ヲ左手ノ掌面ニ採リ右肩胛部ヨリ右前膊ノ部ニ至ルマテ塗擦スルコト第一日ノ如シ

第三日 第一日ノ如ク右手掌面ニ水銀軟膏ヲ採リ左大腿ニ塗擦スベシ

第四日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リテ右大腿ニ塗擦スベシ

第五日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リ左下腿ニ塗擦スベシ

第六日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リ右下腿ニ塗擦スベシ

第七日 塗擦ヲ休止シ全身浴ヲ命ズ

第八日 ヨリ更ラニ同一ノ順序ヲ以テ塗擦ヲ反覆スベシ塗擦ノ回数ハ奏効ノ如何ニ從フモノニシテ素ヨリ豫メ之レヲ一定シ難シト雖ドモ通常斑狀微毒疹ハ二十回乃至三十回ノ塗擦ヲ要シ膿疱性微毒疹、潰瘍性微



毒疹、護膜腫性微毒疹、骨及内臓ノ微毒等ニハ尙ホ其以上ノ塗擦ヲ要ス通常五周即チ三十回ノ塗擦ヲナスベシ而シテ尙ホ奏効ナキトキハ其以上此法ヲ持續スベシ

(ロ) 注射療法

注射ニ供スル汞劑中不溶解ノモノアリ溶解性ノモノアリ不溶解性ノモノハ一周一回之レヲ注射シ溶解性ノモノハ日々之レヲ注射ス甲ニ屬スルモノハ撒酸水銀等ニシテ乙ニ屬スルモノハ昇汞等ナリ

○ 撒酸水銀

流動パラフィン

一、〇  
一〇、〇

格魯兒那篤留謨  
鹽水

一、〇  
一〇、〇

右注射料(一週一筒宛)

主水銀療法トシテ撒酸汞ヲ用フルトキ

ハ八回乃至十回ノ注射ヲ以テスベシ

主水銀療法トシテハ三十回乃至四十回ノ注射ヲ要ス

○ 昇汞

〇、一

(ハ) 内服療法

内服ニ供スル汞劑ノ處方左ノ如シ

○ 單寧酸水銀

甘草養及末

三、〇  
各適宜

○ 單寧酸水銀  
阿片

右丸爲六十粒一日三回每食後一

五、〇  
二、〇

甘草養及末

各適宜

右爲百丸一日三回食後一丸乃至

二丸宛

○ 撒酸汞

〇、六

甘草末

各適宜

龍膽越

右爲六十丸一日三回每食後一丸

甘草養及末

各適宜

右爲六十丸一日三回每食後一丸

宛

○ 昇汞

〇、一二

格魯兒那篤留謨

一、〇

甘草養及末

各一、〇

右爲三十丸一日三回每食後一丸

宛

○ 黃色沃度汞

〇、六乃至三、〇

凡テ水銀劑ノ療法ニハ其内服、塗擦或ハ皮下注射ニ論ナク特ニ口内ノ攝生ニ注意シテ口粘膜ヲ刺戟スル飲食物ヲ禁シ喫烟ヲ斷チ而シテ格魯兒酸加留謨、過滿掩酸加留謨、石炭酸及撒里矢爾酸等ノ含嗽劑又五倍子丁幾、刺答尼丁幾等ノ塗布及清涼齒磨粉ヲ用フベシ尙ホ口内炎ノ條下ニ就テ治則ヲ參考スル所有ベシ○其他住所空氣及飲食ノ攝生ニモ亦注意ヲ加ヘ空氣ヲ新鮮ニシテ軟和ナル者ヲ擇ビ居所ハ之ヲ清潔ニシ適宜ノ運動ヲ營ミ精神ヲ安逸ニシ滋養無刺戟性ノ食物ヲ與ヘザル可カラズ○要スルニ水銀療法ハ梅毒ノ諸症候消失後モ尙ホ力ヲ持續スルヲ可トス故ニ其療養凡ソ四乃至六週間ノ久キニ瀾ルベシ

(乙) 沃度療法



水銀ニ亞テ有効ナルモノハ沃度劑ナリ而シテ第二期ニアリテハ發熱、頭痛及ビ骨關節神經ニ發スル微毒性患疾ヲ療スルトキニ用フ

○沃剝 二、〇〇 護謨漿 適宜

苦丁 三、〇〇 右爲三十九日三回一丸乃至二

○沃剝 二〇〇、〇 丸宛

右一日六回二日分服 〇沃剝 三、〇〇

沃剝 二、〇乃至一〇、〇 龍膽末及越 各適宜

〇沃剝 二〇〇、〇 右爲六十九日三回五乃至一〇

〇沃剝 一〇、〇 丸宛

甘草藥 一、〇 〇二五%ヨザピン 二〇〇、〇

亞爾答末 一、〇 右毎日二十立方仙迷腎部注入

梅毒ノ難症即膿疱性發疱或ハ初期既ニ早ク潰瘍トナル發疹及増悪ノ疾速ナル症ニ

在テハ強壯療法ヲ主トシ砒石劑、鐵劑、窒滿滿氏煎ノ内服等ヲ用フベシ若シ重症ニ

於ケルガ如ク全身療法ヲ必要ナリトシテ水銀療法ヲ行フ時ニ在テハ注意シテ其少

量ヲ用ヒ且同時ニ強壯療法ヲ施サル可カラズ又既ニ危險症ヲ呈スル者ニハ水銀

及沃度ヲ前後ニ換用スルコトナク兩ナガラ同時ニ應用ス可シ然レドモ經過中若シ

水銀内服ノ爲メニ胃加答兒ヲ併發スルトキハ頗ル危險ナル者ナルヲ以テ水銀ノ後

用ヲ廢セザル可ラカズ是故ニ水銀療法ハ一般ニ第一年及第二年ニ於テ四乃至六ヶ

月ノ休藥時ヲ以テ行ヒ且同時或ハ次テ沃度療法ヲ行フチ宜トス

○第三期梅毒

此期ニ於テスル梅毒療法モ亦タ第二期ノ如ク水銀及沃度ヲ用フ沃度劑ハ特ニ第三

期ニ於テ其効著明ナリ然レドモ沃度劑ニテ治シタルトキト雖ドモ必ズ之レニ次グ

ニ水銀療法ヲ以テスベシ危險ナル場合ニハ水銀及沃度ヲ同時ニ應用シテ其多量ヲ

用弗ズ只之ヲ持續シ而シテ二三ヶ月休藥後假令新ニ諸症候ヲ發スルコトナキモ尙

一二回同療法ヲ反覆スベシ其他局所療法ニハ外科的療法ヲ要スルコトアリ

○脊髓癆 *Tuberculosis dorsalis.* マービス、ドルチアリス

(原因) 專ラ梅毒其他房事過度、濕冷地上ノ坐臥、下半身勞力過度、心身過勞、急性傳

染病、外傷、麥角中毒、遺傳等ニ因スル脊髓後索ノ變質ナリ○三十年ヨリ五

十年ノ男子ニ多シ

(診候) 第一期(神經痛期)ニ在リテハ下肢ノ錐穿樣電痛、腰背絞窄、漆蓋腱反射消失

(ウエストフアール氏徵候)、瞳孔不變等ニ始リテ次テ第二期(運動不整期)ト

ナリ歩行困難、揚脚鷲步、直身閉眼體振(ロンベルグ氏徵候)、觸感及痛覺ノ

減退、利尿失禁、膀胱炎等ノ症候ヲ來タシ終ニ第三期(截癱期)トナリ下肢ノ

麻痺、陰萎、呼吸困難、腎痛等ヲ起シ漸々衰弱スルモノナリ

脊髓癆

四九九



(豫後) 概子不長ナリ經過ハ數年乃至十年

(療法) 黴毒ノ徵候或ハ疑アルモノニハ必ズ驅黴法ヲ施ス可シ其他初期ヨリ褥ニ就カシメ毫モ心身ヲ勞セシメズ内服ニハ沃度劑ヲ與ヘ又溫浴、電氣療法(平流電氣ヲ用ヒ脊椎部ノ上方ニハ積極、下方ニハ消極、毎二日一回五分間)按摩法代價性練習法等ヲ用非テ効アリ疼痛ニハ麻醉劑ヲ與フ可シ

右爲百丸一乃至二丸

○ 水銀軟膏 五、〇

○ 格魯兒銀

○ 沃度加留謨 三、〇乃至六、〇

○ 次亞硫酸那篤留謨

○ 苦丁 三、〇

○ 右調和皮下注射料(每回半乃至一筒)

○ 靚羅謨加留謨 五、〇

○ 樟腦 一、〇

○ 單舍 一五、〇

○ 白糖 二、〇

○ 右調和一日三回每一食匙(殊ニ神經質家ニ用フ)

○ 右研和散十包ニ作り朝夕每一包(遺精アル者ニ効アリ)

○ 硝酸銀 一、〇

○ 法水 五、〇

○ 白陶土 適宜

○ 桂皮水 二五、〇

○ 右調和朝夕二回每十乃至二十滴

○ 右調和朝夕二回每十乃至二十滴

○ 絲蟲 *Yucenia* テム

(原因) 蛙、鱒(擴節裂頭絲蟲)牛肉(無鈎絲蟲)豚肉(有鈎絲蟲)ノ本病ノ囊蟲ヲ含有セル者ヲ生食或ハ半熟食スルヨリ該蟲ノ腸内ニ寄生スルニ由ル而シテ本邦ニ見ルトコロノ絲蟲ハ過半擴節裂頭絲蟲ナリ

(診候) 食思缺乏、惡心、嘔吐、疝痛、流涎、鼻痒、瞳孔散大、心悸亢進、下痢或ハ便秘、耳鳴等ノ諸現症ナリトス

(療法) 驅蟲ノ方種々アリ次ニ述アル所ノ二方ハベルツ博士ノ方法ニ據ルモノニシテ先ヅ蓖麻子油一食匙ヲ與ヘ一日間米飯及麥飯ヲ禁ジ鹹味或ハ酸味ノ食物ノミヲ食セシメ水若クハ日本酒ヲ飲用セシメ翌朝驅蟲劑ヲ用フベシ

幼稚若シハ虛弱ナル小兒ニハ驅蟲法ヲ行フベカラズ○稍々年長ノ小兒ニシテ體質佳良下痢ノ繁習ナキ者ニハ左ノ藥劑ヲ用フルモ妨ゲナシ而シテ其前夜先ヅ便ヲ軟グルガ爲メ唯稀薄ノ肉羹汁ノミヲ與ヘ翌朝服藥後モ尙之ヲ用フ可シ若シ其藥劑ヲ吐スルトキハ更ニ同藥ヲ内服セルムルヲ宜トス

(甲) 一日間豫備ヲナシタル後早朝○、五

○ 綿馬越 五、〇

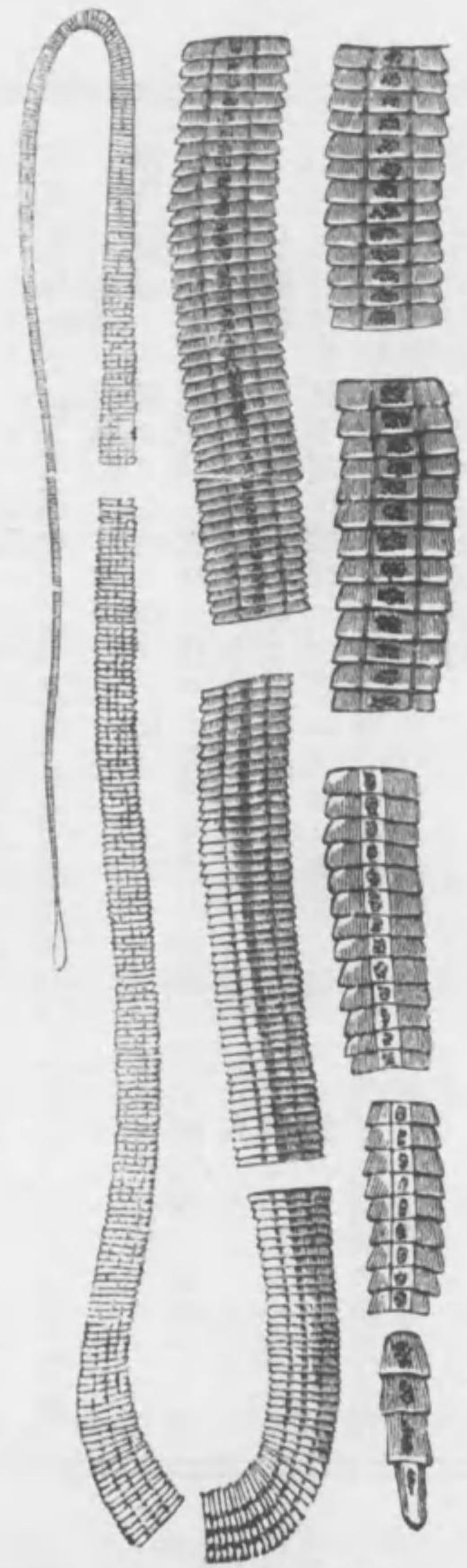
○ 右丸トシテ或ハ膠囊ニ入レ頓用 三〇、〇

○ 複方那浸 右頓用

○ 複方那浸 右頓用

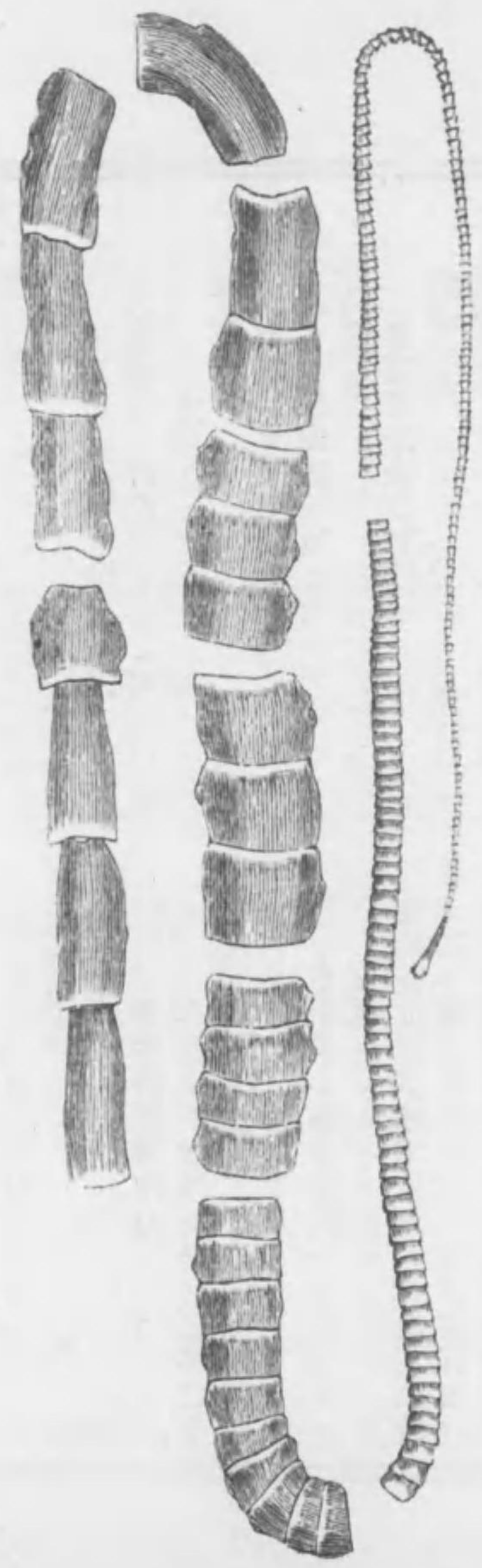


第三十八圖  
擴節裂頭絲蟲ノ圖



擴節裂頭絲蟲ハ人體寄生蟲ノ最大ナル者ニシテ其長キモノハ九「メートル」ニ達ス  
頭ハ扁平橢圓形ニシテ兩面ニ深キ吸溝ヲ有シ頭ハ長クシテ細キコト絲ノ如シ而シ  
テ片節ノ多キ三百乃至千二百ヲ算ス本圖ハ其各節ノ自然大ヲ示スモノナリ

第三十九圖  
無鈎絲蟲



絲蟲



○ 加兒爾斯泉鹽 一五、〇

右一盞ノ水ニテ用フ

○ (乙)豫備前方ノ如クニシテ左方ヲ用フ

○ 新鮮柘榴根皮 六〇、〇

チ五〇〇、〇ノ冷水ニ浸ス、廿

四時間ノ後煮沸シテ二〇〇、〇

トナセルモノニ

○ 綿馬越 三、〇

右二分シ三十分時ヲ隔テ、用井

タル後蓖麻子油ヲ用フ

○ 蓖麻子油 二〇、〇

右頓用(以上乙方)

○ 柘榴根皮 五〇、〇

重曹 五、〇

之ヲ四〇〇、〇ノ水ニ浸シ二

十四時間放置シ後煮沸シテ其

量二〇〇、〇ト作シ之ニ綿馬

越幾斯五、〇ト橙皮舎二〇、〇

チ加フ

右全量ヲ一時乃至一時間半内ニ

於テ三回ニ分服セシム

○ 柘榴根皮 五〇、〇

重曹 五、〇

二十四時間許四〇〇、〇ノ水

ニ浸出シ煮沸シテ其量二〇

〇、〇ト作シ之ニ滿那舍利別

二〇、〇ヲ加フ

右全量ヲ每半時間ヲ以テ三回ニ

分服セシム

又柘榴根皮ハ其味不佳ナルガ故ニ患者

若シ之ニ堪ヘザルトキハ先ヅ食道内ニ

消息子ヲ送リテ一回ニ注入スルヲ可ト

ス此際ニ患者ヲシテ前一日間其食ヲ斷

タシメ且ツ下劑ヲ投シテ腸ノ内容物ヲ

排除ス可シ

○ 苦蘇花末 二五、〇

○ 蜂蜜 適宜

右調和紙劑ニ作リ一時間以内ニ

於テ二回ニ分服セシム

○ 綿馬越 各一〇、〇

柘榴根皮越 三、〇

○ 藥刺巴末 各一〇、〇

右研和丸七十粒ニ作リ先ヅ其十

五乃至二十粒ヲ前斷食日ニ服セ

シメ次日ニ至リ二三時間以内ニ

其殘餘ヲ服盡セシム(ベツテル

ハイム氏法)

○ 下劑ヲ要スル場合ニハ左方ヲ處スベシ

○ 維也納下劑 二〇〇、〇

右灌腸料

○ 加麻刺末 二〇、〇

綿馬越 五、〇

右膠囊三十個ニ分包シ每十五分

時一囊ヲ與フ

○ 加麻刺末 二〇、〇

右散五包ニ作リ每十五分時一包

○ 苦蘇花越 一〇、〇

苦蘇花末 適宜

右研和丸二十粒ニ作リ每十五分

時四粒

○ アカシヤ皮 四〇、〇

右茶劑トナシ食前三乃至四時間

内服(チール氏)

○ 巴豆油 一滴

嘔囉仿謨 三、〇

偏里設林 三〇、〇

右調和用法同上

○ 硫酸ベレチエリン 〇、三

單寧酸 〇、五

○ 餾水 三〇、〇

右調和內服

小兒ニハ左方ヲ處ス



○ 柘榴根皮越

薄荷舍

二、〇  
一〇、〇

○ 右調和同上  
綿馬越

蜂蜜

適宜

蜂蜜

一、〇  
適宜

○ 右調和舐劑ニ作り一日三回分服  
苦蘇花及同葉末  
精製蜂蜜

○ 右調和同上  
又或ハ前段ニ掲ゲタル大人用藥劑ヲ減量シテ小兒ニ應用スルコトアリ

○ 破傷風

*Tetanus.*

テタヌス 強直症

(原因) 千八百八十九年醫學博士北里柴三郎氏ノ證明セラレタル破傷風「バチルレ  
ンレナリ

(診候) 眼瞼破裂縮小、外背舉上、開口困難ヲ發シ咀嚼筋強直性攣縮ニ罹レルヲ認ム  
(牙關緊急) 後更ニ項背諸筋ノ痙攣ヲ續發シ(角弓反張) 終ニ軀幹及ビ四肢ノ  
筋ニ及ブ知覺至敏反射機能甚シク亢盛、體溫四十度及ビ其以上ニ達スルコ  
トアリ

(療法) 重症ハ概テ不良ナルモ輕症ハ治スルヲ常トス  
(皮下注射ヲ最良トス) 嘔吐防謨ノ吸入ニ兼テ抱水格魯拉爾及ビ莫兒比涅ノ  
内服(常ニ輕眠ヲ來ス) 等用ヒテ効有リ○創傷ハ可及的之レヲ除去スベシ○

○ 抱水格魯拉爾  
常水 二、〇  
右調和十五分時一食匙 二〇、〇  
亞拉昆亞護膜漿 各五〇、〇  
右調和瀉腸用 臭劑 一〇、〇乃至二〇、〇  
抱水格魯拉爾 五、〇  
右調和一日三回一食匙一盞ノ水 二〇〇、〇  
餾水 一〇〇、〇  
ニ和シテ用フ

○ 抱水格魯拉爾  
常水 二、〇  
右調和十五分時一食匙 二〇、〇  
亞拉昆亞護膜漿 各五〇、〇  
右調和瀉腸用 臭劑 一〇、〇乃至二〇、〇  
抱水格魯拉爾 五、〇  
右調和一日三回一食匙一盞ノ水 二〇〇、〇  
餾水 一〇〇、〇  
ニ和シテ用フ

○ 旋毛蟲

*Trichinen.* トリコーネン

(原因) 「トリヒナ、スピラーリス」ト名クル蟲ヲ含ム肉類殊ニ家猪ノ肉ヲ食用シタルニ由ルモノ多シ

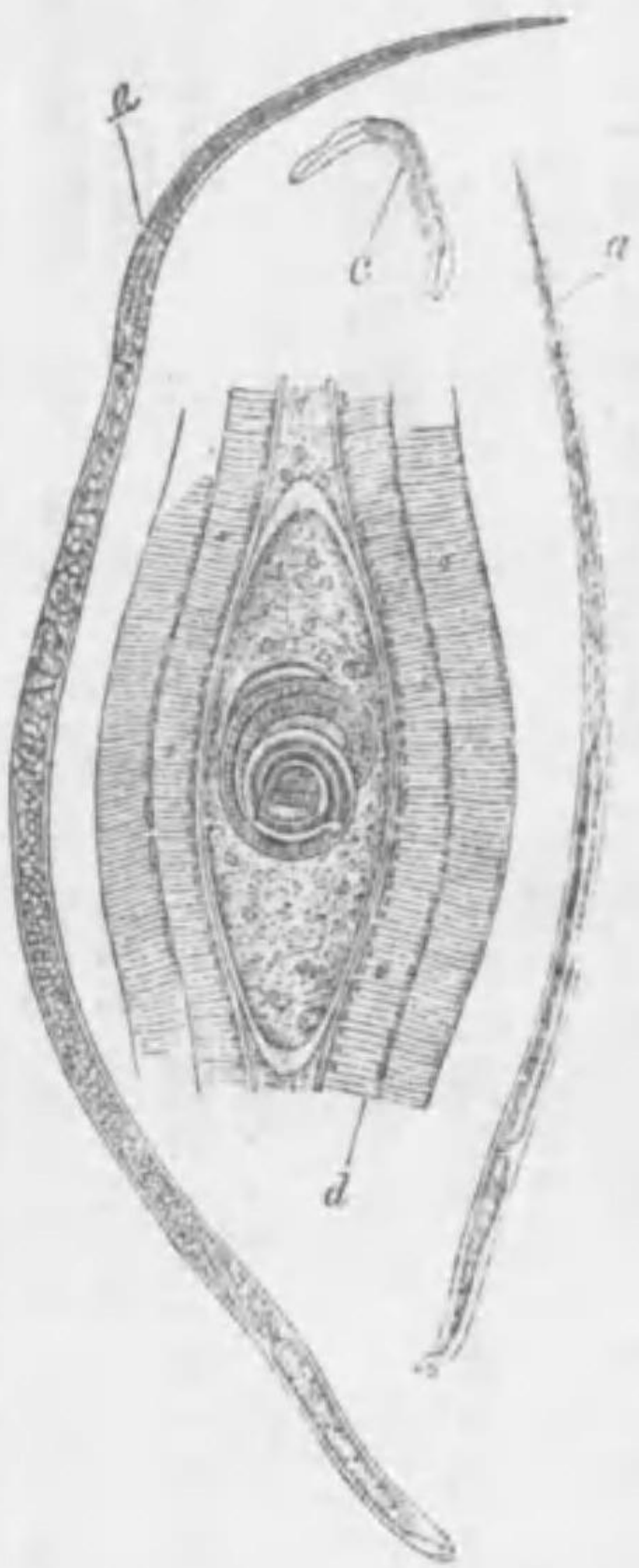
(診候) 食思缺亡、胃部壓重、虎列拉樣下痢、嘔吐、發熱等ニ始マリ次テ腹圍内部ノ穿  
刺性劇痛、或ハ痙攣質斯樣筋痛、發汗、眼瞼浮腫、呼吸困難、不眠、煩渴、心悸  
亢進等ヲ來タスモノナリ  
(豫後) 輕症ハ良、重症ハ不良

破傷風 施毛蟲



旋毛蟲ノ圖

右方ハ雄蟲ニシテ一、五「ミリメートル」左方ハ雌蟲ニシテ三〇「ミリメートル」中央上方ハ幼蟲其下方ハ筋肉内ニ施毛蟲ノ舍ルヲ示ス



圖十四第

(療法)施毛蟲ノ尙ホ胃腸内ニ在ル者ニハ胃ノ洗滌ヲ行ヒ或ハ下劑ヲ投ズ可シ而後ノ療法ハ對症的ニシテ蓖麻子油、甘汞等緩下劑ヲ用フルニ過ギス○重症ニシテ弛張熱ヲ呈シ安眠ヲ得ザル者ニハ先ヅ溫浴ヲ取ラシメ毎夕莫兒比涅ヲ與ヘ且ツ晝夜共ニ褥中ニ安臥セシメ解熱劑ニハ撒酸ヲ用井テ効アリ○豫防ニハ生豚肉ヲ食スルヲ禁ズ

- 甘汞 一八〇、〇
- 葯刺巴末 各一、二
- 白糖 右半量乃至全量
- ベンツオール 一〇、〇
- 薄荷水 各三〇、〇
- 鹽莫 一〇、二
- 鹽水 右半筒乃至一筒

○ 肺結核、喉頭結核

*Tuberculosis pulmonum et laryngis.* ツメルクロージス、ブルモ、イヌム、エト、ラリンギス

(原因)結核「パチルス」ノ傳染ナリ(着色圖ヲ看ヨ)

(診候)頑固性ノ咳嗽、膿球、血液、結核菌及彈力性纖維ヲ含メル咯痰、肺ノ水泡音、喘息、聲音震顫ノ強盛、咯血、胸壁陷沒、鼓濁音、空洞音、鑛性音、盜汗、下痢、食思欠損、日晡潮熱、肌膚蒼白、全身削衰等

喉頭ニ發スレバ嘶嘎及喉頭痛等ヲ兼メルモノナリ

(豫後)不良

(療法)新鮮善良ノ空氣中ニ住居セシメ冬季ニハ南方ニ轉地療法ヲ行フ假令熱候アルモ敢テ旅行ヲ妨グス然レドモ若シ既ニシテ肺ニ空洞ヲ生ジタル者ハ轉住



療法ハ却テ害アリ○本症ノ治則中實用スル所ノ者ハ「ガアヤコール」、結麗阿曹篤、コツホ氏結核液ノ應用ナリ其他熱候微弱ニシテ咯痰多量ナル者ニ寒暖ノ變化甚シカラザル高燥轉地ノ療法ヲ行ハシメ又咯血ノ傾向有リテ日哺潮熱シ且乾咳等ノ症候アル者ニハ暖濕溫和海濱ノ轉地療養ヲ行ハシムル

第十四圖



結核菌ヲ含ム咯痰

等良法ナリトス要スルニ夏ハ山地ニ轉ジ或ハ終始善良ナル空氣ヲ求メ滋養食、肝油、「セルテルス」水、牛乳等ヲ與ヘ解熱法ヲ力メ鎮咳劑ヲ與ヘ無熱時ニハ極メテ滋養性ノ食物ヲ與ヘ鐵劑(注意ヲ要ス)ヲ用ヒ或ハ肺ノ運動ヲ鼓舞シ或ハ冷水ヲ用井テ皮膚ノ慣寒ヲ養成シ又乳精療法或ハ葡萄療法ヲ行フ

等肺勞治則ノ一般ナリトス○喉頭ノ結核性潰瘍ニハ腐蝕ヲ禁ズ又咳嗽、嚔下困難、輕度ノ呼吸困難等ハ莫兒比涅ノ吸入或ハ古加乙涅ノ塗布(喉頭鏡ニ憑リ)ヲ用井テ之ヲ鎮靜スルコトヲ得ベシ輕症ナル者ハ明礬、鞣酸等ノ吸入ヲ用フ其他對症療法ヲ施スニ過ギズ然レドモ病勢進ンテ喉頭ノ狹窄セルガ爲ニ呼吸困難ヲ來セル者ニハ氣管切開術ヲ行フベシ  
小兒ニハ其始メ母乳ノミヲ與ヘ後ニ至リテ適當ノ食物ヲ給スルヲ宜トス然レモ澱粉性ノ食物ハ之ヲ多量ニ與フ可カラスコッホ氏ノ「ツベルクリン」療法ハ未タ奏効ノ有無明ナラズ

- 結麗阿曹篤 一五〇、〇
- 阿列布油 〇、二
- 右一膠囊ニ入レ六個ヲ與フ一日 三回每一個宛
- 結麗阿曹篤 〇、一
- 黃蠟 〇、〇五
- 白蠟 〇、一五
- 右二丸トナシ十二丸ヲ與フ一日 三回二丸宛
- 結麗阿曹篤 一、〇乃至二、〇
- 肝油 一五〇、〇
- 右一或ハ二茶匙每食前內服(「ブーシヤール氏」)
- 結麗阿曹篤 一三、五
- 龍膽丁 三〇、〇
- 酒精 一五〇、〇
- マラセン酒 適宜
- (全量一〇〇〇、〇トナス)
- 右調和毎日二或ハ三回一食匙ヲ一盞ノ水ニ加ヘテ食時ニ用フ

肺結核及喉頭結核



- (ギンテルト氏、プーシャル氏)  
結麗阿曹篤 一、〇
- 龍膽丁 二、五
- 酒精 二五、〇
- 設里酒 適宜
- (全量一〇〇、〇トナス)  
右調和二日三回或ハ二回二茶匙ヲ  
半盞ノ水ニ和シテ用フ (フレン  
ツエル氏)
- 結麗阿曹篤 〇、〇五
- 篤爾拔爾撒謨 〇、二
- 右調和一膠囊ニ包ム百個ヲ作リ  
與フ  
初日二箇爾來八日間三箇宛第  
二週ニハ二個第四週ニハ六個  
宛ヲ與フ (二ヶ月以上連用但  
シ食後ニ服用ス可シ)
- 肝油 一五、〇
- 右臨臥時頓服  
結麗阿曹篤 二、五
- 肝油 二〇〇、〇
- サツカリン 〇、一
- 右調和一日二三回每一食匙
- 結麗阿曹篤 二、〇乃至三、〇
- 亞砒酸那篤留謨 〇、〇四
- マラセン酒 五〇〇、〇
- 右調和每食時二小盞
- カコゲール酸 〇、五
- 鹽酸古加乙涅 〇、〇三
- 結麗阿曹篤 五滴
- 重曹 〇、三
- 縮水 一〇〇、〇
- 右皮下注射料五分ノ一筒ヨリ漸  
次一筒ニ至リ一週休藥ス
- 結麗阿曹篤 六滴
- 偏里設林 三〇、〇

- フルメント精 六〇、〇
- 右調和每三時一食匙ヲ水ニ加ヘ  
用フ
- 結麗阿曹篤 二、〇乃至四、〇
- 甘扁桃油 二五、〇
- 卵黃 一個
- 縮水 二〇〇、〇
- 右乳劑トナシ灌腸料 (先ツ洗滌  
灌腸ヲ行ヒ後本劑ヲ用フ數週間  
毎夕之ヲ施ス)
- 結麗阿曹篤 四滴
- 沃度仿謨 一、〇
- 有加里油 八滴
- 嚼嚙仿謨 四十八滴
- 亞爾箇保爾 各一五、〇
- 依的兒 各一五、〇
- 右調和吸入料
- グアヤコール 一三、五
- 肺結核、喉頭結核
- 龍膽丁 三〇、〇
- 酒精 二〇〇、〇
- 設利酒 適宜
- (全量一〇〇〇、〇トナス)  
右調和一日二或ハ三回一食匙宛  
一盞ノ水ニ和シテ用フ (フレン  
ツエル氏)
- 炭酸グアヤコール 一、〇
- 乳糖 二、〇
- 右爲六包一日三回一包宛
- グアヤコール 一、〇乃至二、〇
- 縮水 一八〇、〇
- 酒精 二〇、〇
- 右調和黑色壘ニ入レ毎日二或ハ  
三回一茶匙乃至一食匙食後一盞  
ノ水ニ和シテ用フ
- 發熱アルモノニハ左方ヲ處ス
- 撒曹 二、〇乃至三、〇



右爲一包「カブラート」ニ包ミ早朝無熱ノ時ニ頓用  
 安知必林 五、〇  
 右五包ニ作り毎日一乃至三包  
 安知歇親林 各二、〇  
 白糖 右十包ニ作り毎夕一乃至二包  
 硫規 一、〇  
 白糖 五、〇  
 右十包ニ作り一日三回每一包宛  
 硫規 一、〇  
 鹽莫 〇、〇五  
 重曹 二、〇  
 白糖 二、〇  
 右十包ニ作り一日三回每一包  
 硫規 一、〇  
 寶菱末 〇、一  
 吐根末 〇、一

阿片 各〇、五  
 甘草越 適宜  
 右研和丸五十粒ニ作り一日三回每一粒(日哺潮熱ニ用フ)  
 咳嗽アル者ニハ左方ヲ處シテ効アリ  
 非沃斯越 〇、五  
 白糖 五、〇  
 右十五包ニ作り一日三回每一包  
 非沃斯越 〇、三  
 杏仁水 各五、〇  
 鹽水 右十五滴一盞ノ水ニ加ヘ咳嗽頻發時ニ頓用  
 鹽莫 〇、〇三  
 杏仁水 一〇、〇  
 右十五滴宛咳嗽時一盞ノ水ニ和シ頓用  
 印度大麻越 〇、五

白糖 五、〇  
 右研和散十包ニ作り朝夕每一包  
 杏仁水 各一〇、〇  
 安母尼亞茴香精 〇、一  
 鹽莫 二、〇  
 甘草羔 二、〇  
 右調和每二時十乃至十五滴  
 葦若越 〇、三  
 安母尼亞茴香精 二、五  
 鹽水 一五、〇  
 右調和每三時十滴乃至十五滴  
 咯痰ノ甚ダ多量ナルモノニハ左方  
 百露拔爾撒謨 二〇、〇  
 再臨的列並底油 二、〇  
 右一日三回每十滴水ニ和シテ用フ  
 的列並油 五滴  
 薄荷油 一滴

右膠囊ニ入レ一日三乃至五個  
 不眠症ニハ  
 プルフホナール 二、〇乃至四、〇  
 右分四包臨臥前ニ用フ  
 パルアルデヒド 二、〇乃至四、〇  
 護謨漿 六〇、〇  
 單舍 三〇、〇  
 右調和頓服(催眠藥)  
 發汗アルモノニハ左方ヲ處ス可シ  
 硫酸亞篤羅必涅 〇、〇五  
 鹽水 二〇、〇  
 右十乃至三十滴臨臥前ニ用フ  
 硫酸亞篤羅必涅 〇、〇二  
 甘草末及同越 適宜  
 右二十粒ニ作り毎夕一或ハ二粒  
 羯布羅酸 〇、七  
 右頓用  
 咯血アルトキハ安靜ヲ命ジ發言ヲ禁シ



咳嗽ヲ鎮靜シ強芥子泥發泡硬膏等ヲ貼シ出血ノ肺尖若クハ其淺表ニ在ルカナル時ニ限リ其部ニ氷嚢ヲ貼ス然レドモ咯血止ミタルト同時ニ氷嚢法ハ廢セザル可ラズ其他診察ノ際強打診ヲ避ケ麻酔鎮咳劑ノ他止血藥トシテ左方ヲ處ス

- 麥角浸 (六、〇)二〇〇、〇 右一日六回二日分服
- 麥角越 二、五
- 甘草末 各適宜
- 甘草羔 右五十九ニ作り一日五乃至十九
- 麥角越 二、〇
- 餾水 一〇、〇
- 石炭酸 一〇、一
- ヒドラスチス流動越 右半筒乃至一筒皮下注入料

右一日三回水ニ和シテ用フ 十五乃至二十滴

- 醋酸鉛 〇、〇三乃至〇、〇五
- 白糖 五、〇
- 宛 右爲一包與三包一日三回一包
- 下痢ヲ發シタルトキハ左方ヲ處ス可シ
- 阿片 〇、一
- 單寧酸 一、〇
- 古倫僕末 二、〇
- 右研和散十包ニ作り毎時一包
- 古倫僕煎 (二〇、〇)二〇〇、〇
- 沙列布漿 一〇、〇
- 水製阿片越 一〇、一
- 橙皮舍 二〇、〇
- 右調和每二時一食匙
- 陀氏散 一、〇乃至一、五
- 右爲三包一日三回一包宛

- テルマトール 五、〇
- 右分十包一日四乃至八包
- チオホルム 〇、一五
- 阿片末 〇、〇二五
- 單寧酸 〇、一
- 右爲一包與六包一日二回一包宛
- 貧血症ニハ
- 林檎酸鐵丁 各一五、〇
- 苦丁
- 右調和毎日半乃至一茶匙
- 林檎酸鐵丁 三〇、〇
- 橙皮舍 一〇、〇
- 右調和毎日三回一茶匙宛水或ハ
- 酒ニ和シテ用フ
- 林檎酸鐵越 五、〇
- 蒲公英越 適宜
- 右五十粒ニ作り朝夕毎二粒
- 沃鐵舍 一〇、〇

- 橙皮舍 二〇、〇
- 右調和朝夕每一茶匙
- 汗油 一〇〇、〇
- 右朝夕每一食匙
- 喉頭潰瘍ノ局處療法ニハ左方
- 鹽酸古加乙涅 〇、二乃至〇、五
- 僱里設林
- 餾水 各五、〇
- 鹽莫 〇、二
- 右調和塗布料
- 鹽酸古加乙涅 〇、二乃至〇、五
- 鉛糖 二、〇
- 白糖 八、〇
- 右研和吹入料
- 鹽酸古加乙涅 〇、二乃至〇、五
- 次硝酸蒼鉛
- 白糖 各五、〇
- 右研和吹入料



○ 鹽酸古加乙涅

石炭酸

餾水

右調和吹入料

○、三

○、五

二、〇

○ 木蓂兒水

右吹入料

其他蒸氣吸入モ亦有効ナリ然レドモ咯血アル者ニハ行フ可カラズ

二〇、〇

○ 白腫

*Tumor albus.*

ツモール、アルブス

(原因) 腺病質ノ人殊ニ兒童ニ於テ膀胱、膝關節、足根關節等ノ肉芽性炎ナリ結核

「パチルレン」ニ胚胎ス

患部ノ慢性ナル腫起失色疼痛、多少ノ發熱、患部ノ化膿瘻孔關節強直等ノ諸症ニシテ全身症狀ハ腺病質ノ特徴ナリ

(診候) 可成其關節ヲ安息シ「ギブス」、水硝子等ノ固定繃帶ヲ施ス可シ初期ニハ冷

壓定布ヲ用ヒ或ハ吸收藥ノ塗布ヲ用ヒ幼年ノ者ハ田舎ニ轉居セシメ或ハ山地ノ空氣ヲ呼吸セシメ滋養性ノ食物ヲ與ヘ藥劑ニハ汗油ハルレル氏沃度水、沃度溫浴等用井テ効アリ又貧血ニハ鐵劑ヲ用ヒ壯者(春機發動期後)ニハ適應時ニ手術ヲ行フベシ

○ 百日咳

*Tussis convulsiva. (Pertussis.)*

疫咳

ツッシス、コンウルジロー(ベルツッシス)

(原因) 一種特異ノ病毒傳染ニ因テ起ル大抵小兒(一年乃至六年)ノ疾病ナリ春冬寒冷ノ二季ニ於テ流行性ニ來ルコト多シ

(診候) 二日乃至七日ノ潜伏期ヲ經テ通例單純ノ氣管支加答兒ノ症狀即チ通常ノ咳嗽ヲ呈スルコト一週乃至二週(加答兒期)次ニ發作性ノ痙攣性咳嗽(鷓鴣樣

或ハ吹笛樣ノ長キ深吸息次ニ短カキ呼吸的咳嗽ノ類發次ニ吹笛樣ノ長吸息即チ「ルブリーズ」ヲ發スルコト四週乃至五週其間一日ノ發作輕症ハ三四回通常十五回乃至三十回、重症ハ六十回以上百回ニ達ス、終ニ減退期ニ移

リ發作輕快シニ乃至四週ニテ治ス經過ハ二月以上ニシテ六七月ノ久シキニ瀕ルモノ有リ動モスレバ加答兒性肺炎ヲ併發ス

(豫後) 既子良、但シ肺炎ヲ合併スレバ不良

(療法) 其初期ニハ單ニ鎮咳劑ニテ足ルモノナリト雖トモ後ニ至レハ親羅謨加留謨或ハ莫兒比涅ヲ用井ザル可カラズ而シテ新鮮ノ空氣ヲ擇ミ毎日一二時間之ヲ呼吸セシム可シ○健兒ハ之ヲ嚴ニ離隔シ兼子テ寒胃ヲ防クベシ○發作ノ際ニハ其兒ヲ扶ケテ粘液ノ咯出ヲ促サシメ室内溫度ハ之ヲ平等ナラシメザル可ラズ而後有力ノ滋養品、規尼涅、鐵劑、葡萄酒、肉食ヲ與ヘ又鼻腔ノ檢査ヲ怠ル勿レ

○ 蓂若末

白糖

○、一

五、〇

○ 蓂若末

右十包ニ作リ一日三回每一包

五滴

白腫 百日咳







(原因)局所ノ器械的刺戟ニ關スル表皮細胞ノ形成過多ナリ

(診候)表皮細胞ノ一局所ヲ限リ増殖スル者ニシテ甚ダ堅固ナリ多クハ手足ニ發ス

(療法)硬固ナル表皮ヲ剝離シテ鶏眼ヲ切除シ而後硬膏或ハ軟膏ヲ貼ス可シ○乳頭狀ノモノニ在テハ「バクレン」及ビ絨毛輪ヲ用ヒテ可ナリ○ロエセン氏ハ左法ヲ發明セリ乃チ先ヅ其部ヲ防腐液(硼酸或ハ撒酸)ヲ用ヒテ潤ホシタル後大凡四「ミリメートル」乃至半仙迷ノ厚サニ結晶撒酸ヲ以テ被ヒ而シテ其上ヲ被フニ無刺戟性ノ繻帶品即チ數層ニ疊ミタル硼酸溶液ノ濕淋瀉等ヲ以テシ更ニ繻帶百兒加ヲ用井テ其表面ヲ密蔽スルナリ鶏眼、輕度ノ疥癬或ハ疣贅ニハ此繻帶ヲ用フルコト五日間ニテ其効ヲ奏スルモノトス

○ 白降汞

二、〇

右塗布用

○ 緩和軟膏

二、〇、〇

○ 濃厚硝酸

一〇、〇

右調和軟膏ニ作り塗布(其上ヲ覆フニ繻帶百兒加紙ヲ以テス)

○ 右硝子杆ヲ用井テ點布ス

○ 白降汞

各二、〇

○ 水銀硬膏

各五、〇

○ 酸化亞鉛

二、〇、〇

○ 石鹼硬膏

各五、〇

○ 單軟膏

二、〇、〇

○ 撒酸

各五、〇

右調和軟膏ニ作り塗布

○ 換シテ表皮ノ軟化剝離ヲ俟ツ

○ 歌親拉氏軟膏

二、〇、〇

○ 古魯胃謨

五、〇、〇

印度大麻越

一、〇

右調和毛筆ヲ用井テ貼布ス

### ○盲腸炎及盲腸周圍炎

*Typhlitis et Perityphlitis*

*Milits*

トフリチス、エト、ベリチフリチス

(原因)盲腸炎及盲腸周圍炎ナル名稱ハ適當ナル名稱ニ非ラズ何トナレバ最近ノ研究ニヨリテ病ノ發スルトコロハ主トシテ蟲樣突起ニアルコト明ナレバナリ其盲腸ニ原發スルハ甚ダ稀ナリ故ニ近時ハ蟲樣突起炎 *Appendicitis* ト云フ其原因ハ突起ニ醗病細菌ノ侵入スルニアリ突起内糞石形成ハ炎症ノ發生ヲ促ガスモノナリ

主トシテ盲腸或ハ蟲樣垂内ノ異物殊ニ糞石ノ刺戟ニ由ル又結核、潰瘍、寒胃、近傍ノ炎症波及等ナリ

(診候)右腸骨窩部ノ劇痛頓發及其下方波及、惡寒、體温及ビ脈搏ノ増加、嘔吐、便秘、腹膜炎、腹部膨滿等ナリ

(豫後)漿液性盲腸周圍炎ニアリテハ良、化膿性盲腸周圍炎ニ於テハ甚ダ疑ハシ其穿孔シテ汎發性腹膜炎ヲ發シタルトキハ多數ハ死亡ス

(療法)嚴重ニ安靜ヲ命シ牛乳鷄卵肉羹汁等易消化流動性ノ食物ヲ與ヘ疼痛ニハ氷嚢ヲ貼シ(患者冷褻法ヲ厭フキハ温褻法ヲ用ユベシ)又其患者強壯家ナレバ水蛭ヲ放チ又阿片ヲ用フ○滲出物ノ殘留ヲ認メバ沃度劑ヲ塗布ス可シ○

盲腸炎及盲腸周圍炎



膿瘍ヲ形成シタルトキ腹膜腔内ニ穿孔シタルトキ等ニハ外科的手術ヲ要ス

- 左ノ場合ニハ必ズ外科的手術ヲ用フベシ
- (一) 腹膜ニ益々蔓延スル件
- (二) 膿瘍ノ破潰セントスルトキ及ビ熱ノ化膿ヲ明示スル件
- (三) 三日乃至五日ノ間ニ於テ輕快ヲ見ズシテ反テ増悪スル件
- (四) 反覆再發スル件(但シ發作無キ時ニ手術スルヲ可トス)

阿片末	〇、五	右分五包一日五回分服
白糖	三、〇	鹽莫
阿片丁	二十滴	右半筒皮下注射(疼痛ノ甚シキトキ用フ)
扁桃乳劑	五〇、〇	水蛭
右調和每三時一食匙		右腸骨窩部ニ貼用
阿片丁	三十滴	右腸骨窩部ニ貼用
單舍	一〇、〇	五%イヒチオールグリセリン
縮水	九〇、〇	右患部塗布料
右一日數回分服		沃度ワソゲン
阿片末	〇、一	右塗擦料
乳糖	二、〇	加里石鹼

黃色華攝林	各二五、〇	沃丁	各五、〇
沃度仿謨	五、〇	五倍子丁	
右外用		右塗布料	

腸室扶斯 Typhus abdominalis. チブス、アブドミナリス

(原因) エーベルト氏發見ノ腸室扶斯「バチルレン」ノ傳染ニシテ該毒ヲ含メル飲食物殊ニ飲用水ヨリ來ルモノ多シ

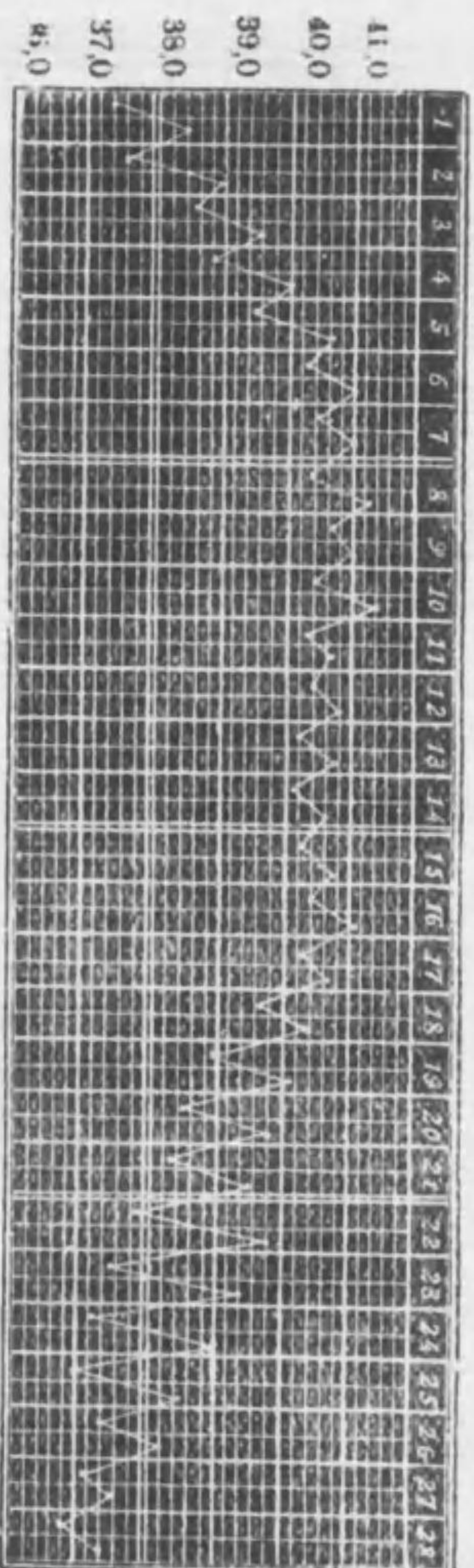
(診候) 潜伏期(平均十四日)ノ後全身倦怠、頭重、食思欠損、睡眠不穩等ノ先驅症(數日乃至一二週)ヲ呈シ次テ惡寒(概テ數回)發熱大渴引飲、舌唇乾燥牽裂、便秘或ハ下痢(豌豆汁ノ如キ便)盲腸部ノ雷鳴及知覺過敏、脈數體溫ニ比スレバ其數少ク(八十乃至百)脾腫、薺薇疹(第四或ハ第五日ヨリ軀幹ニ)及本病特異熱ノ定型即チ發病第一週ノ始メ五六日ハ日々體溫概テ半度宛上昇シテ遂ニ四十度乃至四十一度ニ達シ第一週ノ終若クハ第二週ノ始ヨリ稽留シ輕症ニ在テハ該週ノ終、重症ニ在テハ第三週ノ終ヨリ著シキ弛張ヲ始メ輕症ハ三週重症ハ四週乃至六週ニシテ常溫ニ復スルヲ常トス然レドモ常ニ著シキ弛張ヲナシ且ツ最高溫四十度ニ達セズ全發熱ノ期十乃至十四日ヲ算スルモノモ亦タ多シトス但シ重症ハ腸出血、肺炎、腦膜炎稀ニ腸穿孔ヲ合併シ或ハ心臟麻痺ニ由テ死ス○第二週ノ末期或ハ第三週ニ腸出血ヲ來スコトアリ

腸室扶斯



圖 二 十 四 第

週一第 週二第 週三第 週四第



斯 扶 室 腸

第三乃至第五週ニ腸穿孔ヲ發スルコトアリ○體溫常溫ニ復シタル後直チニ再發スルコト尠カラズ○尿ニ「デアツオ」反應アリ○血液ニウ#ダール氏反應アリ

室扶斯ノ變形ハ次ノ如シ○(一)輕症即チ最輕症(胃熱)ハ速カニ始マリ經過短カシ(八日乃至十四日)○(二)不全室扶斯ハ速カニ發熱シ二三日ニシテ下降ス○逍遙室扶斯ハ全身症狀ハ極メテ輕微ニシテ患者常ノ如ク職業ニ從事シ外出道遙殆ンド意ニ介スル處ナシ然レドモ第二週或ハ第三週ニ於テ俄然腸出血穿孔ヲ發スルコトアリ

(豫後)脈搏百二十以上ナルモノ或ハ脈搏軟少ナルモノ或ハ脈搏不正ナルモノ或ハ四十一度以上ノ熱永續スルモノハ豫後不良、腸出血、肺炎、膈膜炎ヲ合併スルモノモ不良、腸穿孔ヲ發スレバ殆ンド必ズ死ス、其他老人、産婦、心臟病患者ハ危險ナルコト多シ○發熱甚ダシカラザルモノ、合併症ナキモノ及小兒ハ良

(療法)安臥靜息ヲ命ジ最モ食餌ニ注意ス可シ即チ絶對的ニ固形ノ飲食ヲ禁ジ常ニ液狀滋養品ヲ與フ可シ、牛乳、肉羹汁、生卵、卵酒ヲ與ヘ、輕症ニハ少量重症ニハ多量ノ葡萄酒ヲ飲用セシム可シ、無熱トナリテヨリ五日間ハ固形食ヲ禁シ次ニ卵、刺身、粥等ヲ與フベシ藥劑ハ其ノ初期ニ於テ甘汞下劑ヲ投ズルノ他磷酸「リモナーデ」或ハ鹽酸「リモナーデ」ヲ用フ可シ解熱劑ハ猥リニ與

腸室扶斯



フ可カラズ體溫四十度五分以上ナルトキ若クハ第二週ノ終リニ至ルモ體溫  
下降ノ傾向ナキモノニノミ之ヲ用フ可シ熱度高キトキ冷水纏絡法ヲ用フル  
モ可ナリ  
下痢、腸出血、心臟衰弱等ニハ各々其對症ノ法ヲ用フ可シ○大小便ニハ同量  
ノ石灰乳ヲ混シ能ク攪拌シ二時間以上放置スベシ衣服等皆ナ消毒ヲ十分ニ  
行ハンコトヲ要ス

○ 甘汞

各四、〇

○ ザロール

一、〇

右爲一包與六包一日三回一包宛

○ 乳糖

右散八包ニ作り毎日三乃至四包

二日分服

○ ナフタリン

(初期ニ用フ)

○ ベンツオナフトール

〇、二

○ 白糖

各五、〇

○ 右爲一包與六包一日三回一包宛

○ ベルガモット油

二滴

○ 撒里矢爾酸麻屈涅叟謨

一〇、〇

○ 磷酸

二、〇

○ 右毎日四回一食匙宛

○ 覆盆子舎

二〇、〇

○ 體溫四十度五分以上ナルトキ若クハ第

○ 餛水

一八〇、〇

○ 二週ノ終ニ至ルモ體溫下降ノ傾向ナキ

○ 右每二時一食匙

トキハ左方

○ ラクトフェニン

〇、五

○ 右爲一包與六包每日二乃至三回  
一包宛

○ 重曹

一、〇

○ 撒曹

二、〇乃至三、〇

○ 餛水

二〇〇、〇

○ 鹽規

〇、一乃至〇、五

○ 單舎

二〇、〇

○ 硫規

一、五乃至三、〇

○ 撒曹

四、〇乃至六、〇

○ 白糖

一、〇

○ 安知歇貌林

〇、二五

○ 右五包ニ作り每十分時一包

白糖

〇、五

○ ビラミードン

〇、五乃至一、〇

○ 安知必林

五、〇

○ 餛水

二〇〇、〇

○ 右散五包ニ作り濃粉囊ニ包ミ午

後一乃至三包ヲ用フ

○ 硫規

一、〇

○ 硫酸タルリン

〇、〇四乃至〇、一

○ 稀硫酸

十滴

○ 白糖

〇、三

○ 餛水

一五〇、〇

○ 右爲一包與十包每時一包宛

〇、一

○ 安母尼亞茴香精

二、〇

○ オイホリン

〇、一

○ 右調和每時一食匙

五、〇

○ 右爲一包與五包一日一包乃至五

五、〇

○ 撒曹

五、〇

○ 右爲一包與五包一日一包乃至五

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇

○ 腸窒扶斯

五、〇



- 包葡萄酒ニテ用フ
- サリシン 各〇、五
- 茴香油糖 右爲一包與十二包午後ヨリ五乃至十二包ヲ用フ
- フェナツエチン 各〇、五
- 白糖 右爲一包與二包毎午後一乃至二包
- 下痢アルヲ認ムルニ於テハ左方ヲ處ス
- 沙列布煎 二〇〇、〇
- 阿片丁 五滴
- 單舎 二〇、〇
- 右調和飲料毎一時一食匙
- 次硝酸蒼鉛 一、〇乃至二、〇
- 右爲一包與十包一日數回一包宛
- (一日ノ量一〇、〇迄用フルモ可ナリ)
- 護謨合劑 二〇〇、〇
- 水製阿片越 右毎時一食匙 〇、一
- 沙列布煎 二〇〇、〇
- 阿片丁 二、〇
- 右調和灌腸料
- 腸出血ヲ發シタルトキハ絶對的安靜ヲ命ジ下腹部ニ氷嚢ヲ施シ先ツ阿片丁十五滴ヲ與へ後毎三時三滴宛ヲ與フ其他左方
- 粗製明礬 〇、五
- 阿片末 〇、一
- 樟腦 〇、三
- 白糖 二、〇
- 右研和散五包ニ作り毎二時一包
- 鉛糖 各〇、三
- 阿片末 五、〇
- 澱粉 五、〇

- 右研和數十包ニ作り毎二時一包
- 過格魯兒鐵液 一、〇
- 桂皮水 一五〇、〇
- 桂皮舎 二〇、〇
- 右調和毎時一食匙
- 一%ゲラチン溶液 二〇〇、〇
- 右一日三回二日分服
- 衰弱愈々加ハリ虚脱ノ傾向アルトキハ依的兒ノ皮下注射ヲ行ヒ又「シヤンパン」、葡萄酒(一食匙)宛肉羹汁等ヲ匙ニテ少量ニ頻々與フベシ
- 樟腦 二、〇
- 阿列布油 八、〇
- 右皮下注射料(一日十筒或ハ以上)
- 卵黄 二個
- コンニヤク酒 五〇、〇
- 桂皮水 一二〇、〇
- 單舎 三〇、〇
- 右二回分服(ストーク氏武蘭埵酒)
- 卵黄 二個
- 武蘭埵酒 三〇、〇
- 單舎 二〇、〇
- 餛水 一二〇、〇
- 右一日六回二日分服
- 馨香 〇、五
- 白糖 二、〇
- 右研和散五包ニ作り毎三時一包
- 便秘ニハ温湯灌腸ヲ行フベシ藥劑ハ患部ヲ刺戟スルノ虞有リ
- 小兒ニ用フル處方左ノ如シ
- 甘汞 〇、一乃至〇、四
- 乳糖 〇、五
- 右分二包一日二回一包宛
- ナフタリン 〇、〇五乃至〇、二

腦室扶斯



- 茴香油糖 ○、五
- 右爲二包與三包每三時一包宛
- 稀鹽酸 ○、一、〇
- 單舍 一〇〇、〇
- 右每二時一小兒匙宛 二〇、〇
- 安知必林 ○、二、五
- 橙皮舍 二〇、〇
- 右每夕數回一茶匙宛
- 硫酸タルリン ○、〇、一 (三才ヨリ四才迄)
- 白糖 ○、〇、二 (五才ヨリ十才迄)
- 右爲一包與十包每二時一包砂糖 (十才ヨリ十五才迄)
- 水ニテ用フ ○、三

○發疹室扶斯 *Typhus exanthematica.*

チフス、エキサンデマチカ

(原因)未詳ナリ著シキ觸接傳染性ヲ有ス  
 (診候)潜伏期(十日乃至十四日)ノ後頭痛、倦怠、不眠等ノ前驅症ヲ發シ或ハ前驅症  
 ナクシテ卒然寒戰體溫暴騰(四十度乃至四十一度)、頭痛、眩暈、無感、臆語等  
 ノ腦症ヲ發ス而シテ第三日乃至第七日ニ多數ノ薺薇疹ヲ全身ニ發シ二三日  
 ノ後出血ニ變ズ○輕症ニ在テハ第二週ノ初ニ輕快シ、重症ニ在テハ或ハ第  
 十四日乃至第十七日ニテ輕快シ或ハ合併症肺炎等ニ由テ死ス

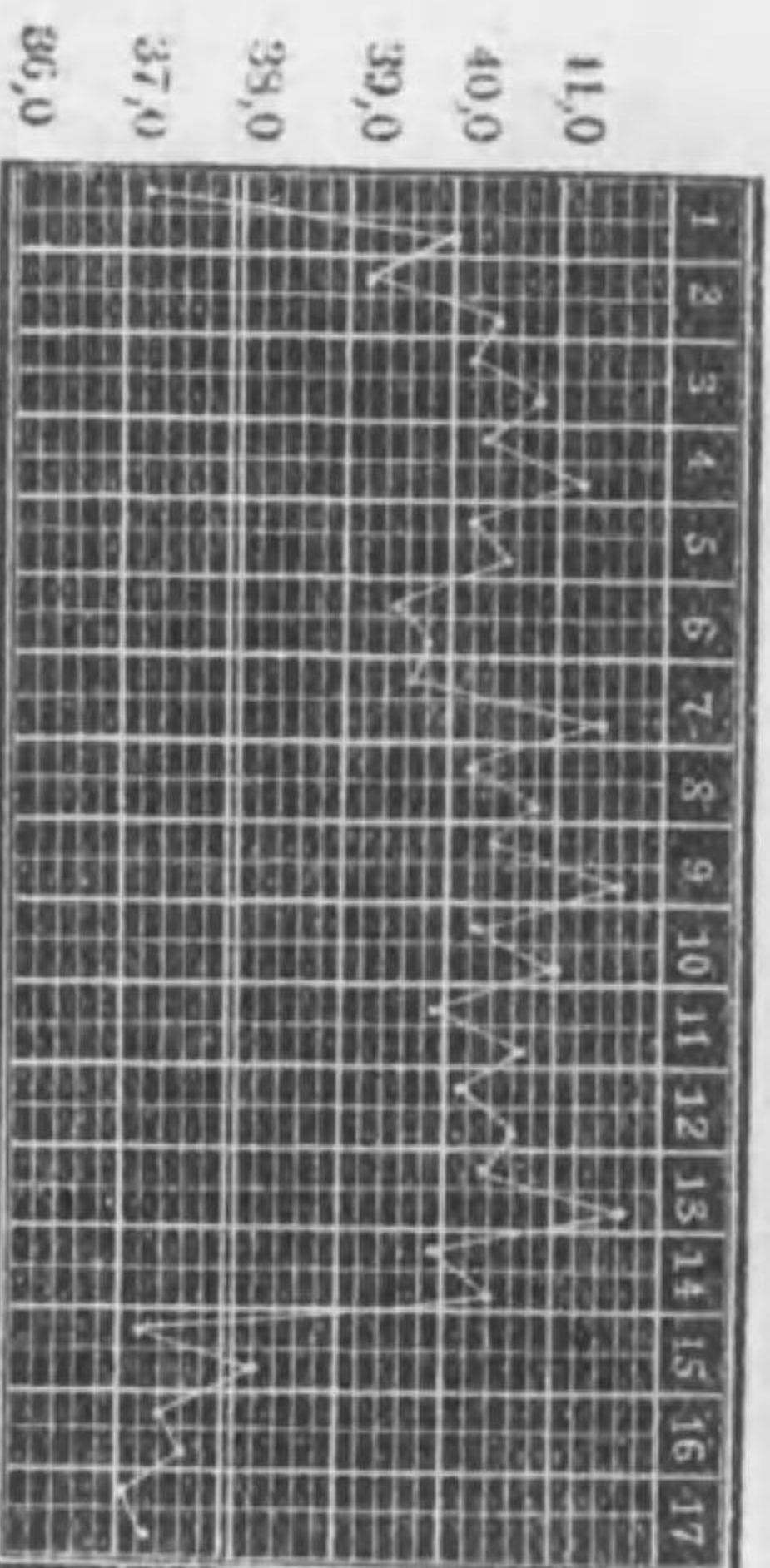
(豫後)熱ノ高低合併症ニ由テ異ナリ、死亡數ハ六乃至二十%  
 (療法)腸室扶斯ノ療法ニ同シ宜シク同條下ヲ看ルベシ

○回歸室扶斯 (再歸熱) *Typhus recurrens*

(*Febris recurrens.*) + フス、レタルレンス (フ、H、プリス、レタルレンス)

(原因)ガールマイエル氏螺旋狀菌ノ傳染ニシテ該菌ハ常ニ發熱中ハ血中ニ存在

圖 三 十 四 第



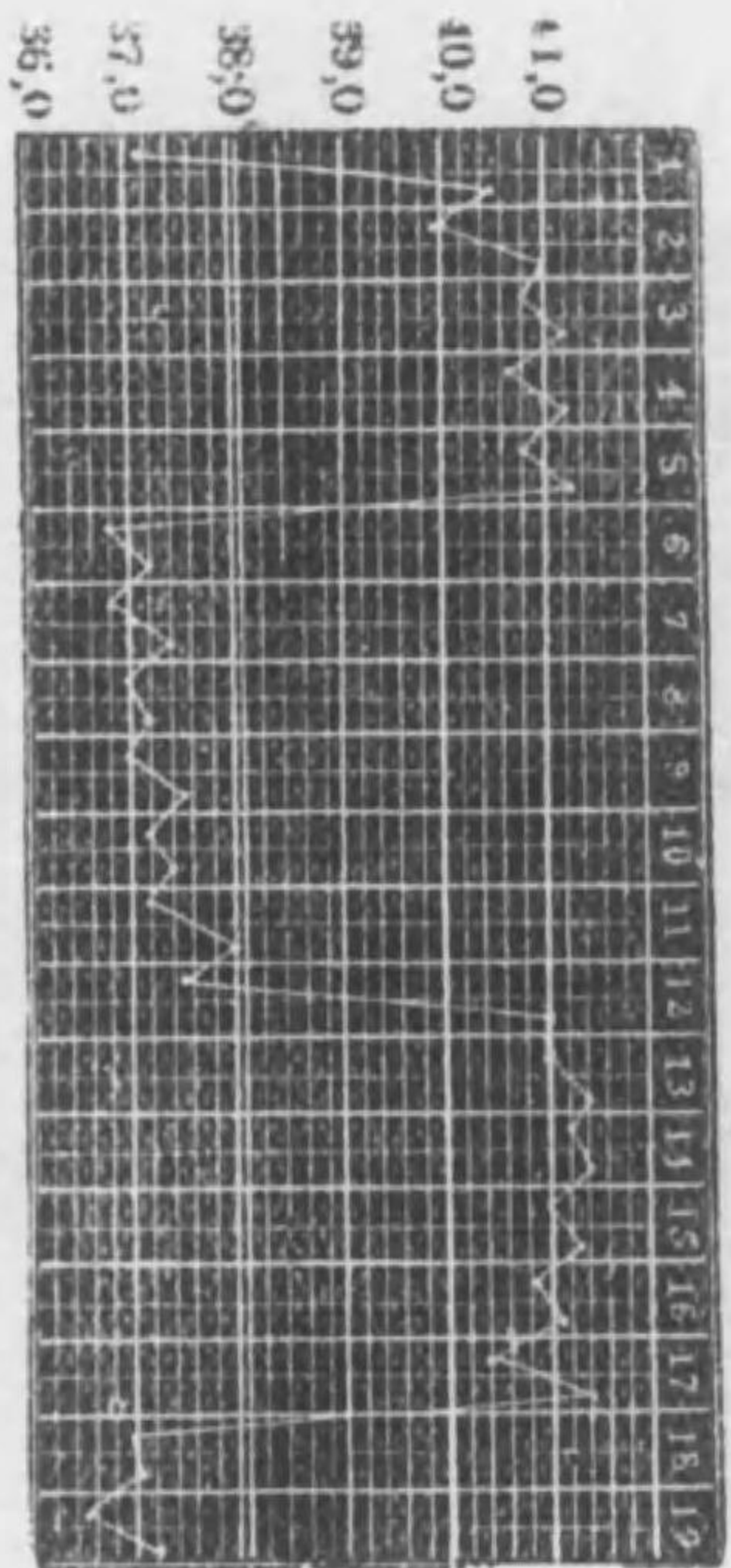
斯 扶 室 疹 發

發疹室扶斯 回歸室扶斯



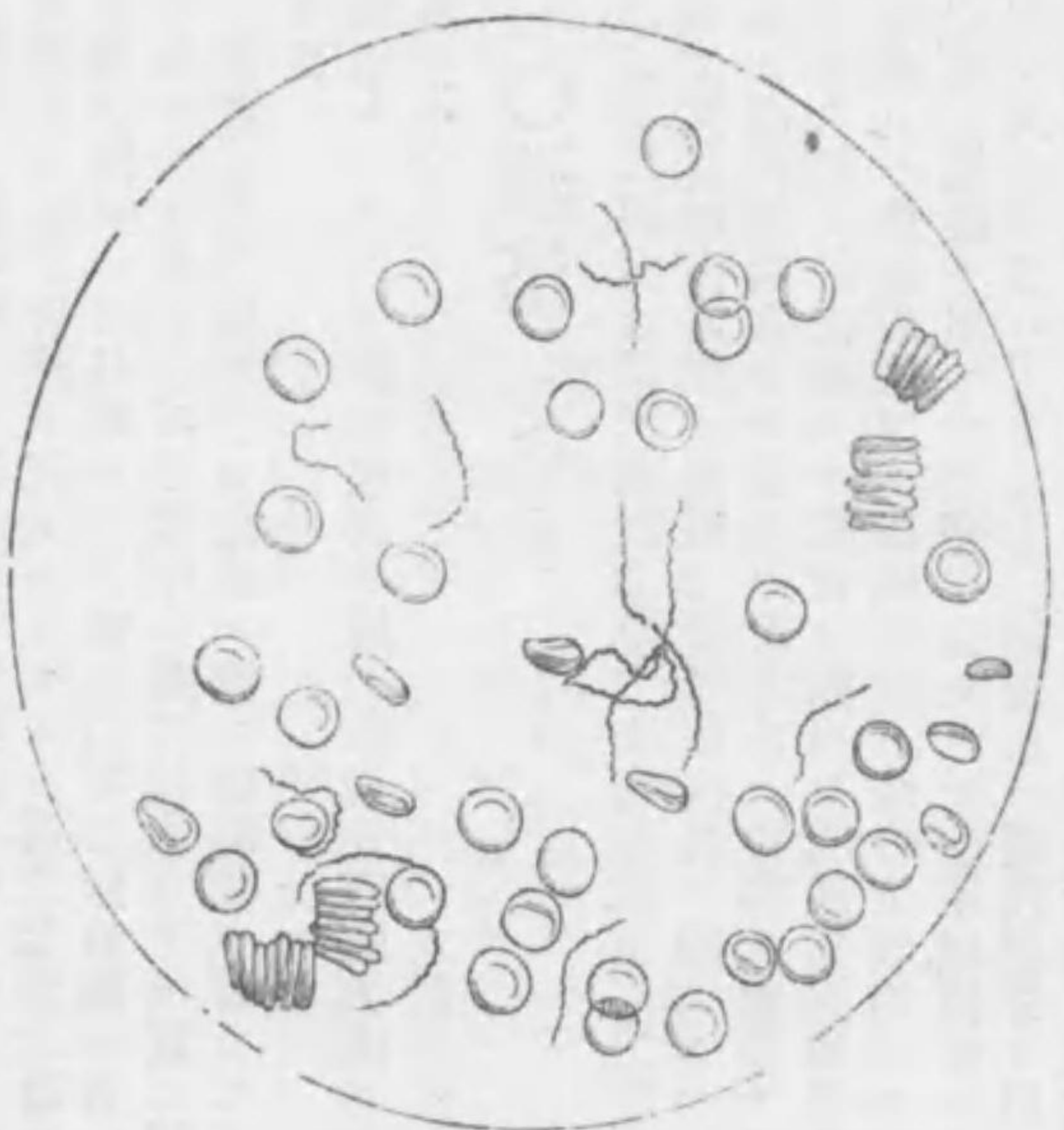
ス、無熱期ニハ消失ス  
 (診候) 潜伏期(五日乃至八日)ノ後寒戦、體溫暴騰(或ハ稽留或ハ弛張著シ)、薦骨部劇痛、四肢疼痛、頭痛、倦怠、食慾不振(往々嘔吐)、脈搏増加、脾著シク腫大四肢ノ諸筋ハ壓迫スレバ疼痛ヲ發ス(殊ニ腓腸筋、其他口唇ヘルペス、或ハ氣管支炎ヲ發スルコトアリ以上ハ第一回發作ニシテ五日乃至七日間ノ後發汗

圖 四 十 四 第



熱 歸 回

圖 五 十 四 第



菌 氏 ル エ イ マ ル ベ ー オ



シテ三十五度内外ニ下降シ第一無熱期ニ移ル○第一無熱期ハ四日乃至十日  
間ヲ常トス只ダ脾腫ヲ認ムルノミニ第二發作ニ移ル○第二發作ハ第一發  
作ニ同シ但シ一二日短キモノ多シ○第二無熱期ハ第一無熱期ノ如シ但シ一  
二日長キモノ多シ○第三發作ハ第二發作ヨリモ更ニ短カク第四第五ハ發セ  
ザルヲ常トス○發作中ノ血液ヲ檢シ螺旋菌ヲ明カニスレバ診斷明確ナリ

(療後) 概子良  
(療法) 特效藥ナキヲ以テ對症療法ヲ施シ他人ニ傳染ノ虞アルヲ以テ萬般ノ消毒ニ  
注意スベシ

○潰瘍 Ulcera. 大瘡ヲ

(原因) 外傷、梅毒、腺病、結核、癩病、痛風、失荷兒陪屈、狼瘡等ナリ  
(診候) 組織ノ實質缺損其部ノ炎性、諸症、陷沒等ヲ認ムベシ  
(療法) 患部ノ潮紅腫脹甚シキ者ニハ冷水或ハ鉛水ノ灑法ヲ行フコト一般ノ消炎法  
ナリトス、而シテ足潰瘍ニハ軟膏ヲ貼用シ沃度仿護繃帶ヲ施シ又劇甚ノ肉芽性  
潰瘍面ニハ熔製硝酸銀ノ腐蝕法或ハ烙白金燒灼法ヲ行ヒ或ハ腐蝕加里ヲ塗  
布シ或ハ銳匙ヲ用ヒテ肉芽ヲ去ルベシ○單純潰瘍ニハ晝間絆創膏條(バイ  
ントン氏法) 或ハ「フランチル」繃帶或ハ護謨繃帶ヲ用ヒテ纏絡シ夜間濕溫灑  
法ヲ施スチ宜シトス但シ往再治癒ヲ怠ル者ニハ植皮術ヲ施スコトアリ

○ 次醋酸鉛液	二〇、〇	○ 赤降汞	〇、二
○ 常水	二〇〇、〇	○ 刺納林	一五、〇
○ 右調和灑法料		○ 華攝林	五、〇
○ 粗製明礬末	一〇、〇	○ 右調和軟膏ニ作ル	
○ 次醋酸鉛液	二〇、〇	○ デルマトール	一〇、〇
○ 常水	二〇〇、〇	○ 黃色華攝林	九〇、〇
○ 右調和灑法料		○ 右軟膏	
○ 酸化亞鉛	五、〇	○ デルマトール	二〇、〇
○ 華攝林		○ 滑石	七〇、〇
○ 刺納林	各一五、〇	○ 澱粉	一〇、〇
○ 右調和軟膏ニ作ル用法同上		○ 右撒布料	
○ 苛性加里	〇、五	○ 壞疽性潰瘍ニハ制腐洗滌性液及義布斯 參兒末ヲ用非テ効アリ	
○ 溜水	二〇〇、〇	○ 格魯兒石灰	五、〇
○ 右調和繃帶料		○ 常水	二〇〇、〇
○ オイロフェン	二〇、〇	○ 右調和創面洗滌料	二〇〇、〇
○ 阿列布油	一〇、〇	○ 過滿俺酸加留謨	二、〇
○ 刺納林	八八、〇	○ 常水	二〇〇、〇
○ 右軟膏			

潰瘍

五三七



○ 右調和創面洗滌料	五、〇	○ 膠	各一〇、〇
○ 撒酸	一、〇	○ 偏里設林	各四〇、〇
○ 炭酸那篤留膜	二〇〇、〇	○ 右溫メテ塗布ス	一〇〇、〇
○ 常水	五〇、〇	○ イヒチオール	一〇〇、〇
○ 右調和創面洗滌料	一〇、〇	○ 右潰瘍面ニ塗布シ綿花ヲ貼ス初	
○ 硫酸石灰	三〇、〇	○ メハ毎日後ニハ隔日變換ス	
○ 木參兒	二、〇	○ 結核性及腺病性潰瘍ニハ其周縁部ヲ切	
○ 右研和撒布料(義布斯參兒散)	二〇〇、〇	○ 除シ又銳匙ヲ用ヒテ惡性肉芽ヲ搔去シ	
○ 次硝酸蒼鉛	三〇、〇	○ 而シテ沃度仿護「ガーゼ」繃帶ヲ施スベ	
○ 右撒布料、先ヅ創面ヲ洗滌シ而		○ シ殊ニ痲鈍性潰瘍ニハ沃度液ニ浸シタ	
○ 後之ヲ撒布シテ繃帶ヲ用ヒ固定		○ ル「ガーゼ」ヲ被覆シ其表面ニハ更ニ偏	
○ 木醋	二、〇	○ 答百爾加繃帶ヲ施スヲ宜トス	
○ 常水	二〇〇、〇	○ 沃度加留膜	二、〇
○ 右調和創面洗滌料	一、〇	○ 沃度	一、〇
○ 下腿潰瘍ニハ左ノウンナ氏亞鉛膠ヲ用		○ 繃水	二〇〇、〇
○ 酸化亞鉛		○ 右外用	
		○ 小兒ニハハルライン氏母滴鹽ノ溫浴ヲ	

行ヒ内服ニ汗油ヲ與フ可シ  
梅毒性潰瘍ニハ適應ノ局所療法ヲ施シ

○ 喉頭潰瘍

*Ulcers laryngis.*

ウルツェラ、ラリンニス

且ツ沃度加留膜ノ内服ヲ與フ

○ (原因) 加答兒性剝脫、空扶斯、梅毒或ハ結核ニ發スルモノ多シ		○ 薄荷腦	一〇、〇
○ (診候) 頑固性ノ咳嗽、嘶嘎、喉頭癢痒、喉頭鏡下潰瘍ノ發見ニシテ梅毒ニモ或ハ結		○ 阿列布油	一〇〇、〇
○ 核ニモ各之レニ伴フ全身及局處症ノ特異ナル者アリ假令メ甲ニハ腺腫乙ニ		○ 右調和喉頭注射料	一〇、〇
○ ハ肺結核ノ如シ		○ オルトフォルム	一〇、〇
○ (療法) 其原因ノ梅毒ナルカ將タ或ハ結核ナルカニ注意シ其原因療法ヲ勉ムベシ○		○ 右吸入料	一〇、〇
○ 結核性潰瘍ニハ薄荷腦油、オルトフォルム、古加乙涅水ヲ用フ限局性ニシ		○ 古加乙涅	一〇〇、〇
○ テ手術的療法ヲ施シ得ルモノハ之レヲ行フベシ		○ 繃水	一〇〇、〇
○ 且ツ沃度加留膜ノ内服ヲ與フ		○ 沃度加留膜	一、〇
		○ 甘朮	一〇、〇
		○ 右吸入料	一〇、〇
		○ 梅毒性癆潰ニハ有力ノ局所療法ニ併セ	
		○ テ全身療法ヲ施スベシ	

喉頭潰瘍



- 沃度 〇、一
- 濃厚酒精 二〇〇、〇
- 偏里設林 二〇、〇
- 右調和塗布料 〇、一
- 右調和吸入料 二〇〇、〇
- 昇汞 〇、一

### 〇結核性腸潰瘍

*Ulceria intestini tuberculosa.*

ツルツエラ、インテスチニー、ツベルクローゼ

(原因) 肺結核、全身結核ノ繼續、結核性牛乳ノ飲用、肺癆患者トノ接吻ヨリシテ腸粘膜炎ニ結核「バチルス」ノ傳染又小兒ニ在テハ腺病質、營養不給ノ者ニ原發スルコトアリ

(診候) 原發性ノ者ニ在テハ下腹膨滿、腸壁緊張、雷鳴、腹痛、惡心、嘔吐、頑固性下痢、日哺潮熱及削瘦等ナリ續發性ノ者ニ在テハ肺癆ノ諸症候ニ兼ヌル頑固性「カカチ」豆色ニシテ血液ヲ混ジタル粘液様便及上圍時ノ疝痛様疼痛等

(豫後) 不良

(療法) 此症ニ在テハ之ト同時ニ認ムル全身結核或ハ肺結核ノ療法ヲ施シ肝油、稀乳汁含鐵鐵泉等凡テ腸ヲ刺戟スル藥劑ヲ禁ジ食物ニハ牛乳、鵝卵、肉等又可成ハ肉液ヲ與フ可シ  
下痢ニハ左方ヲ處シ最モ有効ナリ

- 次硝酸蒼鉛 三、〇
- 阿片 〇、二
- 白糖 四、〇
- 右研和散十包ニ作り一日三乃至四回一包
- 撒酸蒼鉛 各一〇、〇
- ザロール 各一〇、〇
- 沈降炭酸加爾叟膜 各一〇、〇
- 右分三十包毎日三乃至四包「オブラート」ニ包ミ用フ
- 撒酸蒼鉛 各五、〇
- 白糖 各五、〇
- 右分十包毎日二乃至三回一包宛 六、〇
- タンナルビン 三、〇
- 右分六包一日三回二分
- 乳酸 二、〇乃至八、〇
- 縮水 一二〇、〇
- 右一日數回分服
- 潰瘍ノ直腸ニ在ル者ニハ澱粉溶液或ハ沙列布煎ニ阿片丁幾ヲ和セル者或ハ左方ヲ灌腸ニ用フ可シ
- 硝酸銀 〇、五
- 縮水 二〇〇、〇
- 右調和二回灌腸料
- 尙ホ慢性腸加答兒ノ條下ニ就テ本症ノ治法ヲ參考スベシ

### 〇軟性下疳

*Ulcer molle. ヲカノス、モルノ*  
*Weicher Schanker. ワイベル、シヤンケル*

(原因) 大抵不潔ノ交換ニ起ル下疳毒ノ傳染ナリ(ダニクレイ氏ウンナ氏連鎖菌)

結核性腸潰瘍 軟性下疳



(診候)多クハ陰莖ニ發生スル潰瘍ニシテ周圍柔軟瘡縁低ク瘡面豚脂様ノ不潔ナル  
滲出物ヲ被ムリ大抵疼痛アリ同側鼠蹊腺ノ腫起膿膿ヲ致スコトアリ  
(豫後)良

(療法)先ヅ二%古加乙涅或ハ「カイカイン」液ヲ塗布シテ局部ヲ麻醉セシメ「コフホ  
ルマリソ」或ハ石炭酸液ヲ以テ創面ヲ腐蝕シ「ブロー」氏液電法ヲ施スコト一  
日ニシテ後沃度仿謨等ノ撒布療法ヲ行フベシ又炎勢周圍ニ瀰漫増進シテ浮  
腫浸潤等ヲ致ストキハ冷電法ヲ行フ可シ

- 沃度仿謨末 白糖 一〇〇
- 右撒布料一日二乃至三回 右研和塗布料 五〇
- 沃度フホルモーゲン アイロー 五〇
- 右撒布料一日二乃至三回 右撒布 一〇〇
- オイロフエン 次安息香酸着鉛 一〇〇
- 右撒布料 右撒布料先ヅ潰瘍ヲ消毒洗滌シ  
タル後撒布スベシ(一日一乃至  
二回ヲ度トス)
- 沃度爾 三、〇 石炭酸 一、〇
- 右調和塗布料 五、〇 常水 一〇〇
- 沃度爾 五、〇 右洗滌料 一〇〇

- 沃度仿謨末 二、〇 華攝林 二、〇
- 薄荷油 二滴 右調和軟膏ニ作ル
- 刺納林 八、〇

### ○角膜潰瘍

*Ulcus corneae.*

ワルクス、コルネエ

(原因)涙囊炎、化膿性、實布の里性、顆粒性、慢性等ノ悪性結膜炎外傷或ハ密尿病室  
扶助、痘瘡ニ來ル〇下等社會及老人ニ多シ

(診候)角膜周圍ノ充血、羞明、流淚、膿汁分泌、疼痛、患部ノ實質缺損其潰瘍面ノ帶  
黃潤濁セルモノ終ニ癍痕或ハ穿孔シテ止ム

(療法)硼酸溶液等ヲ用ヒテ結膜囊ヲ洗滌スルカ若クハ沃度仿謨末「アリストール」  
ヲ撒布シ防護綿帶ヲ施ス可シ〇其症頑ナルモノハ電氣燒灼器ヲ用ヒテ潰瘍  
ノ緣界ト底面トヲ燒灼ス可シ緣界判然セザルモノハ、〇五「フロレスチン」  
ヲ二%曹達水一〇、〇ニ溶解シタルモノヲ以テ之ヲ染ム可シ上皮缺損部ハ  
鮮綠色ヲ呈ス〇前房ニ蓄膿シタルモノハ角膜切開或ハ穿孔術ヲ施シ又劇痛  
アル者或ハ遲鈍性潰瘍ニハ水或ハ加密爾列浸劑ノ濕溫電法ヲ行ヒ或ハ熔製  
硝酸銀ヲ用井結膜天蓋部ヲ細ク燒灼ス可シ

- 硼酸 三、〇 右調和結膜囊洗滌用 一、〇
- 鹽水 一〇〇、〇 〇 硼酸 一、〇

角膜潰瘍



餾水

一〇〇、〇

疼痛ニハ左方チ用フ

撒酸

二、〇

○ 荻若越

三、〇

右調和用法同上

餾水

二〇〇、〇

○ 格魯兒水

餾水

各五〇、〇

右溫罨法料トナス

右調和用法同上

沃度仿護末

五、〇

右撒布用

若シ其潰瘍角膜周圍ノ深部ニ浸蝕スルカ或ハ大ニ蔓延スルカ或ハ軟化スルカ或ハ周圍性虹彩炎ヲ起セルトキハ亞篤羅必涅ヲ禁シ華攝林チ用フ可シ

○ 硫酸亞篤羅必涅

〇、〇五

○ 撒酸依攝林

〇、〇五

餾水

一〇、〇

餾水

一〇、〇

右調和點眼料

右調和點眼用

### ○胃潰瘍或ハ圓形胃潰瘍

*Ulcus ventriculi.*

ワルクス、ウエントリクラー

(原因) 萎黃病、心臟病或ハ肺硬結等ノ爲メニ起ル胃粘膜ノ末梢動脈「エンボリー」

或ハ毛細管溢血ニ來ル婦人ニ多シ胃酸過多モ亦之ヲ發スルコト有リ

(診候) 胃加答兒ノ諸症殊ニ食後ノ幽門部疼痛、嘈雜、嘔吐、吐血等ニシテ此血色ハ

暗黑酸性ナリ其他、風氣、黑色參兒樣血便、便秘、或ハ下痢也○胃癌ノ條ヲ看

ルベシ

(豫後) 良但シ穿孔出血ヲ發スレバ不良ナリ

(療法) 吐血ニハ其對症療法(吐血ノ條下ヲ看ヨ)チ行ヒ且ツ食物ヲ斷然禁シ其止血

ヲ認メタルニ及ンテ冷牛乳ヲ反覆少量チ與ヘ漸次增量スベシ然レモ患者若

シ牛乳ニ堪ヘザルトキハロイベ、ローゼンタール兩氏肉溶液或ハ新鮮ナル

肉越幾斯ヲ與ヘ若クハ「ペプトン」或ハ肉糜灌腸(新鮮牛膝一五〇、〇細挫肉

片三〇〇、〇チ煎シテ少許ノ肉羹汁ニ作り先ツ清洗灌腸チ行ヒタル後之チ

直腸内ニ注入スルナリ)チ用フ可シ○疼痛ノ發作ニハ麻酔藥チ投シ頑固ノ

嘔吐ニハ麻酔藥及氷片チ與ヘ風氣ニハ驅風藥チ用フ可シ諸症ノ減退スルチ

待テ始メテ淡泊ノ食物、鶏卵、細截肉片等チ與ヘ又藥品ニハ加兒爾斯泉鹽

「マリエンバード」等チ用フ可シ○吐血後ハ少ナクモ二週間就禱靜養チ要

ス而シテ止血後ハ氷囊ニ代フルニ溫罨法或ハ氈布チ胃部ニ貼スベシ

出血ノ甚シキモノ或ハ内科的治療効ナクシテ再發多キモノ或ハ瘰癧狹窄チ

形成スルモノ或ハ穿孔シテ膿瘍チ形成スルモノハ外科的手術チ施スベシ

單ニ潰瘍ノ療法ニハ次硝酸蒼鉛或ハ抱水格魯拉爾チ用井テ効有リ

○ 次硝酸蒼

右爲一包與六包每食前十五分一

重曹

包宛

白糖

各〇、五

○ 次硝酸蒼

胃潰瘍或ハ圓形胃潰瘍



重曹 安知必林 各〇、五  
 白糖 右爲一包與六包每食前一包(胃  
 瘰アルトキハ莫比〇、〇一ヲ加  
 フ)

次硝酸蒼鉛 一、〇  
 阿片末 〇、一  
 白糖 三、〇  
 右十包ニ作り一日三回每一包

次硝酸蒼鉛 一、〇  
 莨菪越 〇、一  
 茴香油糖 三、〇  
 右研和散十包ニ作り朝夕每一包

重曹 一、〇  
 菲沃斯越 〇、三  
 次硝酸蒼鉛 各二、〇  
 白糖

硝酸銀 右十包ニ作り一日三回每一包  
 〇、〇五  
 餾水 一二〇、〇  
 偏里設林 三〇、〇  
 右黑色瓶ニ入レ與フ毎日三回一  
 食匙

古堉乙涅 〇、一五  
 白糖 二、〇  
 右散五包ニ作り毎日三乃至四回  
 一包

嘈雜著シキモノニハ  
 煨理麻偏涅叟謨 三、〇  
 重曹 五、〇  
 右研和分六包一日三回食後三十  
 分一包宛

劇痛アルトキハ莫兒比涅ノ皮下注射ヲ  
 行ヒ左方ヲ處ス可シ  
 〇、一  
 鹽莫

杏仁水 一、〇  
 右調和每回五滴乃至十滴

過格魯兒鐵液 一〇、〇  
 右五滴ヲ一杯ノ砂糖湯ニ和シテ  
 用フ

嘔吐アルトキハ氷片ヲ與ヘ左方  
 鹽酸古加乙涅 〇、〇一乃至〇、〇五  
 乳糖 〇、五  
 右一包トシテ頓用

蓆酸攝留謨 〇、〇五  
 乳糖 〇、五  
 右一包トシテ頓用

下痢ノ劇甚ナルトキハ左方ヲ處スベシ  
 鞣酸 〇、五  
 阿片 〇、一五

白糖 二、〇  
 右研和散五包ニ作り毎二時一包  
 近時ノ經驗上凡ソ十四日間朝夕抱水格  
 魯拉爾ヲ與ヘ日中ニハ加兒爾斯泉鹽ヲ  
 用フルト世ニ稱スル所ナリ

抱水格魯拉爾 三、〇  
 餾水

亞拉昆亞護謨漿 各五〇、〇  
 右調和一夜ノ服量(但シ三分シ  
 テ二時間毎ニ用フ可シ)

吐血ヲ發シタルトキハ先ヅ絶對的安靜  
 ナ命シ阿片丁十五滴ヲ與ヘ胃部ニ氷囊  
 ナ施シ氷片ヲ喫セシメ後毎三時阿片丁  
 五滴ヲ與フ

○尿毒症 Uraemia.

(原因)尿成分ノ排泄閉止ヨリ尿素ノ鬱滯ニ起ル中毒ナリ腎臟間質炎、腎盂炎、腎

尿毒症



石、尿閉、虎列拉等ニ來ル

(診候) 急性ニハ間代性痲癩、昏睡、黒内障、熱發等慢性ニハ消化不良、頭痛、安世尼亞性嘔吐、下痢、嗜眠精神恍惚、耳聾昏睡等時トシテ苦惱ナル皮膚癢痒ヲ發ス

(療法) 尿利ヲ催進シ又其皮膚誘導法ヲ試ミ(武雷篤氏病ヲ比較セヨ) 劇症ニハ實莖浸ニ醋酸加留護ヲ伍シタル者ヲ用ヒ又温包、熱浴、必魯加兒必涅ノ皮下注射等ノ發汗療法ヲ行ヒ慢性ノ者ニハ甘汞、旃那、古魯聖篤等ノ緩下劑ヲ用ヒ尿毒性痲癩ニ在テ(強壯ノ大人)ハ刺絡ヲ施シ又ハ水蛭ノ貼用ヲ施シ(虛弱家ニハ) 温浴ヲ取ラシメ併セテ頭部冷水灌溉ヲ行フベシ

### ○蕁麻疹 Urticaria. ウルチカリヤ

(原因) 蕁麻、蚊刺、蚤螫、魚蝦ノ中毒或ハ莫比、規尼涅、的列並油等ノ消化器刺戟、寒冷、蜜尿病、黃疸、消化器病、間歇熱、女子生殖器病等ナリ

(診候) 急性皮膚病ニシテ赤色或ハ白色平坦大豆大ノ硬隆起疹ナリ癢痒ハ灼熱ス時ニ熱發或ハ浮腫ヲ起スコト有リ其來去ノ速カナルヲ以テ特徴トス

(療法) 原因療法ヲ第一トシ而シテ曹達浴、明礬、冷水浴及灌水法等ヲ行ヒ時ニ或ハ澱粉ヲ外用スルコトアリ其頑固ナル者ニハ亞篤羅必涅ヲ内服セシムベシ  
○ 硫酸麻屈涅更護 二〇、〇 苦丁 二、〇

○ 留水 二〇〇、〇

右一日六回二日分服

○ 醋酸 五、〇

○ 酒精 二〇〇、〇

右調和洗滌料

○ 鹽規 各一、〇

○ エルゴチン 各一、〇

○ 萇若越 各一、〇

○ 偏里設林 適宜

○ 右丸トナシ每二時一乃至二丸 適宜

○ 硫酸亞篤羅必涅 〇、〇一

○ 留水 〇、〇一

○ 偏里設林 各二、〇

○ 達拉侃篤末 適宜

### ○水痘 Varicella. ヲアツセルラ

(原因) 未詳、專ラ小兒ニ發スル流行病ナリ

(診候) 潜伏期(十四日)ノ後輕熱ヲ發シテ全身ノ處々ニ紅斑ヲ生ズ該紅斑ハ速ニ水

右調和丸十五粒ニ作り毎日二粒

癢痒ニハ左方チ處シテ効有リ

○ 薄荷腦 二、〇

○ 再留酒精 一〇〇、〇

○ 右塗布料 一〇〇、〇

○ 武蘭埴酒 一〇〇、〇

○ 右癢痒部ニ塗布ス

○ 撒曹 五、〇

○ 米粉 二〇、〇

○ 右研和撒布用 二〇、〇

○ 百露拔爾撒謨 五、〇

○ 偏里設林 三〇、〇

○ 右調和塗布用



泡ニ變ズ大サ大小豆粒ノ如ク内ニ水様透明ノ液ヲ容ル而シテ三日後ヨリ結痂シ一二週ニシテ治ス

(療法) 藥劑ヲ要セズ消化シ易キ食物ヲ與ヘ二三日間就禱セシムベシ

### ○腔癰癰 *Vaginismus*. ヲアキニスムス

(原因) 陰門狹隘ニ關スル交接的或ハ手淫ノ刺戟過度、外科的疾患等ニシテ妙齡ノ女子ニ多シ

(診候) 陰門ノ知覺過敏癰癰狹窄等ナリ

(療法) 原因解剖的變常ニ在ルカ或ハ病的變常ナルカヲ明ニシテ各局部ノ病狀ニ應

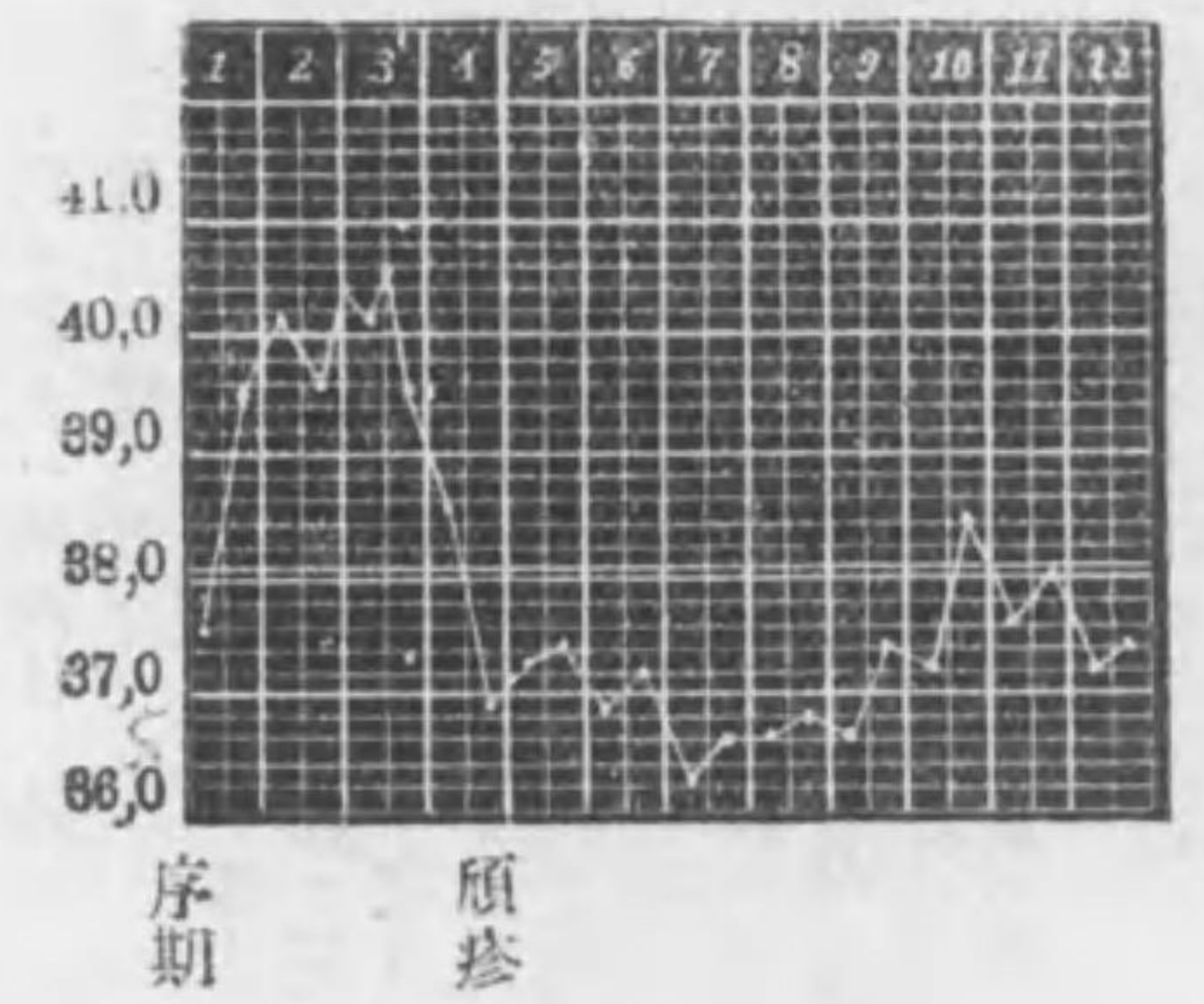
ジ或ハ擴張法ヲ行ヒ或ハ炎症潰瘍等ノ療法ヲ施シ又微溫坐浴ヲ用ヒ或ハ鐵劑、靱羅謨加留謨等ヲ内服セシム可シ

○鹽酸古加乙涅 一、〇〇 時ニ或ハ弱硝酸銀溶液五十倍ノモノヲ  
縮水 二〇、〇 塗布シ或ハ沃度仿謨末ヲ吹入シテ其効  
右調和塗布料 ヲ奏スルコトアリ

### ○痘瘡 *Variola*. ヲアキニスムス

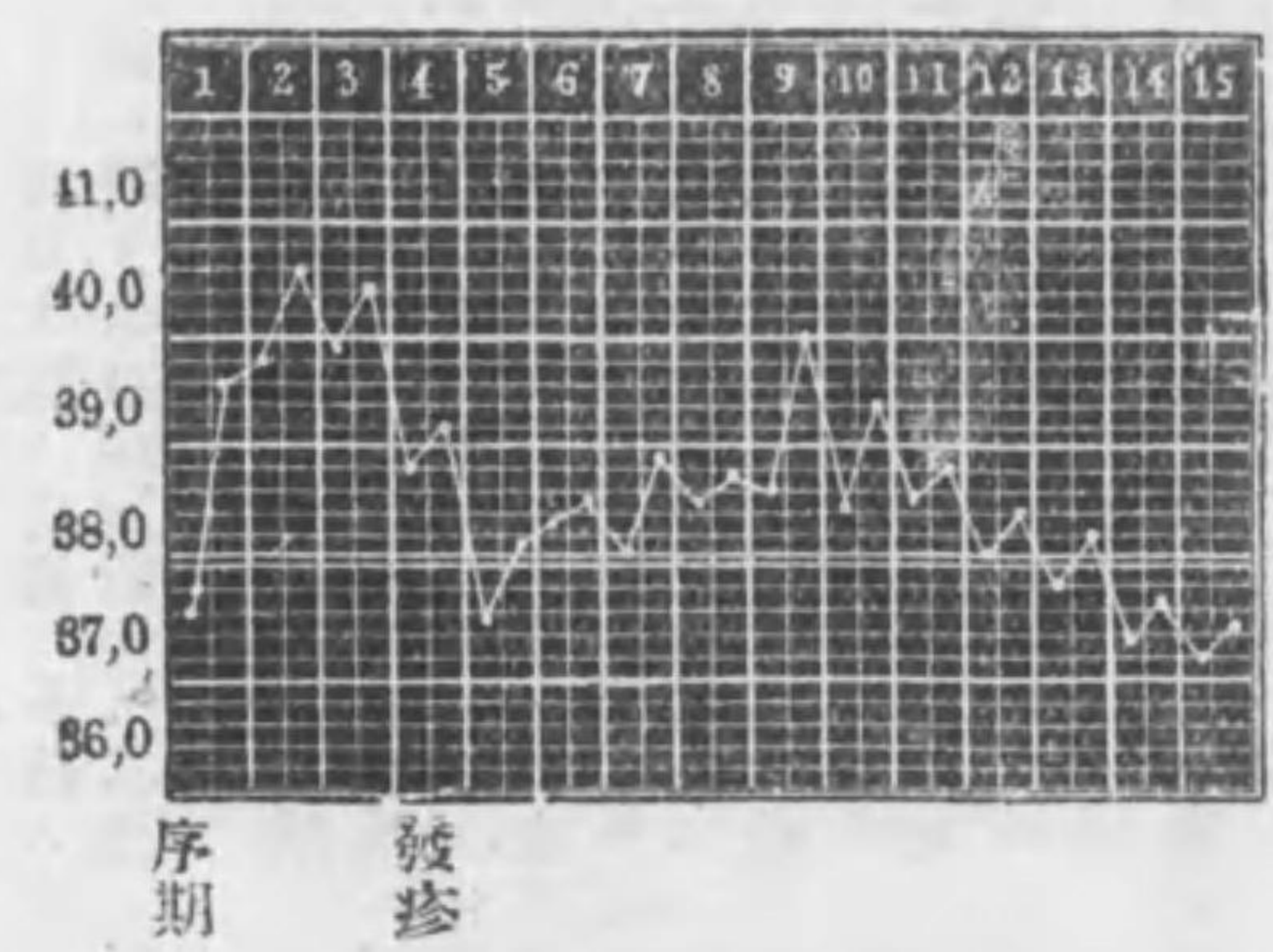
(原因) 天然痘毒ノ感染ニシテ觸接性流行性ナリ  
(診候) 潜伏期(十日乃至十四日)ノ後序期(三日)ニ移リ寒戰、體溫昇騰(四十度乃至

圖六十四第



假痘

圖七十四第



眞痘



其以上ニ達シ稽留ス。頭痛、嘔吐、薦骨痛、譫語、痙攣（小兒ニ於テ）第二日ニ於テ前驅發疹即チ紅斑性或ハ出血斑性疹ヲ下腹及大腿ノ内面ニ多發ス。第三日ノ終リ若クハ第四日ノ始メニ於テ發疹期ニ終リ全身症狀輕快ス其後ノ輕過ニ從ヒ二種ニ分ツ

(甲)眞痘 *True dera* 即チ重症ニ在リテハ發疹期ニ於テ先ヅ頭面部及顔面ニ小斑ヲ發シ二日以内ニ丘疹ニ變シ丘疹ノ中央ニ水疱ヲ發生シ次テ膿疱ニ變シ第九日ニ於テ眞痘膿疱ヲ完成シ其頂點ニ臍窩ヲ有シ紅暈ヲ繞ラス（化膿期）此時期ニ於テ體溫再ビ上昇シ顔面腫脹甚ダシク頭部及手指ノ發疹疼痛ス口及ビ咽頭等ニモ亦發疹シ嘶嘎、嚥下困難、其他結膜炎虹彩炎等ヲ發スルコトアリ第十二日若クハ第十三日ニ至リ體溫下降シ膿疱乾燥結痂ス（乾燥期）而シテ劇甚ナル癢痒ヲ伴ヒ一週或ハ二週ノ後痘痕ヲ留メ或ハ褐暗色ノ斑ヲ留メテ治ス（斑ハ數月ノ後消失ス）○眞痘ノ經過中化膿期ニ於テハ死ヲ來タスコト夥ナカラズ○全經過四乃至六週

(乙)假痘 *Pseudola* 即輕症ニ在テハ發疹僅少ニシテ膿疱ヲ形成スルモノ少ナシ全經過二週

(豫後)多數ノ膿疱ヲ形成シ其融合スルモノ出血シテ黑色痘瘡ヲ作ルモノハ豫後共ニ不良ナリ假痘ハ良

(療法)純粹ノ待期療法ニシテ攝生ヲ嚴ニシ通氣ヲ善良ニシ發熱ニハ冷水罨法或ハ

氷罨法ヲ行ヒ便通ヲ利シ而シテ合併症ニハ時期ヲ過サズ適應ノ療法ヲ加フ  
メシ○皮膚ノ緊張著シキトキハ油類ノ塗擦若クハ塗布ヲ用ヒ或ハ五十倍ノ  
僱里設林溶液ニ浸シタル麻布ヲ用ヒ全身ヲ被包シ解熱後ニハ微溫全身浴ヲ  
行フ可シ豫防法ニハ隔離法ヲ嚴ニシ消毒法ヲ行ヒ種痘ヲ施ス等其一般ナリ  
トス

○ 枸櫞汁 各一五、〇  
○ 覆盆子舎 右「バスタ」トナシ麻布ニ攤シ貼用（毎日一回交換スベシ） 五、〇

○ 右調和飲料ニ加ヘ用フ  
面部ニハ殊ニ其豫後ヲ善良ニシテ癍痕ヲ貽サマラシメンガ爲ニ左ノ石炭酸濃粉軟膏ヲ塗布或ハ塗擦スルヲ宜シトス

○ 石炭酸 五、〇  
○ 阿列布油 各四〇、〇  
○ 澱粉 三〇、〇  
○ 右調和軟膏ニ作ル 七〇、〇  
○ 石炭酸 四、〇  
○ 阿列布油 四〇、〇  
○ 白堊 六〇、〇  
○ 石炭酸 右「バスタ」トナシ麻布ニ攤シ貼用（毎日一回交換スベシ） 五、〇  
○ 僱里設林 各五〇、〇  
○ 餾水 右調和毎日二回海綿ニ浸シ全身ヲ拭フベシ  
○ 撒酸 三、〇  
○ 澱粉 三〇、〇  
○ 僱里設林 七〇、〇  
○ 右調和軟泥ニ作り軀幹及四肢ニ外用ス面部及頸部ニハ僱里設林ニ代フルニ扁桃油ヲ以テシ而シ

痘瘡



テ假面ヲ用ヒ軟泥ヲ固定スベシ

○疣贅 *Verruca* ヴェルカ

(療法)皮膚ノ表面上ニ隆起スル部分ヲ剪去シテ後腐蝕ス其他

○ 發煙硝酸 五、〇

水銀軟膏

五、〇

右腐蝕用

又單ニ左方ヲ反覆シテ其腐蝕ヲ試ムル  
モ可ナリ

右調和外用繃帶ニテ固定ス表皮  
剝脫スルニ至レバ後用ヲ止メテ  
軟膏ヲ除去ス可シ

○ 石炭酸

右外用

周邊ノ健全部ヲ保護スルガ爲メニハ綿  
花或ハ僱答百兒加嘔囉仿謨溶液等ヲ用  
ヒテ其部ヲ被包ス可シ

○ 亞砒酸

二、〇

○眩暈 *Vertigo* ヲルチ

(療法)原因療法(神經中樞或ハ腹内臟ノ療法)等ヲ主トナス可シ  
神經性眩暈ニハ左方ヲ用ヒテ効アリ

○ 纈草丁

ハルレル氏酸越歴矢兒 各一〇、〇

右調和外用 右調和毎二時十滴乃至二十滴糖

臭刺

龍膽丁

水ニ加ヘ用フ

六、〇

二、〇

二〇〇、〇

右一日六回二日分服

腹内臟性ノモノニハ左方ヲ用フ

○ 癒瘡木脂

五、〇

昇華硫黃

二〇、〇

純精酒石

二〇、〇

枸橼油糖

一〇、〇

○心臟瓣膜病 *Valvum cordis* ヲチアム・コルヂス

(原因)心臟内臟病ノ原因トナル可キ者(殊ニ癩麻質斯)心筋炎、血管硬化、墜落、劇

動等ニシテ心臟患者百人ニ就キ八十九ハ左心ノミテ十八左右兩心ニ跨リ一ハ  
右心ノミテ侵ス又タ左心疾患ノ六十六%ハ僧帽瓣ヲ三十四%ハ大動脈瓣ヲ

侵スノ比例ナリ

(診候)僧帽瓣不全閉鎖ニ在リテハ(瓣膜病中最モ多キ疾病ナリ)心尖ニ於ケル收縮

時雜音肺動脈第二音ノ強盛第二心室音強盛、大動脈音微弱、脈搏細小、心臟

濁音部其横徑ヲ増加シテ右方ニ進ミ右胸骨緣及其以上ニ到ル心尖衝突ノ増

劇○僧帽瓣口狹窄ニ在リテハ開張時雜音第二肺動脈音強盛、第一大動脈音

弱、心濁音部擴張、心尖衝突稍強劇、脈小○僧帽瓣不全閉鎖兼狹窄ニ在リテ

ハ左心室ニ於ケル收縮時及ビ開張時ノ雜音肺動脈第二音強盛、大動脈第二

五五五



音微弱、心尖衝突不全症ニ於ケルガ如シ心濁音部ハ不全症ニ於ケルヨリモ尙ホ擴張シ脈小ナリ○大動脈瓣不全閉鎖ニ在リテハ心尖衝突外下方ニ轉シ左室及ビ大動脈ニ於ケル開張時雜音心濁音部長從テ増加シ脈搏強且速、機骨動脈等ニ於テ明カニ音ヲ聽知ス○大動脈口狹窄ニ在リテハ左室及大動脈ニ於ケル收縮時ノ雜音、大動脈第二音微弱、心尖衝突外方ニ轉シテ弱ク濁音部縱橫徑共ニ稍々擴張ス脈極メテ小且遲○大動脈口不全閉鎖兼狹窄ニ在リテハ左室及ビ大動脈ニ於ケル收縮開張時ノ雜音濁音部縱橫ニ擴張ス○三尖瓣閉鎖不全ハ收縮時雜音頸靜脈搏動○同上狹窄ハ右室内開張時雜音頸靜脈怒張○肺動脈不全閉鎖ハ第二左肋間部ニ開張時雜音濁音部右方ニ增大頸靜脈怒張○肺動脈口狹窄ハ第二左肋間收縮時雜音頸靜脈觸知濁音右方ニ増加ス心動強盛ナルモ心尖衝突反テ不明ナリ○代償機ヲ失スレバ呼吸困難、咳嗽、咯痰、喘息發作、心悸亢進、癱瘓質斯性疼痛、皮膚蒼白、水腫、尿量減少、腸胃ノ障害、栓塞ノ症狀等ヲ發シ脈疾速不正トナル

(豫後) 不長、體格強弱、年齡、攝生ノ如何ニ因テ異ナレリ  
(療法) 其治則對症的ニシテ過度ノ勞働ヲ慎ミ凡テ精神ノ興奮ヲ禁シ熱浴ハ決シテ之ヲ取ラシメズ唯々稀レニ溫浴ヲ許シ或ハ便通ヲ調整スル等其一般ナリトス而シテ代償機ノ攝生ニハ喜怒哀樂ノ感動及ビ身體ノ勞働ヲ避ケ食物ニハ肉、牛乳、雞卵ノ類ヲ與ヘ麥酒及ビ葡萄酒ハ其少量ヲ許スコト有ルベキモ

香竄物、濃厚珈琲、茶等ハ斷ジテ之レテ禁シ且ツ冬期ハ南方夏期ハ綠陰深處ニ轉地療養セシメ又貧血家ニハ鐵劑、多血家ニハ牛乳及葡萄酒療法ヲ用ヒ常ニ便通ニ注意スベシ

第四十八圖



大動脈瓣全閉鎖

既ニシテ代償機ニ障害ヲ起シ即チ心悸亢盛亂脈等ノ症狀ヲ呈ハス者ニハ心部ニ冷電法ヲ行ヒ緩利尿劑、實芟答里斯ノ類ヲ内服セシメザル可ラズ而シテ實芟答里斯ハ脈ノ遲除調整強實ヲ呈スルヤ直チニ其後服ヲ止ムベシ

○ 實芟葉浸 (一、〇)一八〇、〇  
覆盆子舍 二〇、〇  
右每二時一食匙

○ 實芟葉浸 (一、〇)乃至三、〇)一八〇、〇  
單舍 一五、〇  
右調和每二時一食匙

○ 實芟葉浸 (一、〇)一五〇、〇

心臟瓣膜病



硫酸亞篤羅必涅水 (〇、三%) 一、〇  
 單舍 一五、〇  
 右調和每二時一食匙  
 實莖葉浸 (一、〇) 一五〇、〇  
 鹽莫 〇、〇五  
 杜松實舍 一五、〇  
 右調和每二時一食匙  
 實莖丁 十滴  
 杏仁水 一〇、〇  
 右調和一日三回每十滴  
 喘息ノ狀況ヲ呈シ或ハ心悸亢進ヲ起シ  
 テ脈搏ノ唯強實ナル者ニハ實莖答里斯  
 ナ應用スベシ然レドモ久シク連用スベ  
 カラズ或ハ之レニ代フルニ左ノ丁幾チ  
 以テスルコトアリ  
 〇 ストロファンツス丁 二〇、〇  
 右一日三回每五乃至十二滴  
 〇 枸橼酸珈琲涅 一、〇乃至二、〇

---

白糖 三、〇  
 右五包ニ作り一日ニ分服スベシ  
 〇 安息香酸那篤倫珈琲涅 〇、二  
 右一回ノ量散十包チ製シ毎日四  
 乃至八包  
 〇 硫酸スバルテイン 〇、三  
 單舍 三〇〇、〇  
 右調和一日三四回每一食匙  
 脈搏微弱心悸亢進「チャノーゼ」等ヲ呈  
 スルトキハ左方ヲ用フ  
 〇 硫規 一、〇  
 白糖 三、〇  
 右研和散十包ニ作り朝夕每一包  
 〇 ベスツセルフ氏神經鐵丁 五、〇  
 複方規那丁 一五、〇  
 右調和一日三回十五滴  
 〇 實莖葉浸 (〇、七) 一五〇、〇

硝酸依的兒精 二、〇  
 海葱醋蜜 二〇、〇  
 右調和每三時一食匙  
 脈搏不整歇代スルモノニハ左方ヲ處ス  
 可シ  
 〇 硝酸偏里設林亞爾箇保爾溶液 (〇、三%ノ者) 一、〇  
 亞爾箇保爾 五、〇  
 右調和一日三回每五乃至六滴  
 氣管支加答兒チ併發シタルトキハ左方  
 ヲ處ス可シ  
 〇 硫規 〇、五  
 金硫黃 〇、五  
 安息香華 各〇、二  
 白糖 二、〇  
 右研和散五包ニ作り朝夕每一包  
 〇 硫規 一、〇  
 鹽莫 〇、〇五

---

白糖 二、〇  
 右研和散十包ニ作り每二時一包  
 心臟病ノ爲メニ喘息發作ヲ起ス者ニハ  
 左方ヲ用ヒテ効驗大ナリ  
 〇 魯別利亞丁 一〇、〇  
 右每時十乃至十五滴  
 〇 杏仁水 一〇、〇  
 實莖丁 各五、〇  
 魯別利亞丁 各五、〇  
 右調和每時四乃至五滴  
 肺水腫ノ症候ヲ發シ來レルキニハ左方  
 ヲ處スルコトヲ猶豫スル勿レ  
 〇 亞兒尼加花浸 (一、〇) 一五〇、〇  
 單舍 一五、〇  
 右每時一食匙  
 〇 安息香華 二、〇  
 樟腦 〇、六  
 白糖 三、〇



右研和散十二包ニ作り毎三時一  
包

浮腫及ビ蛋白尿ヲ起セルトキハ「セル  
テルス」水等ヲ與ヘ兼子テ左方ヲ處ス  
ベシ

○ ヲウレチン

單舎

右毎時一食匙

○ 酒石英

醋剝

溜水

右一日三回二日分服

### ○挫創及挫傷

*Vulnus contusum, conqussatum.*

ウルヌス、コンツスム、  
コンクアツキツム

(原因)皆外誘ノ負傷ニシテ壓迫打撲挫傷器械的障害ナリ  
(診候)甲症ニ在テハ組織荒蕪シテ負傷部ノ既ニ開破出血スルヲ認ム可ク乙症ニ在

心臟筋質ノ變性ニハ依的兒ノ皮下注射  
ヲ行ヒ或ハ左方ヲ處スルヲ宜シトス

○ 顯草根浸 (一〇、〇)二〇、〇

依的兒 二、〇

橙皮舎 二〇、〇

右調和毎時一食匙

神經性心悸亢進ニハ左方ヲ用ヒテ効有

○ 次硝酸那篤留謨 〇、五

溜水 一五〇、〇

右調和毎日三乃至四食匙

其他本症ニ對スル治則ニハ尙水腫ノ條  
下ニ掲ゲル所ヲ參考スベシ

テハ尙ホ未ダ負傷部ノ開破スルコトナク皮下ニ血液ノ滲漏ヲ認ムルニ過ギ  
ズ

### (療法)

挫創ニ在テハ洗滌器ヲ適用シテ創面ヲ十分ニ洗淨シ四肢ナレバ之ヲ高擧ス  
ル等凡テ患部ニ適應ノ位置ヲ取ラシメ而シテ適當ノ繃帶ヲ施ス可ク創面ノ  
貼用品ニハ殺菌綿紗、沃度防護綿紗ヲ用フ可ク又冷電法ヲ行フ等初期治則  
ノ一般ナリトス

挫傷ニ在テハ電法ヲ行ヒ或ハ沃度防護古魯胃謨ヲ塗布シテ効アリ概スルニ  
創面ノ防腐療法ニ必要ナル治療品ハ左ノ如シ

第一 二百倍「リゾール」水四千倍「イトロール」水(即チ枸櫞酸銀)○石

炭酸溶液(三十倍ノ者)○昇汞溶液(千倍ノ者)

第二 結紮糸ニハ熱湯、石炭酸、昇汞ヲ以テ消毒シタル絹糸等ヲ用フ  
ト雖ドモ沃度防護絹糸殊ニ賞用スベシ即チ絹糸ヲ煮沸シ之レチ五%

ノ沃度防護依的兒内ニ二十四時間放置シ後之レチ亞爾箇保爾内ニ貯  
フ

第三 排膿管

右石炭酸若クハ昇汞水ニ由テ、或ハ煮沸シテ消毒シタル護謨管若ク

ハ硝子管

第四 「イトロール」(即枸櫞酸銀)○沃度防護末(沃度防護末ヲ四日間



五%石炭酸液内ニ放置シ後一%石炭酸液ヲ以テ粥狀トナシタルモノ  
ヲ賞用ス。○銀綿紗○沃度仿護綿紗  
右創面撒布及ヒ貼用

第五 醋酸礬土水綿紗、綿花  
第六 卷軸帶、三角巾

創傷療法ニ沃度仿護ヲ應用スルハ實ニ有効ナル要件ニシテ世ニ之ヲ沃度仿護綿  
帶料ト總稱シ先ヅ之ヲ粉末トシテ而シテ或ハ粉末ノ儘直ニ創面ニ撒布スルコト  
有リ或ハ之ヲ桿ニ作リテ創腔内ニ送入スルコトアリ或ハ之ヲ依的兒ニ和シテ注  
入スルコトアリ或ハ之ヲ乳劑軟膏等ニ作リテ應用スルコトアリ其用法一ニシテ  
足ラズ但シ本品ノ臭氣ヲ防グカ爲メニハ「トシカ」豆、「クマリン」、「ベルガモツ  
ト」油、薄荷等ヲ混和ス可シ又沃度仿護一〇・〇中ニ石炭酸〇・〇五ヲ加フルモツ  
臭ノ効有リ

輒近クレテ氏ノ研究ニ由テ極メテ有効ナルコトヲ證セラレタル創傷ノ銀療法ハ  
大ニ賞用スベキモノナリ○銀鹽ニテ生ズル衣服ノ汚點ヲ去ルノ法ハ其ノ衣服ヲ  
左ノ液中ニ浸スコト二三分ニシテ後數回水ニテ清洗ス（昇汞一、〇食鹽二五、〇  
水二〇〇〇、〇）

- 二百倍リゾール水 五〇〇、〇
- 四千倍イトロール水 二〇〇、〇
- 右外用

○ 四千倍アクトール水	二〇〇、〇	○ クレチリン	二〇〇、〇
○ 石炭酸	各五、〇	○ 石炭酸	五、〇
○ 濃厚酒精	二〇〇、〇	○ 阿列布油	五、〇
○ 昇汞	五〇〇、五	○ 撒酸	二、〇
○ 昇汞	五〇〇、〇	○ 緩和軟膏	三〇、〇
○ 昇汞	各〇、五	○ 撒酸	五、〇
○ 格魯兒那篤留護	五〇〇、〇	○ 常水	二〇〇、〇
○ 常水	五〇〇、〇	○ 常水	二〇〇、〇
○ 昇汞	〇、五	○ イトロール	五、〇
○ 酒石酸	二、五	○ 右撒布料	
○ 常水	五〇〇、〇	○ 沃度仿護（「トシカ」豆末ヲ加ヘテ消 臭シタルモノ）	五〇、〇
○ 右調和外用（所謂酸性昇汞溶液）		○ 右撒布料	
○ （ラブラー氏）			

挫創及挫傷



沃度仿謨	五〇、〇	常水	一〇、〇
ベルカモット油	五滴	達拉侃篤謨	〇、三
右研和撒布		右調和乳劑ニ作り繃帶用	
沃度仿謨	一〇、〇	沃度仿謨	一、〇
柯々阿脂	一〇、〇	華攝林	一五、〇
扁桃油	適宜	右調和軟膏ニ作ル	
右調和桿ニ作ル (即チ沃度仿謨桿)		沃度仿謨	一〇、〇
沃度仿謨	一、〇	偏里設林	八〇、〇
白糖	適宜	阿列布油	四〇、〇
右調和同上		右調和注入料	
沃度仿謨	五、〇	沃度仿謨	五、〇
偏里設林	四〇、〇	依的兒	二五、〇
		右調和創傷部實質內注入料	

○切創及裂創

*Vulnus scissum et lacerum.*

ツルヌス、スキツ、エト、ラツ、エ、ルム

(療法)「リゾール」<sub>レ</sub>、「イトロール」<sub>レ</sub>、石炭酸、知母爾、昇汞、硼酸等ノ溶液ヲ以テ先ツ創面ヲ清洗シ○沃度仿謨或ハ「イトロール」ヲ撒布シ其創縁ヲ縫合シ「ガー

切創及裂創

ゼレ或ハ沃度仿謨「ガーゼ」等ノ制腐繃帶ヲ施スベシ然レドモ小切創ニ在テハ絆創膏繃帶ヲ以テ足レリトス尙ホ挫創ノ條ヲ參照スベシ	二百倍リゾール水	五〇〇、〇	亞爾箇保爾	五〇〇、〇
右外用			常水	適宜
硼酸	四、〇	右調和外用		
常水	二〇〇、〇	撒酸	一、〇	
右洗滌料		常水	四〇〇、〇	
四千倍イトロール水	二〇〇、〇	右調和外用		
右洗滌用		昇汞	五〇〇、〇	
四千倍アクトール水	二〇〇、〇	常水	五〇〇、〇	
右洗滌用		右調和外用		
石炭酸	五、〇	イトロール	五、〇	
常水	二〇〇、〇	右撒布料	三、〇	
右調和創面洗滌用		ホルトホルム		
苦列阿林	四、〇	右撒布料		
常水	二〇〇、〇	過滿俺酸加備謨	二〇〇、〇	
右調和同上		常水	二〇〇、〇	
知母爾	一、五	右調和繃帶用		



○ 鉛水	三〇〇、〇	○ 酸化亞鉛	五、〇
○ 右綿帶料		○ 華攝林	五〇、〇
○ 粗製明礬	一〇、〇	○ 右調和軟膏ニ作ル	
○ 鉛糖	二〇、〇	○ 硝酸銀	〇、一
○ 常水	二〇〇、〇	○ 豚脂	五〇、〇
○ 右調和濾過外用 (醋酸礬土強溶液)		○ 右調和軟膏ニ作ル	
○ 粗製明礬	一〇、〇	○ 硼酸末	
○ 鉛糖	二〇、〇	○ 巴刺質	各三、〇
○ 常水	四〇〇、〇	○ 白臘	三〇、〇
○ 右調和濾過外用 (醋酸礬土弱溶液)		○ 扁桃油	
		○ 右調和軟膏ニ作ル (所謂硼酸軟膏)	

### ○ 陰門炎

Valvitis.

ワルグネチス

(原因) 陰部ノ不潔、腫漏、子宮加答兒、尿道瘻、直腸瘻、外傷、手淫、房事過度、梅毒、腺病、蜜尿崩尿ナリ、小兒ニ在リテハ蟻蟲ニ基クコト多シ

(診候) 陰唇ノ發疹、粘膜ノ腫起潮紅癢痒痛バルトリン氏腺ノ腫大或ハ膿潰及ビ粘液膿汁排泄ナリ

○ (豫後) 良		○ 莫若越	〇、〇〇三
○ (療法) 原因療法ヲ主トスベシ局處療法トシテ百倍「リゾール」水五十倍ノ石炭酸溶液或ハ百倍ノ「クレカリン」溶液二千倍ノ昇汞水等ヲ用フ可シ電法ニハ醋酸礬土水或ハ鉛水ヲ用フベシ又左方ヲ處シテ効アリ		○ 右爲一包與六包一日三回二日分服	
○ 硫酸亞鉛	四、〇	○ 普羅氏液	三〇〇、〇
○ 餾水	二〇〇、〇	○ 右電法料	三〇〇、〇
○ 右調和洗滌用			
○ 沃度仿謨	一、〇		
○ 重曹			
○ 米粉	各一〇、〇		
○ 右研和撒布用			
○ 臭剝	一、〇		

### 病原診候豫後治則及處方畢



# 臨牀醫典附錄

## ○第一章 急性中毒診候及療法

### ○通則

中毒療法ニ三アリ

(一) 毒物排除法

(二) 解毒法

(三) 對症療法

毒物排除ノ方法ハ殆ンド同一ナルヲ以テ左ニ其通則ヲ記スベシ解毒及對症ノ二法ハ各中毒ノ條下ヲ看ルベシ  
毒物胃中ニ在ルトキハ胃唧筒或ハ消息子ヲ以テ洗フベシ。然レドモ兩者ハ共ニ欠點アルヲ以テ却リテ單ニ彈力アル護謨管(長サニ迷半即チ凡ソ八尺二寸五分管腔八乃至十「ミリメートル」管ノ厚サニ半乃至三「ミリメートル」)ヲ用フルヲ良トス該管胃ニ達スレバ該管ニ洗滌液ヲ入レ吸液器(「サイホン」)トシテ作用セシムベシ(洗滌ノ際解毒劑ノ稀薄液ヲ用フルコトヲ得、胃唧筒ニ對スル禁忌ハ酸、亞爾加里、昇汞等ニ由リテ著明ナル食道腐蝕ヲ生ジタル症ナリ、牙關緊急アルトキハ細キ消



息子ヲ鼻孔ヨリ送入スベシ  
胃腸筒、消息子、護膜管ナキ場合ニハ口蓋ヲ刺戟シテ嘔吐ヲ發セシメ或ハ吐劑ヲ用フ

上等芥子末 八、〇乃至一〇、〇  
右水ニテ捏リ一盞ノ水ニテ用フ

硫酸銅 一、〇 水 五〇、〇  
右調和吐劑トシテ先ツ其半量ヲ頓服セシメ若シ奏効ナキトキハ五分時ヲ經テ後其殘半量ヲ與ヘ而後各症適應ノ方法ヲ施スベシ

吐根末 一、〇  
右爲一包與三包奏効アレバ服用ヲ止ム

鹽酸必魯加兒必涅 一、〇 餾水 一〇、〇  
右黑色塊ニ貯フ皮下注射料半筒乃至一筒小兒ニハ四分ノ一筒以内

毒物腸ニ在ルトキハ下劑ヲ與フベシ又々灌腸ヲ用フ  
加兒爾斯泉鹽 蓖麻子油  
毒物肺ヨリ吸收セラレタルトキハ新鮮ナル空氣ヲ呼吸セシムベシ

○亞爾箇保爾中毒

(診候) 眩暈、耳鳴、頭痛、精神昏瞶、麻痺、痙攣、嘔氣、嘔吐、大便失禁、精液漏出、心動

始躍終衰兼不整、脈搏歇代、呼吸帶酒臭等ナリトス

(療法) 急性亞爾箇保爾中毒ノ高度ナラザル者ハ其衣服ヲ解キ新鮮ノ空氣中ニ頭ヲ高ク眠レル儘ニナシ置クベシ、黑咖啡煎ニ枸櫞汁ヲ加ヘ與フルトキハ往々

醒覺ヲ催進スル効有ルモノナリ 酒客譫忘症ヲ參照スベシ  
安母尼亞水 二十滴 常水 一二〇、〇

右每半時二乃至三食匙ヲ與フ  
虛脫傾向ノ虞アルトキハ左方ヲ處ス

樟腦 〇、五 酒精 餾水 各五、〇  
右皮下注射料

○嘔囉仿謨中毒

(診候) 「チアノーゼ」ヲ呈シ冷汗、呼吸絶止、瞳孔散大シ、窒息ニヨリテ死ス或ハ嘔囉仿謨ヲ吸入スルコト僅ニ數回ニシテ俄然顔面蒼白心臟機能減弱脈搏消失

シ呼吸ハ一二分間持續シ心臟麻痺ニヨリテ死ス

(療法) 人工呼吸法ヲ施シ或ハ兼ナルニ感傳電氣ヲ以テスベシ即チ頸ノ兩側ニ於テ前至筋ノ下端胸鎖乳頭筋ノ外端ニ當テ導子ヲ貼シ凡ソ二秒時間ノ刺戟ト二秒時間ノ休止ト交代シテ行フベシ



心臟機能ノ絶止アル時ハ人工呼吸ノ際強ク心臟部ヲ壓迫スベシ

○莫兒比涅中毒 阿片中毒

(診候) 急性中毒ニ於テハ頭痛眩暈、呼吸遲徐不正、嗜眠、昏睡、脈搏細徐、瞳孔縮少、皮膚蒼白

(療法) 濃厚ナル茶或ハ咖啡ノ多量ヲ用フ

酪咖啡末浸 (五〇、〇) 二〇〇、〇 鞣酸 四、〇 單舍 五〇、〇

右調和每五分時一食匙

其他亞篤羅必涅(〇、〇〇一)ノ皮下注射、羯布羅油ノ注射、人工呼吸法

○斯篤利幾尼涅中毒

(診候) 牙關緊急、角弓反張、諸筋強直、反射機亢進、脈搏增進、呼吸困難窒息

(療法) 鞣酸 三、〇 留水 一四〇、〇 亞爾答亞舍 六〇、〇

右調和每五分一食匙

抱水格魯拉爾 四、〇 留水 一〇〇、〇

右調和每一食匙

其他莫兒比涅或ハ嘔囉仿護吸入

○「ニコチン」中毒 烟草中毒

(診候) 急性ニハ脈細徐、失神、惡心嘔吐、下痢、眩暈、強直、呼吸絶止

(療法) 微温湯ヲ投シ咽頭ヲ搔擾シテ嘔吐ヲ促シ(吐劑ハ虚脱ヲ増進スルヲ以テ之ヲ禁ズ)或ハ胃唧筒ヲ用ヒ或ハ興奮藥ヲ與ヘ又或ハ莫兒比涅ノ皮下注射ヲ

行フテ其効ヲ認ムルコトアリ  
鞣酸 二、〇 卵蛋白 一〇〇、〇 留水 一〇〇、〇

右調和振盪每二時一食匙

只嘔氣ノミ有ル者ニハ左方ヲ處ス

醋 五〇、〇 留水 二〇〇、〇 單舍 五〇、〇

右調和先ツ半量ヲ頓服セシメ而後五分時一食匙

鞣酸 四、〇 留水 二〇〇、〇 單舍 五〇、〇

右調和五分時一食匙

其他強度ノ酒精飲料ヲ與フ

○亞篤必涅ノ中毒

(診候) 瞳孔散大、口内及咽頭乾燥、視力障害、頭痛、不穩、譫語、昏睡、蛋白尿、血尿、膀胱炎、疼痛性陰莖勃起、呼吸障害、痙攣其他内服シタルトキニハ腸胃加答

兒ノ症

(療法) 毒物尙ホ胃中ニ在ルトキハ單寧酸ヲ〇、〇一ヲ與フ已ニ腸内ニ入りタルト



キハ莫兒比涅〇、〇二或ハ比蘇斯知備密涅ヲ用フ

○古加乙涅中毒

(診候)惡寒、口渴、瞳孔散大、惡心、不安、譫語等ヲ發シ虛脫

(療法)亞硝酸亞密爾ノ吸入、人工呼吸、樟腦油

○實麥答里斯中毒

(診候)惡心、嘔吐、頭痛、煩悶、脈搏遲徐、「チアノーゼ」、眩暈、幻聽、重聽、心臟麻痺  
ヲ發ス

(療法)酒精飲料、濃厚ナル茶、羯布羅、依的兒

○雙蘭菊中毒

(診候)流涎、嘔氣、腹鳴、嘔吐、下痢、皮膚蟻走感覺、瞳孔散大、呼吸促迫、脈搏遲徐、  
不正、麻痺、呼吸麻痺若クハ心臟麻痺ニヨリテ斃ル意識ハ變セズ

(療法)酒精飲料、茶、精製樟腦、人工呼吸法

單寧酸 四、〇 縮水 二〇〇、〇 單舍 五〇、〇  
右調和每五分時一食匙

○麥角中毒

(診候)急性中毒ニアリテハ嘔吐、腹痛失心、下痢、流涎、胸腔四肢ニ於ケル刺痛蟻走  
感覺眩暈、瞳孔散大、知覺脫失、癲癇狀發作、脈一分時二十乃至十五搏體溫下  
降譫語

(療法)腸詰中毒ノ治法ト同一ナリ

○珊瑚寧中毒

(診候)瞳孔多クハ散大若シクハ縮少ス臭味ノ錯覺、黃色視、頭痛、惡心、嘔吐ヲ發シ  
最モ重症ナルモノニ於テハ痙攣發作ヲ來ス呼吸困難窒息ニヨリ死ス

○抱水格魯拉爾中毒

(診候)呼吸遲徐、脈搏弱少、體溫下降シ心臟麻痺ニヨリテ斃ル

(療法)人工呼吸、斯篤利幾尼涅皮下注射、依的兒、樟腦油

硫酸亞篤羅必涅 〇、〇〇二 縮水 三五、〇  
右調和三十分時間ニ於テ二回ニ服用ス可シ

○「コニーネ」中毒

(診候)流涎惡心、嘔吐、視聽障害、蟻走「チアノーゼ」痙攣ヲ發シ呼吸麻痺ニヨリテ  
死ス



(療法) 硝酸斯篤利幾尼涅 〇、〇一 餾水 一〇〇、〇 阿片丁幾 三  
十滴

右調和三分トナシ先ヅ每十五分時二茶匙ヲ用フ其三分一ヲ盡スニ至リ更ニ  
其一部ヲ每三十分時二茶匙ヲ用ヒ殘一分ハ每時二茶匙ヲ用フ可シ  
咖啡涅、人工呼吸

○依的兒麻醉

(診候) 全身知覺脫失ヲ發ス  
(療法) 安母尼亞水 十五滴 餾水 二〇、〇

右調和一回ニ吸飲セシム  
安母尼亞水 三〇、〇

右嗅入料  
其他冷水灌漑ヲ行ヒ且新鮮ノ空氣ヲ吸入セシムルヲ等ニ注意ス可シ

○結麗阿曹篤中毒

(診候) 頭痛、眩暈、呼吸困難、失神、心臟作用減弱、麻痺及腸胃症等  
(療法) 亞拉比亞護膜末 一〇、〇 甘扁桃油 二〇、〇  
右乳劑ニ作り餾水二八〇、〇ヲ加ヘ其四分一頓服而後每十分時半茶匙

○石油或ハ揮發性油中毒

(診候) 胃部壓迫、嘔吐、下痢、眩暈、顔面蒼白、心作用遲徐寒冷ノ感及嗜眠  
(療法) 油合劑 一〇〇〇、〇(連用)

○亞尼林製劑中毒

(診候) 急性中毒ニ於テハ嘔吐、眩暈、步行蹣跚、卒倒、失神、昏睡狀態ヲ呈シ脈搏、呼  
吸増加、體溫下降、チアノーゼヲ呈シ往々瞳孔縮少及痙攣ヲ發ス  
(療法) 假性麻痺涅更護水 二〇〇、〇  
右每半時一食匙

○石炭酸中毒

(診候) 頭痛、眩暈、脫力、體溫下降、冷汗、失神ヲ發シ呼吸麻痺或ハ心臟麻痺ニヨリ  
死ス尿色ハ帶綠色乃至黑褐色ヲ呈ス  
(療法) 吐劑及ビ麻痺涅更護劑ヲ與ヘ而後左方ヲ施ス可シ  
油合劑 二〇〇、〇 (每十五分時一食匙)  
パウマン氏ハ硫酸亞爾加里鹽ヲ内服セシム過テ石炭酸ヲ吞ミ石炭酒胃中ニ存  
在スルトキハ砂糖石灰ヲ賞用ス(フリーゼマン氏)



○ 尿酸及尿酸鹽中毒

(診候) 口腔及咽喉頭內灼熱、嘔吐、胃痛及疝痛並ニ薦腰部及腎臟部ニ疼痛ヲ發シ  
 尿閉蛋白尿等ヲ發シ失神體溫下降脈搏增加、不正、瞳孔散大手足厥冷虛脫

(療法) 炭酸石灰末 五〇、〇 溜水 二〇〇、〇  
 右半量ヲ頓服後每十分時一食匙半時間ヲ經テ更ニ  
 維也納瀉下水 五〇、〇 結晶硫酸那篤留謨 一〇、〇(頓服)

○ 羯答利斯中毒

(診候) 口腔及咽喉頭內灼熱煩渴、嘔下困難、胃痛及腹痛ヲ發シ次テ腎臟部ニ疼痛ヲ  
 覺エ舌及ヒ口腔粘膜ニ水泡ヲ形成シ流涎惡心嘔吐(時トシテ吐血)、血便裏  
 急後重、尿道及膀胱部疼痛、尿意頻數、頭痛、眩暈、顔面潮紅、腫起瞳孔散大脈  
 搏及呼吸遲徐淫亂症ヲ發スルヲアリ其他痙攣、妊婦ニアリテハ流產ヲ發ス

(療法) 樟腦 三、〇 亞拉昆亞護謨漿 適宜  
 右護謨合劑ヲ加ヘテ全量三〇〇、〇ニ作リ更ニ阿片丁幾十滴ヲ加ヘ每五分乃  
 至十五分時一食匙

○ 腸詰中毒及腐敗肉中毒

(診候) 嘔吐、下痢、嘔下困難、卒倒、譫語痙攣、虛脫

(療法) 依的兒 二、〇 溜水 一五〇、〇 阿片丁 十滴  
 單舍 二〇、〇  
 右調和每半時一食匙  
 蓖麻子油

○ 河豚中毒

(診候) 重症ニ在テハ俄然運動及知覺ノ麻痺ヲ發シ脈搏微弱、歇代、呼吸緩除一二時  
 間ニシテ死ス輕症ニ在テハ嘔吐、頭痛、眩暈、倦怠、知覺麻痺、舌運動及嘔下  
 困難、チアノーゼ、四肢厥冷、瞳孔散大不動等ヲ發シ一乃至數日ニシテ治  
 シ或ハ死ス

(療法) 吐劑、人工呼吸、斯篤利幾尼涅或ハ樟腦油ノ皮下注射

○ 菌類中毒

(診候) 嘔吐、腹痛、眩暈、口渴、發汗、倦怠、瞳孔始ハ縮小後散大、不安、次テ躁狂ノ如  
 ク而シテ幻覺ヲ發シ麻痺ヲ來タシ昏睡トナリテ死スルコトアリ

(療法) 亞篤羅必涅ノ皮下注射(〇、〇〇一)、樟腦油、人工呼吸

○ 蟻實中毒



(診候)嘔吐、噴泡、痙攣、瞳孔先縮小後散大、「チアノーゼ」、手足厥冷、脈搏微弱  
(療法)吐劑ヲ與ヘ興奮劑ヲ用フ

○「ドクウツギ」中毒

(診候)不安嘔吐、眩暈、痙攣、「チアノーゼ」、冷汗、嗜眠、脈搏微弱、呼吸緩徐  
(療法)吐劑、麻醉藥及興奮劑

○苛性亞爾加里中毒

(診候)腐蝕ニ因ル口腔、食道、胃ノ灼熱疼痛、脈搏不正、手足厥冷、嘔吐、下痢虛脫  
(療法)酒石酸 一〇、〇 常水 一〇〇〇、〇

右用量一酒盃ヲ頓服後每五分時其量五食匙ニ一茶匙ノ扁桃油ヲ和シテ連用ス  
(此用量ハ五%液一〇〇、〇ニ向テ解毒ノ効十分ナリ)  
又醋或ハ蜜柑橙類ノ新鮮ナル絞汁ヲ與ヘ疼痛ニハ麻醉劑ヲ用フ

○安母尼亞瓦斯中毒

(診候)濃厚ナル瓦斯ヲ吸入シタル時ハ窒息ノ感、胸部絞窄、苦悶、眩暈、咳嗽、氣道  
及胃内灼熱、粘液ノ嘔吐、咯痰、流涎、安母尼亞臭チ有スル發汗、脈搏細小及  
頻數、泌尿閉止○稀釋瓦斯ヲ吸入シタル時ハ眼球鼻粘膜ノ刺戟症狀、頭痛、

胸廓絞窄ノ感氣管支加答兒ヲ發ス○急性中毒ニ於テハ五乃至十分間ニ窒息  
ニ陥リテ死シ或ハ三乃至七日ニ衰弱ニヨリテ斃ル

(療法)醋酸 一〇、〇

右吸入料

醋 五〇、〇 鹽水 二〇〇、〇

右調和溫メテ吸入セシメ併セテ冷水洗滌ヲ行フ可シ

○安知母紐謨製劑及吐酒石中毒

(診候)口渴嘔吐、胃腸灼熱、冷汗、抽搐

(療法)單寧酸 三、〇 鹽水 一四〇、〇 亞爾答亞舍 六〇、〇

右調和每五分時一食匙

○砒製劑中毒

(診候)急性砒石中毎ニ二様アリ(甲)頸部絞窄、乾燥、口渴、下腹劇痛、嘔吐、虎列刺  
様下痢肺腸痙攣脈搏頻少不正皮膚蒼白厥冷呼吸促迫失神或ハ痙攣ヲ發シテ  
死ス(乙)症ニアリテハ頭痛、眩暈、俄然虛脫ニ陥リ痙攣ヲ發シテ死ス

(療法)砒石解毒藥、假性麻痺涅曼謨等ヲ用フ此解毒法ヲ用フル迄ノ間ニ蛋白或ハ  
牛乳ヲ飲マシム可シ



煨製麻僱涅叟謨水

二〇〇、〇

右三分一ヲ頓服シ而後毎分時一食匙ヲ與フ

過硫酸鐵液

一〇〇、〇ヲ

常水

二五〇、〇ニ混シタルモノト

煨性麻僱涅矢亞

一五、〇ヲ

常水

二五〇、〇ニ加ヘタルモノトチ、用ニ臨ミテ混ズ可シ

(砒石解毒劑)

右每十分後ニハ十五分次テ三十分毎ニ二乃至四食匙溫湯ニ混シ用フ可シ

○重土中毒

(診候) 全身衰弱、不快、惡心、頸部絞窄ノ感、嘔吐、惡心、胃部疼痛、疝痛、下痢、脈微

弱不正、手足厥冷、及痲痺、麻痺、兩便失禁、視聽障害、呼吸困難ヲ發シ心臟麻

痺

(療法) 鉛鹽類中毒ノ治則ニ同シ

○鉛鹽類中毒

(診候) 急性症ニ於テハ鑛性ノ味感、口腔乾燥、咽頭灼熱、絞窄、食道及胃灼熱、大渴

流涎、舌苔、呼氣惡臭、皮膚乾燥、劇甚ナル嘔吐、頭痛、泌尿減少、稀ニハ増加

ス脈搏遲除(一分時間四十搏)

(療法) 瀉下水

五〇、〇

硫酸麻僱涅叟謨

三〇、〇

熱湯

三〇〇、〇

右調和十分時以內ニ二回ニ分服セシム可シ

○格魯兒瓦斯中毒

(診候) 咳嗽、呼吸器粘膜炎ノ加答兒、胸部刺痛等

(療法) 杏仁水

一〇、〇

依的兒

亞爾箇保爾(九士ニプロセ)

各三〇、〇

右調和嗅入兼吸入料

甘硝石精

二〇、〇

亞爾答亞舍

餹水

各四〇、〇

右調和每五分時乃至十分時一食匙

○格魯謨酸及格魯謨酸鹽中毒

(診候) 輕症ニ於テハ胃部疼痛、口腔乾燥、惡心、嘔吐、下痢、倦怠、輕度ノ呼吸困難、

斃ル

○重症ニ於テハ劇甚ナル吐瀉、迅速ナル虛脫ヲ發シ乃至十二時間ニシテ

(療法) 重曹水ニテ胃ヲ洗滌シ次テ炭酸麻僱涅矢亞重曹水或ハ左ノ鐵劑ヲ與フ

鐵粉

五、〇

單舍

一〇〇、〇

右調和能ク振盪シ每分時一茶匙ヲ與ヘ然ル後二食匙ノ水ヲ取ラシムベシ

附錄

急性中毒



○藏化加餹謨及青酸中毒

(診候)失神、痙攣、心臟及呼吸麻痺ヲ呈シテ死ス  
(療法)硫酸銅 二、〇 餹水 二八、〇

右一食匙ヲ與ヘ五分時ヲ經テ後其殘餘ヲ與フ同時ニ冷水灌注法

○沃度中毒

(診候)急性症ハ口腔及咽喉内灼熱、嘔吐、胃痛、脈搏少、耳鳴、血便虛脫ヲ發シテ死ス

(療法)澱粉 五、〇 熱湯 一〇〇、〇 假性麻痺涅叟謨 一〇〇、〇  
右調和毎五分時一食匙

○酸化炭素中毒

(診候)頭痛、眩暈、耳鳴、眼火閃發、呼吸促迫、瞳孔散大、痙攣、昏睡等  
(療法)安母尼亞水 四〇、〇

右嗅入料兼テ同時ニ冷水灌漑法ヲ行フベシ  
麥角越 〇、二 餹水 五〇、〇(毎十五分時一茶匙)

○銅鹽類中毒

(診候)急性中毒ニ於テハ口内銅味ヲ覺ヘ帶綠色若クハ青色ノ物ヲ吐シ胃痛、疝痛、下痢、裏急後重、手足厥冷脈搏少、知覺脫失、麻痺、譫語等ヲ發ス

(療法)鐵粉 一四、〇 精製硫黃華 八、〇 單舍 六〇、〇

右調和臨用振盪シテ毎五分時一茶匙ヲ左方ト交換シテ互ニ用フ可シ  
假性麻痺涅叟謨水 二〇〇、〇 卵蛋白 四個 餹水 二〇〇、〇  
單舍 八〇、〇

右調和五分時半茶匙ヲ用フ

○鑛酸類中毒(硫酸、硝酸、鹽酸)

(診候)口腔、咽頭食道、胃粘膜ノ變色及劇痛嘔吐、虛脫、脈搏細少呼吸不正煩悶等  
(療法)假性麻痺涅叟謨水 二〇〇、〇

右半量ヲ先ツ頓服セシメ而後毎五分時一食匙ト二食匙ヲ交互増減シテ用フ  
疼痛ニハ麻酔劑ヲ與フ

○磷中毒

(診候)急性中毒ニ於テハ頭痛、嘔吐(吐物ハ蒜樣臭氣ヲ帶ビ暗處ニ光ヲ放ツ)腐胃  
炎、黃疸、肝臟痛、肝臟肥大ヲ發シ死亡ス

(療法)古的列並底油 三〇、〇 (愈々古ケレハ) 卵黃 二個  
(愈々佳効アリ)



薄荷水 二五〇、〇 單舎 五〇、〇

右強ク振盪シ毎半時一食匙全量四分ノ一服用後一時一食匙

疑ハシキ場合ニハ左方ヲ處ス可シ

假性麻痺溼叟謨 二〇、〇 格魯兒水 一二〇、〇(用法同前)

### ○水銀鹽中毒

(診候) 急性中毒ノ内服ニヨルトキハ口腔、咽頭、胃粘膜ノ腐蝕、銅ノ如キ味感ヲ覺  
エ、咽頭絞窄ノ感、嚥下困難、灼熱次ニ嘔吐、胃痛、下痢ヲ發シ脈搏頻數、不  
整、顔面蒼白ヲ呈シ虚脱ニ陥リテ斃ル○急性中毒ノ外用ヨリスルモノハ水  
銀性赤痢ト名ケ血便ヲ下痢シ著明ナル裏急後重ヲ發ス屢々汞氣性齒齦炎泌  
尿減少或ハ絶止ヲ發ス

(療法) 生卵白、牛乳及麻醉劑ヲ與フ、口内炎ニハ鹽剝水ノ含嗽

### ○銀製劑中毒

(診候) 急性症ニアリテハ嘔吐、下痢、胃痛及腹痛、痙攣ヲ發シ○慢性症ニアリテハ  
皮膚灰白黒色、全身倦怠、健忘、耳鳴、眼筋痙攣、口内炎、蛋白尿ヲ發ス

(療法) 食鹽 二〇、〇 鹽水 三〇〇、〇  
右半量ヲ頓服セシメ而後毎半時一食匙且ツ其間左方ヲ用フ

油合劑 護謨合劑 各一五〇、〇(毎半時一食匙)

### ○亞鉛類中毒

(診候) 咽頭絞窄及灼熱ノ感ヲ發シ胃痛、嘔吐(屢々吐血)、下痢(時トシテ血便)ヲ發  
シ脈搏細少手足厥冷、昏睡及虚脱ヲ發シ數時間或ハ數日内ニ死ス

(療法) 單寧酸 四、〇 鹽水 一四〇、〇 亞爾答亞舎 六〇、〇(毎五  
分時一食匙)

## ○第二章 失神及假死救急ノ法、人工呼吸法

腦貧血ニ由テ失神ヲ發シタルモハ患者ヲ水平ニ臥サシメ且ツ頭部ヲ稍ヤ低クスベ  
シ而シテ葡萄酒等ノ酒精飲料ヲ與フ又タ顔面ニ冷水ヲ撒布シ或ハ芳香性ノ藥品ヲ  
前頭部ニ塗布シ安母尼亞ヲ嗅入セシメ或ハ器械的ニ鼻粘膜ヲ刺戟スベシ  
凡テ其原因ノ何タル者ニ論フク假死者ハ先ツ之ヲ光線ノ十分ニシテ通氣ノ自由ヲ  
ル場所ニ致シ傍人ノ雜還ヲ避ケ而シテ其原因ニ從ヒ左ニ略序スルカ如キ方法ニ憑  
リ相次テ人工呼吸術ヲ施サル可カラズ

(第一) 中毒ナルモハ其療法(附録第一章中毒ノ部參照)

(第二) 腦振盪或ハ電擊ナルモハ先ツ其衣服ヲ解放シ頭部氷菴法芥子泥熱布片ニテ  
皮膚ヲ刺戟シ峻下劑ヲ投ズ

附録 失神或ハ假死ノ原因及療法



(第三)大出血ノ時ハ頭部ヲ低ク仰臥セシメ樟腦油或ハ依的兒ノ皮下注射ヲ行ヒ又赤葡萄酒武蘭桂酒熱茶等ノ興奮藥ヲ投シテ而シテ身體輸血法食鹽溶液ノ注入法ヲ行フベシ

(第四)溺者ハ口内ノ異物ヲ除キ腹ヲ下ニシテ臥セシメ腹部ノ下ニ枕(衣類ニテ代用ス)ヲ置キ二三回約三秒時背部ヨリ下方ノ肋骨ヲ壓迫シ水ヲ吐カシ次ニ背部ヲ下ニシテ人工呼吸術ヲ行フ又乾燥セル熱布片ヲ用ヒテ全身ヲ温包スルヲ可トス

(第五)溢者ニハ先ツ其絞縊ヲ解キ皮膚刺戟及人工呼吸

(第六)咽喉内異物阻塞ニハ先ツ其異物ヲ除去ス可キコト勿論ニシテ或ハ「カテーテル」ヲ用ヒテ其吸出ヲ試ミ或ハ咽頭鉗子咽頭消息子等ヲ用井テ其摘出ヲ試ム可シ凡テ機械ヲ應用スル場合ニハ少シク頭部ヲ下方ニ傾ケ且少シク側位ヲ取ラシム可ク百方其効無ク時間久シキニ瀾ルノ恐レ有ルトキハ速ニ氣管切開術ヲナサバ可カラズ

(第七)精神感動ナル時ハ先ツ之ヲ仰臥セシメ酒精飲料ヲ與フ

(第八)凍者ニハ第一其四肢ヲ折傷セザル様ニ注意シ且少決シテ最初ヨリ温暖ナル場所ニ致スコトナク先ツ雪或ハ氷ヲ用ヒテ全身ヲ摩擦シ體温ノ漸ク挽回スルヲ待テ始テ温暖ナル室内ニ入レ爰ニ於テ或ハ熱布ノ皮膚摩擦温灌腸等ヲ試ミ且少人工呼吸術ヲ專ラニシ少シク呼吸挽回シテ人事ヲ辨スルニ至テハ温酒ヲ投シ且

ツ身體ヲ温包或ハ温浴ヲナサシム

(第九)日射病等凡テ非常ノ熱度ヨリ其來レル者ニハ頭部ニ冷水ヲ灌キ冷卷法ヲ行ヒ冷水灌腸ヲ試ミ皮膚ノ刺戟ヲ施シ興奮藥ヲ投ス

### ○人工呼吸法

(第一)第四十九圖第五十圖ニ示ス如ク假死者ノ衣ヲ脱カセ之ヲ疊ミテ枕トナシ或ハ枕ヲ腰部ノ下ニ置キ仰臥セシメテ術者ハ其上ニ跨リ兩手ヲ開キテ之レヲ兩乳房下ニ當テ徐々ニ十分ナル力ヲ加ヘテ胸ヲ壓迫シ次ニ手ヲ放テ又々胸ヲ壓シ又々手ヲ放ツ一分間ニ十五回反覆スル一時間

(第二)マルシヤル、ハル氏呼吸法 第五十一圖及第五十二圖ニ示スカ如ク患者ヲ伏臥セシメテ前額ヲ手支シ術者ノ手掌ヲ用ヒテ胸側及背部ヲ平等ニ壓迫スル大約二秒時以テ呼吸ヲ營マシメ更ニ患者ヲ一側ニ回轉シ二秒時ノ呼吸ヲ營マシムル後又直ニ舊位ニ復サシメ更ニ前法ヲ反覆スルナリ(上肢ニ大損傷アル時ハ用フベカラズ)

但シ此法ハ一分時間大約十五回反覆半時乃至一時間持續ス可シ同時ニ四肢ノ皮膚ヲ刺戟スレバ尙ホ其効ヲ補フ可キナリ

(第三)シルヴェステル氏呼吸法 第五十三圖及第五十四圖ニ示スカ如ク患者ヲ臥セシメ胸部ヲ高クシ頭部ハ胸部ニ比較シテ聊カ低位ニ置キ術者其頭邊ニ坐テ



占メ患者ノ兩膊ヲ肘部ニ握リテ之ヲ頭部ノ兩側ニ伸展舉上スルヲ二秒時以テ吸氣ヲ營マシムルノ後其膊ヲ降下シテ胸側ヲ壓迫スルヲ更ニ二秒時以テ呼氣ヲ營マシムルコト反覆一分時間是亦大約十五回ナリトス持續時間モ亦前者ト同一ナルベシ上肢ニ大損傷アルハ用フベカラズ

(第四) マツキス、シユルレル氏呼吸法 患者ヲ水平位ニ仰臥セシメテ頭部ヲ少シク高位ニ置キ術者ハ患者ノ腹部ニ起立シ兩手ヲ用井テ患者ノ肋骨弓部ヲ左右ヨリ把握シ力ヲ極ハメテ此部ヲ高舉スルコト大約二秒時ヲ以テ呼氣ヲ營シメ是ニ於テ舊位ニ降シ腹壁ヲ壓迫スルヲ大約二秒時以テ吸氣ヲ營マシメ斯ノ如ク整然反覆スルヲ一分時間大約十五回ヲ度トシ半乃至一時間持續スルヲ通例ナリトス但シ此際腹壁ヲ弛緩スルガ爲メ膝兩關節部共ニ屈曲位ヲ取ラシムルヲ必要ナリ

(第五) フナスハル氏呼吸法 此法ハ患者ヲ臥仰セシメ丈五尺許ニシテ幅四五寸ニ摺ミタル布片ヲ取リ第一條ヲ用井テハ胸廓ヲ右ヨリ左ニ繞リ他ノ一條ヲ用井テハ胸廓ヲ左ヨリ右ニ匝ラシ左右共ニ乳房ノ部位ニ繞匝シテ交互對側ニ引キタル其兩端ヲ絞リ是ニ於テ二人ノ術者患者ノ兩側ニ坐テ占メ各之ヲ其兩手ニ握リテ兩側一齊ニ牽引スルヲ大約二秒時胸廓ヲ壓搾シテ以テ呼氣ヲ營マシムルノ後布片ヲ弛ムルヲ又大約二秒時胸廓ヲ舊位ニ復シ以テ吸氣ヲ營マシメ斯ノ如ク整然反覆スルヲ是亦一分時間大約十五回ニノ半乃至一時間持續スルヲ通例ナリトス

圖 九 十 四 第

